大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十二年一月二十五日印刷納本・昭和十二年二月一日發行（毎月一回一月發行）

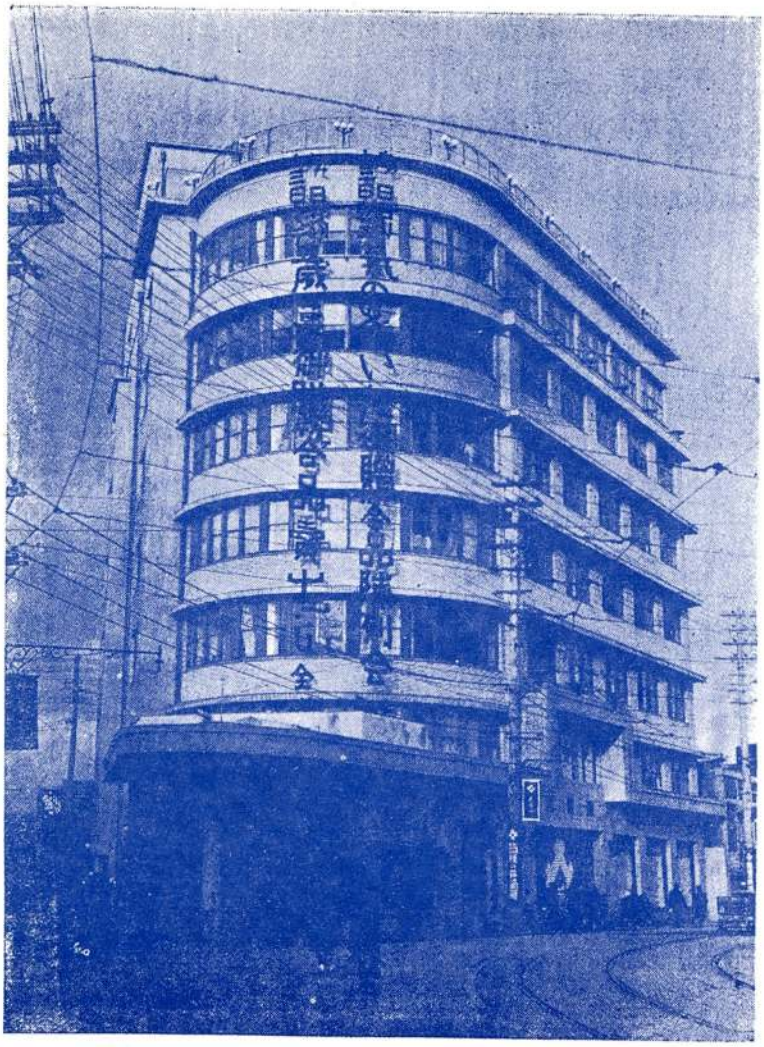
建築と社會

2

二月號

第二十輯第二號・昭和十二年二月一日

日本建築協會



弊社製納入

スチールサツシ
スチールドアー
スチールシヤツター

小倉市
井筒屋百貨店

施工　京都山田工務店殿

瀬川式特許スチールサツシ
瀬川式特許スチールドアー
朝日式特許スチールシヤター
瀬川式スチールパーチション
瀬川式特殊高級鋼製建具
並ブロンズドアー及メールシユート
其他一般的建築金物類

朝日建材株式會社大阪支店

大阪市東區高麗橋二丁目九番地(高麗橋野村ビル內)
電話北濱(23)園4714・4715・5227(3)
本　社　東京市麹町區丸ノ內二丁目(丸ノ內ビル內)
工　場　東京市城東區北砂町三丁目
各地支店出張所　福　岡、名古屋、奉　天、大　連、京　城

第六版　（昭和十一年四月改訂）

美麗表紙
本綴
上質紙印刷
菊判截版

市街地建築物法令

日本建築協會版

本書は現行の**市街地建築物法を始め本年改正實施された“市街地建築物法施行令”・“同法施行規則”・“同法施行細則”**（大阪府、兵庫縣、京都府、警視廳〔東京府〕、神奈川縣、愛知縣）等々**その他“同法關係法令”**を全部網羅編纂したるものである。本書はその性質上校閲に最も力を費し關係官廳諸技師の援助を受けて出來得る限りの正確を期した。表紙は堅牢にして本綴となし又上質紙を使つて印刷の鮮明を計りその裝幀の美麗と携帯の至便とは多大の絶讃を博することゝ確信す。

建築家、建築業者、建築學生其他苟しくも建築に關係ある者の必要欠くべからざる定本として敢て本書を薦む。

●定價50錢　送料6錢●

日本建築協會發行

大阪.北區.朝日ビル4階
振替口座大阪39975

賣捌　丸善本支店
柳々堂書店

建築と社會

第20輯 第2號　昭和12年2月發行

二月號

目　次

社會事象と計畫界……宮田秀穗（1）
衞星都市の意義……シ・ピー・パーダム　龜井幸二郎譯（7）
街の美學……元良勳（38）
“石工符牒”の話……森忠一（42）
フランスの地方計畫立法……尾崎祐治（47）

・建築隨想・

“續建築斷章”……小泉嘉四郎（52）
近視眼……尾龜清四郎（53）

ブツク・レビユー

大大阪年鑑・日本文化私觀・明治大正建築寫眞聚覽……堀口甚吉（55）

・新建築欄・

田附商店（大阪）
大庄村小學校（兵庫）
市立堺圖書館
堺市風水害慰靈塔
杉山邸（兵庫）
ロンドンフイルムのスタデイオ（イギリス）
兵士達への記念碑案（トスカーナ旅團）（イタリー）
パレスタインの新建築
ブラジルに於ける建設中の新首都
市岡電話局（大阪）
鳴尾第2小學校（兵庫）
堺市立葬儀場
新居濱住友クラブ
Mergentheim溫泉の遊步場と飮泉場（ドイツ）
パレスタインの新建築
少年齒科診療所（アメリカ）
ミドランドの住宅（アメリカ）
マンチエスター市によるWythenshaw開發計畫（イギリス）

會報……（57）

社會事象と計畫界

宮田秀穗

晩近の歩をついての社會の大きい出來事の、その突發さ、進展のすさまじさ、情勢轉換の多面さを觀るにつけ、そのとりとめ無さは縮版された素人映畫を彷彿させる。

歷史は山脈の如き起伏に富むと云ふ形容は、Variety と共に伏線的に一つの連續曲線でもあることに意味がとれるが、晩近の事象は地理的に云つても、時間的に云つてもこの形容は當らない。北支、エチオピア、スペイン、日獨協定、英國、又戻つて西安からスペインをめぐつての監視諸國の業拉へと一の事象の終焉を待たないで次の出來事が勃發する様は今日の歷史が物語的でないと云ふ點で、一こま一こまの不連續線である。ジヤナーリズムにしても、水面に浮上つた一の獲物を好奇心に輝いてゐる我々の眼に認識せしめようとしてスポツトライトを擔廻るが、遑ない矢繼早やの登場には、一の場面のみの十分な投光を許されなく、次の事象へ角度を變へて了はざるを得ない有様である。

前のしぐさが如何に發展してゐようともさも關心なささうな様子を繕ひ、一旦解決したかの様に世人をぎまんせしめてゐる常々である。かかる切替への激しいジヤナリズムのスポツトライトによつて局部的に浮出された事象は愈以つて非歷史的にみられて了はざるをえない。これはニュース映畫に迎合する近代人の個人的な好奇心を煽るレビュー効果はあつても、輿論をつくる完全な眼としては物定らない憾がある。どうしても事象を正しく時間的に頭から爪先迄客觀視して始めて得る普遍的な判斷が、輿論の輿論たる存在價値があると云ふものにとつてはこの不滿は更に倍加されることであらう。

亦一面、かかるスポツトライトは只のスポツトライトでなく、意識的にか、無意識的にか色とりどりのフイルターによつて濾光したものだけあつて、動もすれば、ものの本來の色合を病的に色付けされてゐることも疑をいれない。假に北支事變にしても、邦國内に於いては、日本人は勿論在邦中華民國人もこれに就いて正確な判斷を得んと努めながらも、その考へ方の素材となつた報道機關は一は邦字刊行物であり、一は何かの色彩を帶びてゐる中華民國出版のものである以上、一致した客觀は得られるべくもない。

併しながら、かか歪曲された事象も、一つの史的表現である限り、これらの斷片を抽象して、今日の連續して經つた歷史として讀下すことは必ずしも不可能な事ではないと思へるし、これらの切れ切れな事象を水面に突上げた處の底流の性質から、延いては世界は一の理念に對しての弛まない流れであるとすれば、この潮派は何處を指してゐるかをも見究めたい欲望に驅られる。

尤も世界のカレントを見極め、歪んだ色彩を整色して逆に現象學的に事象を眺直す事は至極困難な事柄である。が、しかし未知の世界は窺知したいこの望みから手探りに一つの緒を計畫界に求めてみやう。

計畫界の輓近の動向はこの點で、世界の底流からの派生物の1例としても觀れる。それをみるには先づ近頃の世界の大きい流れの一として茲に〃統制〃の概念で總括せられる一聯をあげなければならない。

〃統制〃の是非は兎もあれ、その潜在力は資本主義勃興以來この方の括目に價するものであつて、政治經濟總ゆる機構に顯現して止まる處を識らず、今後如何なる部門に迄敷衍されてゆくか、豫測の出來ない昨今である。

この統制をクロニクル的に觀れば、アメリカ合衆國先づNRA復興院によつて明かに世の中のものとして水平線上に浮上り、それ迄殘滓としてあつた先行の觀念的な〃自由主義排撃〃〃ブレーントラスト〃の語が一瞬にして影淡くなつたのは最近のことである。これは資本主義進國としてのアメリカに止まらない。邦國もNRAに代るに調査局の形態の完成から、昭和11年末は國家統制は總ゆる唉いた論爭の花を外に、遂に電力統制迄ひた押しに押詰めたのである。今後、この滔々たる流れは阻止せられそうにもなく、アメリカ流統制の總帥ルーズベルト氏が再選され、猶ニューディールは米國行政最高裁判に於て形式的に否定されたとは云へ、ル氏本人未だこの〃統制〃は時代に適つた役割をなしたと回想してゐる今日、何らかの形態を以つて、再生産される事は疑を入れないことである。邦國に於いても、今後の調査局の出し物は世人の注目の的である以上未だ上昇の一路を辿つてゐるやうである。これは或人の云ふ、資本主義の必然的發展の一段階として全面的に顯れた國家的結束の先行であと見做すならば、社會の一斷面としての〃計畫〃世界への此の反映を探索するもあながち徒勞なることでもないであらう。

茲に〃計畫〃の辿つてきた道程を省みよう。曾つて、グロピウスが都市的計畫として〃大住宅地〃(1930年)を提唱した頃は〃建築經濟合理化〃(同年7月)を首唱して猶日淺く、計畫、建築擧つて人間の住むための目的に一次的合理であれと云はんばかりの彼の言に世人はこれと云ふ纏つた批判をなし得なかつたのである。このアイデアは、そのかみ、英國に於ける田園都市の觀念、スツトガルトの計畫、ウイリヤム・ペンのフイラデルフイヤ計畫案に現はれた意圖、シヤルルス・ランファンの計畫等に窺はれる人間の都市に對する欲求とは、その間幾多の差異を認めても、何ら本質的なギヤツプを探出せない事は今更對照さして闡明する迄もない事である。グロピウスは當時の社會の目指した目標の代辯者であつた許りでなく、當時迄繼承されて來た計畫、建築の一次的欲求の合理化運動を更に深いものにしたことは確である。

このアメリカ建設時代よりグロピウスへの一期は恰も資本主義勃興より、繁榮期への一筋道を辿りつつあつた資本主義歷史の一節でもある。このグロピウスの建築合理化運動と

云ふ土壇場は、この文化の生みの母も帝國主義只一つの逃避路のみを殘されて。押詰められ、かすかに產業合理化等によつて前期資本主義の疲勞物質に氣息奄々としてゐた時分に符合してゐたのである。この喘いでゐた深刻な1期間は、希望に滿ちてゐた未完成の初期に較べて總ゆる點で格段なものであつたにせよ、その兩者の間何らの質的變化を見出し得ない事は他面、この母體から生れた建築と計畫の双生兒も軌を等しくするものである。

併し今日この嫡出子は既に異つた情勢の元に置かれやうとしてゐることは、既製のグロピウス時代の機械的合理化主義に先づ改竄を施し、新しい分野に目を注ぎ質的轉換に必要な總ゆる工作を以つて血路を見出さねばならなくなつた〃せつぱつまりさ〃を見ても推して測られる。晩近アメリカに於ける政治、經濟上の諸提案と並立しての國土計畫、州計畫、資源局の誕生はその生きた證左である。この顯著な世界的一般現象は、冒頭に於いて述べたところの過然性を多分に內包してゐるかの様な出來事とは考へる水準の高さとしては同一視すべきものでなく、これは資本主義の當然の過程であつて、意識的な方策として在つたトラスト、カルテル、コンチエルン等の形態の私的經濟統制の後に續くべき、所謂資本主義の正當な發展の一段階への移行の開始としてみるべきものである。只既往に於いて見透したこの事が豫期に反して滔々として視野を掩はんばかりに接近して來たことによつて、我々は畫期的な想ひをしただけのことである。經濟が幾分か理論的にながめられたことによつて、國家統制的生產方法を考へ出された如く、〃計畫〃も幾分の理窟責めからその統制化と意識的產業生產を目標にせざるを得なくなつたのである。この〃計畫〃の一次的より二次的への傾きの度合はルーズベルトの計畫行政方針を瞥見する迄もなく、1633年より1936年の僅々4ヶ年に亘る短期間に國土計畫局（National Planning Board）——國土資源局（National Resourse Board）——國土資源委員會（National Resources Committee）と生產に接近せんとしその改稱に遑がなかつた事からも容易に察知出來る。1933年7月、國土計畫局案の執行をみる迄の〃州畫〃と云へば、前述の如く一次的な人間の集合體の生存を主題とする所謂英國式田園都市計畫の概念より轉化された異性體とも云ふべきもので、この年度頃から初めて生產的要素が〃計畫〃に成文化されたものとして1933年案は畫期的なものである。當時執行の州計畫の共通事項には、從來の建築物の建設、市計畫等の外に、茲に目新しく生產的な項目として、天然資源、(Natural Resource)、再移民（Resettlement）が重要視されてゐる。

このアメリカ式州計畫の本意はミルス氏の云つてゐる、〃現在人民の大部分が經濟的困難に直面してゐるのは主として全人民に最も利益に各種資源を活用せざることに因る、即ち將來を豫想し之に適應する綜合的計畫を考慮せざりしことに因るのである。斯くして不幸な社會的、經濟的狀態を現出し、公費を濫費し、人民は豐富な天然資源、生產力其他人的施設を擁しながら無益な苦しみを味ひ〃（尾崎氏論文より）蹤く當時迄の情勢へ着目することからアメリカ合衆國全土に亘る州計畫が成立したのである。

かかる資源の調査を立脚點として、州の綜合的、經濟的開發が實施される今日のアメリカの州計畫は資源の恩惠に負ふ處が多いのである。

この考へ方はアメリカの特産ではない。ナチス政策の一つの題目 Landesplannung から行政區畫を無視した經濟的ブロックを單位にしてゐることから推しても、ほゞ、この考へを前提として出發したものである事がわかる。

この地方に資源を求める事は强ち資本主義國の專賣ではない。更に蘇聯に於けるゴスプラン(國家計畫局)の擧げたこの方面の實績は偉大なるものであつて、これは克く同共和國今日の基礎を築いたと云はれてゐる。1917年10月、同政府首腦部は國家計畫局を設け、鋭意同國資源の調査に從事し、以つて同國の產業發展に決定的な寄與をしたのである。之の一例として帝制時代石炭の埋藏高は1400億噸至1500億噸と推定せられてゐたが、同局に依る積極的調査の結果は實に 10000 億噸の多量の石炭が埋藏されてゐた事が判つた。從來工業資源に於いて比較的劣るとせられてあつた同國が實は世界無比の好條件國たる事を識つた譯である。石油にせよ鐵にせよ其の他の產物に於ても多くの資源を國土中に藏してゐることを發見し、今更ながら驚異すると共に同局の調査を基礎とし安んじて5ヶ年計畫遂行の決定を抱くに至つたのである。如斯、今日の同國と以前の同國の國家資源に對する見積の大きな開きは全く從來の官吏が專ら特權の城壁の中に安逸を貪り自己の財產保全以外には國家的資源の開發に志ざすこと等は全く念頭になく現狀を以て滿足し何等綜合的な科學調査をしなかつたことに起因してゐたのである。如斯、同國に於て國家計畫局の利用宜しきを得て、歐米先進國に遲るゝこと約半世紀の後、後進的產業狀態を脫し、今や彼等を追越さんとしてゐる有樣である。(『市政研究』に於ける和久田實氏の『1936年版蘇聯邦要覽』の紹介より)。

我邦の今日にても、緊要な主要事項のみ事更に19世紀的な自由主義をふりかざして巧みに回避してゐた政府は國家の任務は單なる公安の維持にかぎると云ふ今日迄の所謂〃夜警國家〃の域を一步出でんとして、ここに國策樹立遂行の綜合的統制機關の設立がはかられたのである。その現實化は前述の調査局の後に續くものとして昭和11年末法制局が立案した總務廳、調査局が成立した總務院として現れたのである。前者は企畫局(調査局の改稱)情報局(情報委員會の改稱)資源局及び統計局によつて構成され、後者は總務、企畫、豫算、情報の各局に分たれてゐることは周知のことである。この遲蒔きながらのゴスプランは一に前述の考へ方の現實への擡げに外ならぬものであつて、この成案は1ヶ月も經たぬ內に(昭和12年1月12日の最後決定案)中央行政機構改革に關する案として、遂に情報委員會を存續さす外、企畫、資源、統計の三局及び帝國經濟會議の設立の運びに至つたのである。

孰れも、資源であり國家的統制である。この國家的統制も經濟的と云ふ背景が强く附纏つてゐる。實に、世界を通じてのこの滔々たる奔流は、產業立國の我邦の計畫界を見逃す

わけはなく、特殊國的に彩られ、風土順化され所謂地方計畫の概念と迄なつたのである。

大正8年、現行の都市計畫の端緒ともなるべき都市計畫法制定され、且つ都市計畫委員會が官制として設置されてこの方、この筋の擔當者の焦點は一途に都市の何らかの計畫に向けられ、その技術を傾けて都市の解剖、構成に餘念がなかつたのである。しかし十數年の努力の賜は、對象たる都市が、對象に採上げる以前より既に都市であり、手綾い工學技術では根本的には如何ともしえない既成經濟機構の一であるといふ嚴然たる事實を悟識つた事である。更に都市の實體は人形が人形師に操られるが如く經濟諸力に作用され、可視的な、都市形態はこの實體から派生した色とりどりの美しい泡沫であり、この絢爛たる泡沫に都市計畫の目標は茲にあるかくの如く心を奪はれてゐる事をも自覺したのである。この自覺は併せてこの都市經濟の壓力の加はつてゐる根本的な事故に觸ては全く無力で、抽象的である自身をも內省したのである。

併し〃計畫〃は既成都市に見切りをつけ、英國式田園都市を回顧するには、あまり世の中を多く識過ぎてゐた計畫擔任者であつたのである。このスランプに陷らんとする處を危く救濟したのは、前述の資源、統制と云ふ世界の波に浮んだ地方計畫、國土計畫のサルベーヂ船であつたのである。その內、最も大きく目に映じたのは、ルーズベルト政策と資源局との結託である。對岸の御手並を見習つたのか、偶然の合致か茲に當座の目標を地方に得たのである。

1、既成都市のみに據る事を抛棄して、未だ極度の經濟力の浸潤してゐない未完成地域に着眼すること。

2、資源等の名稱をもつて、計畫基礎から經濟と結びつくこと。

この二つの主題目を得て、再び活潑な活動力を盛返へさうとしてゐる今日の計畫界である。第3回全國都市計畫會議に提出された近畿2府5縣の意見書はこの意圖が明かに顯れてゐるので興味がある〃地方計畫の趣旨並に目的とするは、大都市の不健全なる過大化を抑制し、其の膨脹力を衞星都市に分散せしめるため、適當なる農耕綠地の保存、住宅及工場の聚落計畫を策立し、一體として最も經濟的な健康的な有機的關係を保持し、以て相互の健全なる發達を期することにあり、之は從來の都市計畫のみを以てしては到底實現を期し得なかつた點である。從つて、地方計畫の區域は之等の目的を達成するに必要なる範圍、即ち母市と地理的、經濟的、社會的に緊密不可分の關係を有する範圍と定むるのが最も適當と考へる〃と提議された。茲に留意すべきは資源である。

アメリカの資源局、蘇聯邦のゴスプラン、邦國の地方計畫、孰れも資源に核心を見出してゐるわけであるが、かかる資源は生產諸力の一としての價値であつて、資源のみの絶對價値としての有難さではないのである。

この點、生產が第一義的なものである。

從來邦國に於ける窒素肥料工業のはかばかしくない生產力は窒素肥料の資源に乏しきに

よるとの因果論は今日虚無的な考へとして省みられなくなつた。かかる資源の乏しさは此の工業の生産に何らの根本的な桎梏とならない。交換價値を持たない空氣中の成分中より、電力によつて窒素が分離される事は工業的に實證され、土地埋藏資源はその存在價値を危まれやうとしてゐる今日である。これは一例に過ぎない。生産力が天惠物質に大きい制御を感じてゐない事は、邦國の商品生産力が物資豊かな諸外國を遙かに凌駕してゐる事から推しても理解出來る。ドイツ政府の地方計畫が個人的な事業家が不毛の地として省みなかつた地域を殊更に卜してゐる事も亦この見地より理あることである。生産力を決定する諸々の力として、勞働力も亦大きいファクターとして擧げる事が出來る。殊に商品生産社會に於いては、自然力としての人間の勞働力、社會力としての人間の勞働力を輕視しては生産の中樞は摑めない。現に一特定工業を中心とする地方計畫の一ブロックを考へても、その工業的生産能力を得るには、不可避的に從屬分子として相應する一住宅ブロックとして多大の非生産的施設への投資を强ひられる事を想ひ巡らしても理解出來る。資源——生産——勞働力の三者の相關をみるとき、邦國は不幸にして、アメリカ或ひは蘇聯に見るが如き、生産の大きな原動力たり得る豊な天然資源に惠れてゐないが、併し人口過剩による豊かな勞働力は優に之に代るに餘りある。邦國に於ける地方計畫の特殊性亦茲にありと云へる。

地方計畫が一の未來の發達を約する意識的計畫である限り、大いに想ひを茲に致すべきである。

上述、簡略ながら、この數年來の社會事象としてみた經濟的統制計畫と地理的計畫と一脈相通づるものであることを確かめんとして、一般的な社會の事象としてみた資源局、ナチス政策、總務廳案と、對蹠さすに州計畫、ドイツ地方計畫或ひは邦國の計畫界を以つて。等目的傾向のあることを探求せんとした。そして、一般的社會の動向と計畫界のそれとはその理念の明確さに於いて恰も同じ水準のものであるかの如く表現した樣である。しかしそれは後者の過大評價の嫌が十分にある。地理的計畫界は聲は大きいが、一般の經濟的計畫と較べて十分濃度の高い明確なものとは更に云へない。

しかし理窟から云つて、母體と同樣嫡出子のこの計畫界ももつと實質的に强調され、一般社會意識の反映がもつと多分であるべきである。今後この平均のとれない不公平な割當てを檢討して、この一般意識の反映度の再分配を求める事は我々としても望ましい事ではあるまいか。(完)

衛星都市の意義

シ・ビ・パーダム
亀井幸次郎譯

譯者註 英語の"Building"が日本語の〝ビルデング〟と必ずしも其の言葉の持つ内容が一致しない如く本稿の著者パーダム氏の Satellite Towns と現代我國の專門家の間で稱へられて居る所謂〝衛星都市〟とも必ずしもその内容が同意義でないかも知れない。けれど彼が本著に於て主張するところの"Satellite Towns"の内容は我國の衛星都市的概念へ寄與するところすくなくない、と信ずるが故に、淺學をも顧ず此處に譯出し識者の參考に供した次第である。尙ほ、譯に用ひた臺本は C. B. Purdom氏による1925年版 "The Building of Satellite Towns" —Part Ⅰ, Chapter Ⅱ; What is meant by Satellite Towns" (P.25～51) であるが、淺學の故に、若しも原著の價値を損ずるものありとせば譯者の罪である事を附記す。

尙著者を紹介すれば、シ・ビ・パーダム氏（チヤルース・ベンジヤミン パーダム）は1883年10月15日生（本年で數へ年54歳であるわけ）れの所謂ロンドン子である。彼は1925年頃には田園都市株式會社の監査役であり、國際都市、農村及田園都市聯合協會の名譽書記官であつた。1902年頃より田園都市運動に參加し、此の著書が公にされた頃には田園都市及都市計畫に關する財政問題に於て特異性のある手腕を振つて居つた。

彼れの今日までにものした著書の主なるものは〝田園都市〟(1913)、〝戰後の田園都市〟(1918)、〝理論及實際的都市計畫〟(1921)、及〝衛星都市の建設〟(1925)等がある。

人間としての彼は、勞働に讀書にそして演劇等に趣味を持ち、殊に彼れの、田園都市演劇協會の素人芝居に於ける活動には素晴しいものがあつた。(1925; Who's who及 Garden Cities and Town Planning, July, 1926. P. 149. より)

既存の土地を現在の狀態より開放すると云ふ問題は、相當困難な問題であり且つその進歩も極めて遲々たるものがある。けれども只單に彼等の狀態を擴大すると云ふ問題になると比較的容易なる問題となる……。我々は、周圍に無關係に擴張を行つたり或は累加する事による有害な發達を阻止せねばならない。我々は保存空地を用意すると同時に、產業と人口の膨脹の爲めに確定的に組織された計畫と、廣大にして且自給自足の可能な單位都市を確持せねばならない。我々は是等の單位が適當に配置される爲めの地方計畫を用意し、且つ出來得るかぎり、此の單位内に於ける生活の地方的特色を附與するに必要なものを用意する設計をなさねばならない。そして又各單位それ自身はあらゆる必要な部分を含まねばならない、何故なれば各部分のスペースは、擴張の爲めのゆとりとせねばならないからである。
——レーモンド アンウイン

§ 1

今や衛星都市を定義付け得る機會に到達したのである。廣義の解釋では互に他の都市に依賴して存在する都市、例へばロンドンのブライトン及綿花都市なるランカツシヤのブラックプール（Blackpool）等の都市は衛星都市であると云へるかも知れない。大都市の近隣に於ける多數の小都市は、大都市に於て仕事に從事して居る人々の爲めの居住地となつ

て居る。で、かかる範圍にある多數の都市も又衞星都市であるかも知れない。が然し現代相當に使用され且つ此の著述にも可成使用されて居る此の"衞星都市"と云ふ言葉は、より特別な意味を持つて居るのである。此の言葉は G. R. Taylor 氏が、彼の論說(此の論說はその後 Satellite Cities と云ふ題目となつて1915年ニューヨークに於て發行されて居る)に於て使用されたのがその最初の様に思はれる。彼はその論說に於て、シカゴ、セントルイス及米國に於ける他の諸都市の近隣に建設される多數の工業郊外都市(Industrial suburb)に就て記述して居るのである。彼は、稠密せる都市より周圍の田園地へ逃れて行く米國工業都市が目標としたその傾向を示し、且つ工業都市への雇用者の爲めに建設された都市の形體として、衞星的に各自治體が設立さるべき事を主張して居るのである。Taylor 氏は、彼の研究の結果から、都市計畫及地方計畫に關する一般的原則に就て何等の推論をも下してないと雖も、都合好く設計された是等の都市は、居住に對しても或は又工業に對しても非常に有利なる事を力說して居る。そして彼は都市計畫(community planning)への要旨として、此の主張を適用して居るのである。

都市計畫に關連して今日使用されて居る"衞星都市"と云ふ言葉は、英國に於て大戰後、大都市に對して衞星的存在であると云ふ特殊な都市の單位としての田園都市的思想が一般化した時、再び田園都市運動の復活による討論等の刺戟によつて惹起された言葉であつた。で、現代は都市生活者の社會であり、且つ政治的權力は都市にのみ付與されて居る今日、(此の場合特質と云ふことから全く離れて)居住者に魅力を與へ且つ大都市を支配する様な田園都市建設の提案を必要として居つたのである。何故なれば衞星都市と云ふ語義は田園都市と同意義となつたからである。が然し、恐らくは衞星都市それ自身が必ずしも田園都市を想像する必要はないとしても、それが田園都市の影響の下に設立されたとしたならば、例へそれが如何に劣惡な都市と雖も、衞星都市と云ふことは出來やう。或る人々のなかには、此の田園都市と衞星都市と云ふ此の二つの概念を出來る限り區別せんと試みた者もあつたが、それは結局、殆んど無益な努力でしかない事がわかつた。何故なれば、現今、全く新しい田園地若くは廣大なる未居住地にあらずんば建設し得なかつた如何なる新しい都市でも、それ等は既存の都市の影響範圍内に於て實際的に或る關係を互に持たねばならぬものであり、且つ今日まで衞星都市建設として提案されたものが、田園都市建設の提案でなかつたこともなかつたからである。であるから、本著述に於ては、田園都市又は衞星都市なる言葉は互に交換し得る語義を持つものとして使用する。

故に、衞星都市とは、現代都市が、經濟的、社會的及教化的特質を獲得し得た協同生活を享有する文化的單位にして、それ自體としては完全なる、獨立性を有するも、尙且つ大都市とは從屬的關係を維持すると云ふ、全體的なセンスを持つ都市を意味するのである。けれども、之れは村落(Village)を意味しないのである。何故なれば、村落は本質的に都市とは異なるからである。更に又所謂郊外(Suburbs)であるとか又は編入併呑された如何な

る形態の自治體（commuunity）及編入と云ふ過程を經て他の都市に併呑された如何なる都市をも意味しないのである。で、結局此の"衞星"と云ふ語義は星學上のセンスで使用されたもので、即ち形而下的區別に外ならないものにして、物體が更に强力な物體の影響の下にあつて且つ獨立的存在をなして居るものに就て使用した言葉であるに過ぎないのである。

§ 2

今、此處に於て定義を與へた如く、衞星都市と云ふのは、田園都市の事であるかが、然らば、田園都市とは如何なるものであるかを考察する必要がある。即ち田園都市のアイデアは1898年ロンドンに於て發行された。"明日"（To-morrow）と題するエベネツツアハワード氏による著書（此の本は1902年に"明日の田園都市"—Garden Cities of To-morrow—と云ふ表題で再版されたもの）がその最初であつた。此の著書に於てハワード氏は、英國の農耕地域の心臟に、技術と衞生醫學との現代的手法が適用さるべく、そしてあらゆる階級の人々の爲めに健康にして且つ美しい住宅の收得と、生活と勞働へのよき狀態を招來すべく、出來得るかぎりの貢獻を我々はなし得る事を證明し得る手段として、人口 32.000 を有する都市建設を提案したのである。これによると、經濟的、商業的そして財政的等の根據を持つたかかる計畫は、實行し得べきものである事が示されて居るのである。此の計畫には更に次の事項が含まれて居つた、即ち一つの田園都市の成功は他の田園都市の建設を誘導するものであらう。そしてそれは次の事を意味するものであらう。と、

1 田園地域からの人口の移住を漸次的に阻止し、最後には逆轉せしむる。[1]

2 廣大なる土地と有益なる企業（Profitable employment）は、產業と資本の爲に新しい吐口が與へられ、且つ漸次的に失業者を吸收すべく誘導的に開設される。[2]

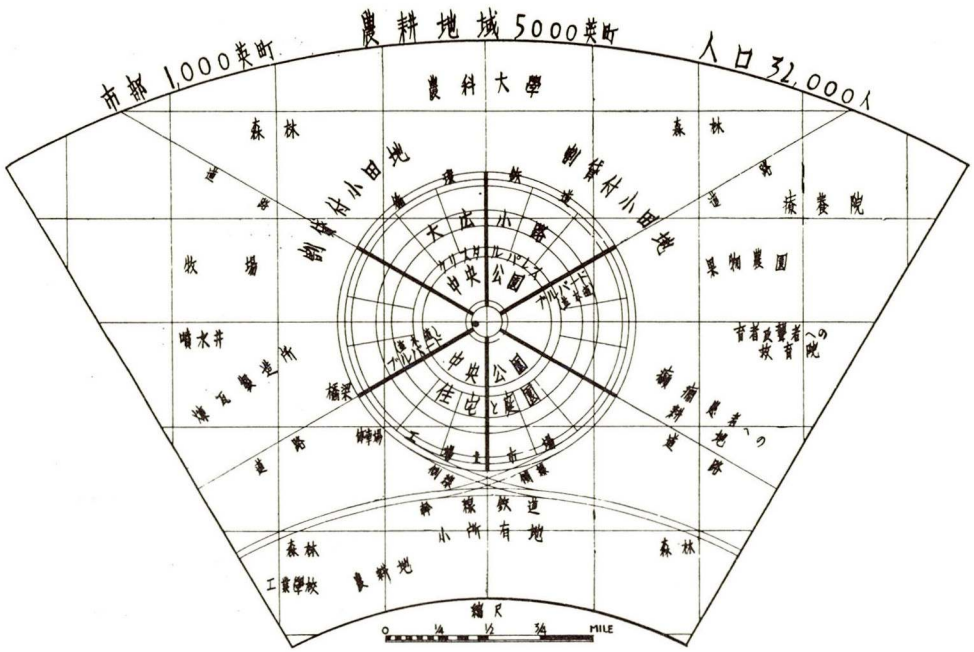
3 自治體（都市）への生產力と商品に對する有効なる需用が增進する。[3]

4 現代の實行的でないことが明白なる社會と經濟の改革を見限る事が出來る。[4]（第1及2圖參照）

此の田園都市建設の爲めに、6,000 英町（エカー）の土地が農業的價値あるところに購入される筈で、且つ經營地は"第一に社債權者の爲め……第二には建設さるべき田園都市住民の爲めに"[5]……信托されてある。都市は經營地の中心部に建設され而もその廣さは經營地全面積の $^1/_6$ にして殘りの部分（$^5/_6$）は、農耕地域として此の都市の周圍を圍繞することになつて居る。で、是等のアイデアはダイアグラムを以て說明されて居るのであつて、ハ

註 1 Garden Cities of To-morrow, Chaps. i, ii. 及 iii.
註 2 前揭書 PP. 93, 139.
註 3 前揭書 P. 117.
註 4 前揭書 Chap. XI.
註 5 前揭書 P. 4.

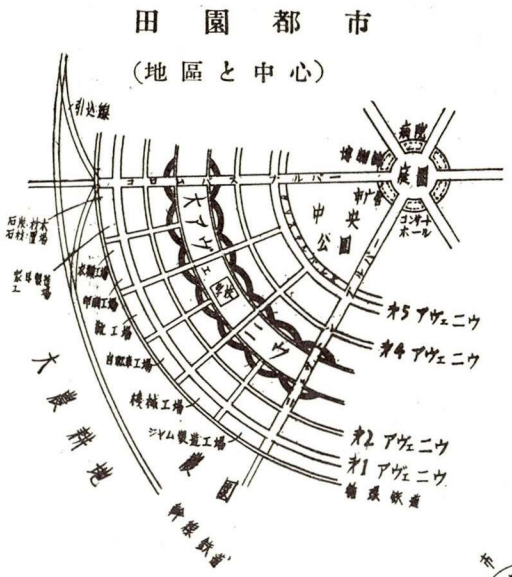
——圖解式-田園都市——



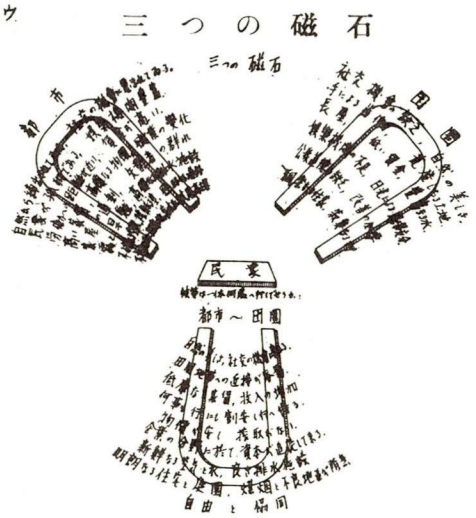
（第1圖） エベネツツアハワードによる田園都市のダイアグラム（To-morrow より 1898）

ワード氏は、大都市が今尚ほ發展の過程をたどつて居るのに農村地域の人口が遞減して行くのは、社會的發展の不健全なるを暗示するものであり、そしてこれは一般的輿論と一致するものである事を說明して居るのである。彼は有利なる產業の機會、進步發展への希望及快適なる社會生活等の形體を備へ、而も今日まで如何なる大都市にも發見し得なかつた此の自治體が更に魅力のある田園地の新鮮なる空氣の充滿する眞只中で一體如何なる問題が惹起し得るであらうか？と云つて居る。そして彼は更に續けて、"都市と云ふものは人々を引き付けるところの磁石であり、且つ農村も亦その磁石の一つである。が然し、全體を通じて平均して見ると、農村は前者より比較的に引力が少い磁石である"。と云つて居る。故に其處には當然の歸結として、此の兩者のいづれよりも强力なる引力を有する磁石が考へられる譯である。（第3圖參照）で、それは、都市生活と農村生活の適當なる組み合せ——都市～田園なる社會——による田園都市なる社會であると、彼は主張して居るのである。人々は人口稠密なる都市から此の新しい田園の殖民地へ自發的に移住する事を希望して、ハワード氏は、その提案の討論に於て、次の如き故 Alfred Marshall[6] 教授による主張を引用するのが常であつた。即ち Marshall 教授の主張によると、生產工業に於

註 6 The Housing of the London Poor, Contemporary Review; February, 1884.



(第2圖) エベネツツアハワードによる田園都市のダイアグラムの一部分 (To-morrowより1989)



(第3圖)〃三つの磁石〃 ("To-morrow より 1898)

ける雇主は、勞働者が此の田園地へ移住して、新しいコロニーを形成するのを援助するべく委員達を勸誘せねばならない。と云ふのであつた。此の提案に織込んである意圖は、かかる農村の一定區域への人口の大移住は、該區域に於ける地價の騰貴は必然的促進せしむるであらう。だが然し、冒險的に此處へ住居して來て此の事を惹起せしめた人々に對する施設も當然それだけの價値を確保すべきものである。と、ハワード氏は云つて居る。ハワード氏の理想をなす他の素因は Wakefield 氏による〃植民技術に關する所見〃(A View of the Art of Colonisation) に就て註釋が試みられた時 John Sutart Mill によつて說明された所謂都市生活と田園生活の合理的結合と云ふ考へ方に負ふところが多かつたのであ

る。"殖民(コロニゼーション)する事に關するWakefield 氏の理論には、注意を覺醒さるべき多くのものがあつた、そして更にまた感動せしめらるべき多く事の、ある事も疑いなく期待されて居る。……彼れの理論によるならば、殖民(コロニー)地は周圍の農耕地帶に比例して第一にその都市人口の構成を行ふべきであつて、次に都市はその利益を享有し得る程度に適當な距離にある市場へ、農民が彼等の生産物を容易に運搬し得る利便を奪つて仕舞ふ程廣大にして且遠距離に散在せしめざる事を確保する様に分散せしめる"[7]。と、云ふのであつた。そこでハワード氏は此の考へを更に發展せしめて、農耕地を以つて互に分離され且つ小都市に對して衞星的概念で配置されて居る都市の組み合せを示す事によつて彼れのアイデアを導いて行くのに成功したのであつた。即ち此の點が、或る程度に於て彼の著述中最も興味あり且つ獨創的な部分でもあつた。彼は、都市の周圍が保存空地によつて圍繞されて居るオーストレリアの一都市、Adelaide の發達狀態を研究することによつて彼れのアイデアの基礎を置いたのである。"最初の田園都市が建設されたならば、それが如何様に發達するであらうか?" と云ふ質問に對しハワード氏は次の如く答へて居る。——"恐らくは議會の權力下で——農耕地域それ自體のなかに、そんなに遠くはない距離内に他の田園都市が建設されるであらう。であるからその新しい都市は、それ自身農耕地域を有する譯である"[8]。そして一群(グループ)の都市に對する彼れの考へ方は、——一群に於ける各都市は互に異なりたる設計の上に成立するが、更に全體として各々がその一部たるところの平均を保つ様に、よく考慮されて計畫構成されたものでなければならぬ"[9]、と云つて居。即ち此の點より我々は"衞星都市"に關するアイデアを理解する事が出來ると同時に、此のアイデアが如何に田園都市の根本的概念を克明に物語つて居るかを表明するものである。(第4圖參照)

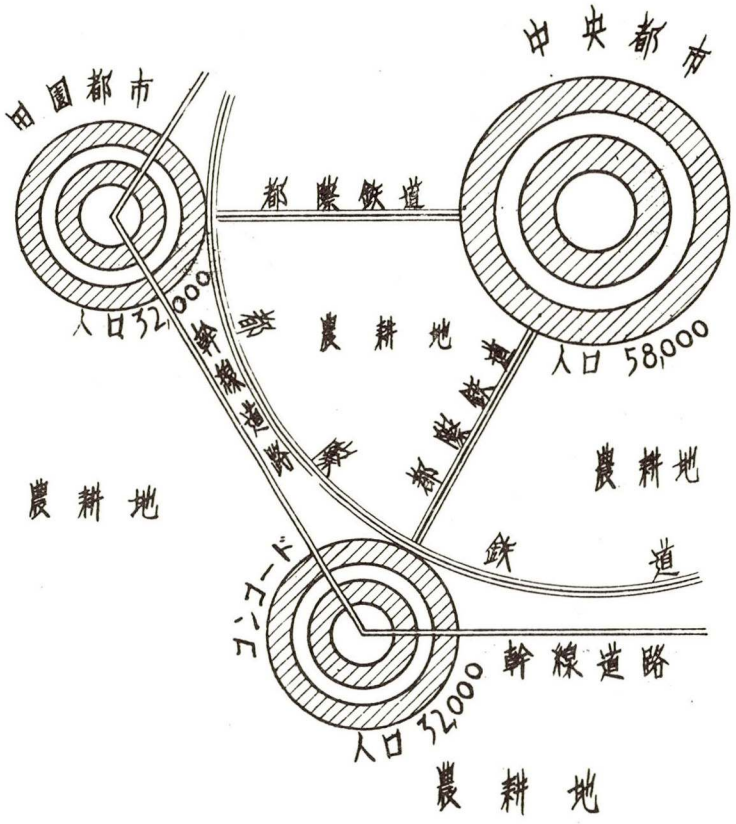
§ 3

ハワード氏のかかる著書が發行さるや忽ちにして一般の興味を非常に刺戟したのであつた。そして數多い討論の後漸くにして、彼れの提案に從つて都市建設の企圖が開始されたのであつた。所謂第一田園都市なるレッチワスは、彼の著書が世に出てから5後、即ち1903年に創設されたものであり且つウエルウィンの第二田園都市は1920年に創設されたものであつた。是等二つの田園都市はロンドンの衞星都市である。たとへ此のレッチワス田園都市は衞星都市として出發したのではないとしても、發起者達(Promoters)の考へとしては寧ろ田園都市の實例として新しい都市 *do novo* を設立するにあつた。と云ふのは、それがロンドン地方の範圍内にある事實よりして、その發達と將來に就ては、その地方の範圍内として考へ得るからである。が然し之れと反對に、レッチワスより約12哩以上もロン

註 7 Elements of Political Economy, Book 1., Chap. VIII. §3.
註 8 Garden Cities of To-morrow, 129頁、130頁、
註 9 前揭書、128頁、

——田園都市圖解——

廣々とした農耕地帶に接し且つ高速度交通機関がその間を敏速に連絡する都市発達の正しい原則。



（第４圖） 衛星都市的田園都市を示すハワードのダイヤグラム

ドンに近接して居るウエルウィンは、その土地が如何に開發さるべきやを示す考へで、大都市を衞星的に確定的關係を持つて建設されたのであつた。レッチワスは人口35,000の住民への都市として計畫され且つ其の位置はロンドンより32哩の距離のところにあるのである、然るにウエルウィンは人口 40,000 を有する都市として計畫されたもので、その位置はロンドンから約20哩の距離のところにあるのである。此の二つの田園都市はロンドンから北部へ貫通して居る同じ鐵道と同じ幹線道路によつて連絡されて居るばかりでなく同じ郡（Hertfordshir）でもある譯である。で、彼等は、土地の獲得に就ての强制權も有して居るし、且つ互の利害關係に關しては切離し得ぬ程接近して居るのであるが、彼等を一つに併合し得ない程度の遠離にある事を說明して居るのである。

レッチワスが設立された1903年以來、數多くの住宅並土地開發計畫が、此處に記述した〃田園都市〃と云ふ樣な輝やかしい名を附して、此處彼處の田園地方の樣々な ケ所に始められたのであつた。けれども是等の多數の計畫のなかには價値ある大計畫のものもあつたが、大部分はいづれも田園都市の名を附せられた田園都市にあらざるものであつた。所謂〃田園郊外〃と云樣な言葉は、ハムステツト田園郊外の如き、都市計畫として田園都市的要素が多分に考慮されて居つた樣な或る確定的な計畫に對し適用されて居つたのであるが、ボーンヴルの如き計畫のものに關しては、規模小なる理由をもつて〃田園村〃と稱されて居つた。かかる名稱の用途は此等の計畫が田園都市とは異なる事を意味するのであるが、一般的には明確には判然たる區別がないのである。故に〃田園都市〃、〃田園郊外〃及〃田園村〃と云ふ名稱の用途に就ては無差別に混用される樣な狀態になつたのである。そしてこれが爲に最惡の結果として、〃田園都市〃と云ふ名が公共的事業の如く裝ふて他を欺く、單なる外見的の目的の土地投機的企業者によつて屢々使用される樣になつたのである。そして1914年頃には〃田園都市計畫と稱せられる數多くの計畫が、その名稱以外には田園都市運動と何等の關係を有することなしに不正直に私用されたのであつた。即ち荒地の投機的開發、土地の搾取的計畫又は粗雜なる建物のみによる住宅地經營等が、只單に此の魅力ある名稱のみで實現し得るであらうと云ふ投機的野心の上で進捗されて來たのであつた〃[10]。

大戰後の住宅問題への關心が回復して來るに從つて、各都市に於ける如何なる住宅計畫に對しても廣く〃田園都市〃と稱される傾向があつたのであるが、やがて此の興味ある當時の田園都市運動がその價値を査照（チエツク）されねばならなくなつたのである。そして結局、投機の目的の爲めに惡用され且つ誤用して居つた此の言葉が整理且つ精算されねばならぬ樣な機運に到達したのであつた。そこで、田園都市の市會及都市計畫協會では、これらの事情を深く吟味して、1920年には田園都市に就て次の如き定義を採用した。

〃田園都市〃とは健康生活と產業の爲めに設計された都市にして、且つ都市の大さが全體的に社會生活が可能である程度以上に大き過ぎず、而もそれが農耕地帶で取り圍まれて居り、そして土地は

註10　E. G. Culpin; The Garden City Movement up ot Date. 9頁、

全體的に公共用地（Publicownership）となつて居るか若は自治體に信托されて居る樣な都市を謂ふ。

如斯定義は全く實際的にして且つ如何なる計畫にも直ちに應用が可能なものである。が然し此の定義の内容は5の部分より成立して居る事を認識せねばならない。即ち

（1）田園都市とは所謂村落でも郊外でもなく、都市自體が明確に公民生活への團體的施設を備へ且つ經濟的にも或は他の都市的特質の凡てを享有すべきもの。

（2）都市に生活するあらゆる階級の人々への健康生活又は產業開發の爲めの都市計畫を有して居る。

（3）都市の規模が社交的機會と社會的利益が全體的に可能である程度以上の大さを必要としない。換言すれば都市は社會的に又は經濟的に要求されたる廣さに或は其處に生活する人口に適應した程度の大いさに制限される。

（4）都市が周圍の田園地よりの利益を永久的に確保し、且つ農業が都市經濟の全體的部分をなす樣な農耕地帶で圍繞される事。

（5）土地全體が公共的所有地（Public ownership）であるか若は都市に信托されてあること、であるから人口の增加から惹起する地價の騰貴より經濟的利益を確保するものである。[11]

§ 4

吾々は、二つの田園都市に關する報告へと此の記述を進めて行くのであるが、その前に先づ、英國或は他の國々に於て田園都市又は衞星都市的特質を持つか、又は持つて居ると想像されて居つた二、三の計畫に就て簡單に檢討すると、同時にかかる性質を有する提案が漸次行はれつつあるがそのうちの一、二の計畫への考察に時を費する事にする。

先づ吾々は、Taylar 氏による〃衞星都市〃に於て論じられて居る計畫の重要點に注意を拂ふものとして、1906年米國合衆國の鋼鐵會社（the United States Steel Corporation）によつて創立されたインアヂナ洲の Gary に注意を向けることにする。此の Gary はシカゴから約26哩のミチガン湖の沿岸に面したところで其處に約20平方哩の土地を獲得して創立したものである。此の經營地で湖水に沿ふた細長い帶狀の土地は工場用地として豫定されてあつたので、米國合衆國中で最も高級的發達をなしたと考へられて居る工場が建築されたのであつた。工場用地以外の殘された土地に就ては、Gary 土地會社なる附屬會社に信托されたのであつた。此の會社は此の鋼鐵會社の使用者の出資によつて創立されて居るが、土地騰貴による利益配當は制限されて居るのである。そして此の經營地は、都市計畫よりかけ離れたり或は又隣接する土地が、土地投機者の利用するところとはならなかつ

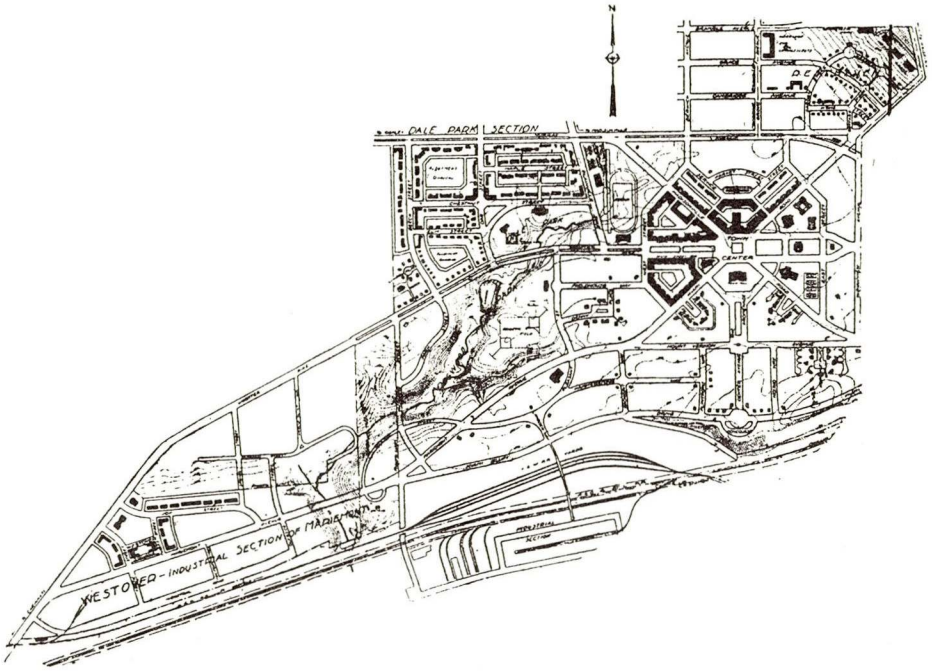
註11　此の問題の全體的討論に就ては C. B. Purdom. 編輯；"Town Planning Theory and Practice" を參照：此のなかには W. R. Lethaby 敎授、Reymond Unwin 氏、G. L. Pepler 氏、Theodore G. Chamber 卿、及 R. L. Reiss 氏等の論說が採錄してある。

たので3ヶ年間に此の都市の人口は約12,000人となり、1912年には 25,000人 1920年には55,000人を算するに到つたのである。最近に到りアラバマ洲のバーミンガム附近のFairfield に於て更に、同會社會による新都市が設立されたのである。此の都市に必要な全敷地は、製鋼所（Steel plant）に必要な土地だけを除いて全部 Corey 土地會社へ賣却されてあつたのである。——そして此の Corey と云ふ名が此の都市のオリヂナルな名となつた譯である。——此の製鋼所の場合に於ても亦、その職員達が土地會社からの財政上の利益を受くる事が出來ない仕組になつて居つた。此の土地は Gary と對照的に純粋なる模範都市として企圖されたもので、事業は Jamison 不動產並土地會社によつて開始されたものであつたが、決して模範都市ではなかつた。都市内は多數の地區に區別され嚴重なる制限に從はねばならぬ仕組になつて居つた。が然し、それ等の實際は、投機的に土地獲得を希望して居つた投資家に提供されるのみであつた。であるから是等二つの計畫は滿足なる衛星都市と考へる譯には行かないのである。何故なれば此の Gary は Fairfield がバーミンガムの一部分である如く實際的にはシカゴの一部分でさへあるからである。そして彼等は米國に於ける此の種の都市同樣に、田園都市として充分なる廣さが用意されてあるのでもなければ、或は又計畫及その管理が田園都市として滿足する程度に充分完全に行はれて居ると云ふのでもなかつた。故に田園都市を定義した範圍内に包含さす譯には行かないのである。

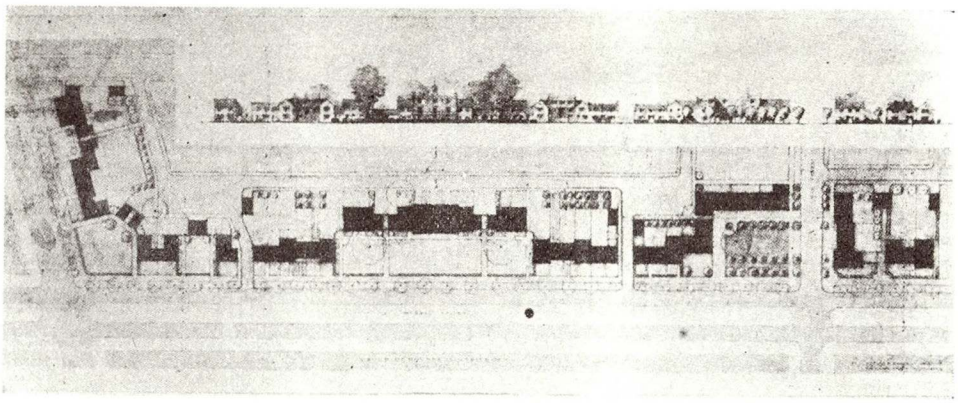
大戰中、軍需品工場の發達が米國政府をして大規模の住宅政策を實行すべく、新しい機關を、新に都市建設を初めた數個の都市と聯合して組織せしめた。此の爲めに非常に多額な經費が消費されたのであつた。が然し、いづれの都市も實際的に永久的利益をもたらしたものは一つもなかつた。彼等はいづれも特別な戰時計畫を避けて位置を決めたのであつたのであるが、いづれも1、2の例外はあるが大體に於て、一般的常識通りの計畫に從つて居つた。そしていづれも實際的に凡てが完成されるまでは、不經濟なる設計であり且つ放埒なものでもあつた。

シンシナチーより9哩程東にある、Mariemont は、1922年シンシナチーの Mary M. Emery 夫人によつて創設されたものであるが、都市設計は、John Nolan 及 Philp W. Foster の兩氏によるもので、それは全く田園都市の理想に直接刺戟されて開發された經營地の私的企業としての一見本（サンプル）でもある。（第5及6圖參照）而も此の都市に就ては〃田園都市〃、〃田園郊外〃、〃田園村〃及〃田園都（タウン）〃等の如き樣々な名稱を附した多數の記述があるが、實は 420英町内外の小規模なもので、單なる郊外住宅地としての特徵を示して居るのみで、田園都市の特質としては、ほんの僅かしか備へてないのである。計畫それ自體から云へば、商店あり、娯樂休養施設（リクリエーション）あり、學校もありそして僅かばかりでも工業用地も用意し、形態から云へば、所謂自給自足（セルフコンテインド）の企圖である事を窺知し得る。

そして此の都市は Norwood 及 Oakley の工業都市附近に存在するので、互に貢獻し

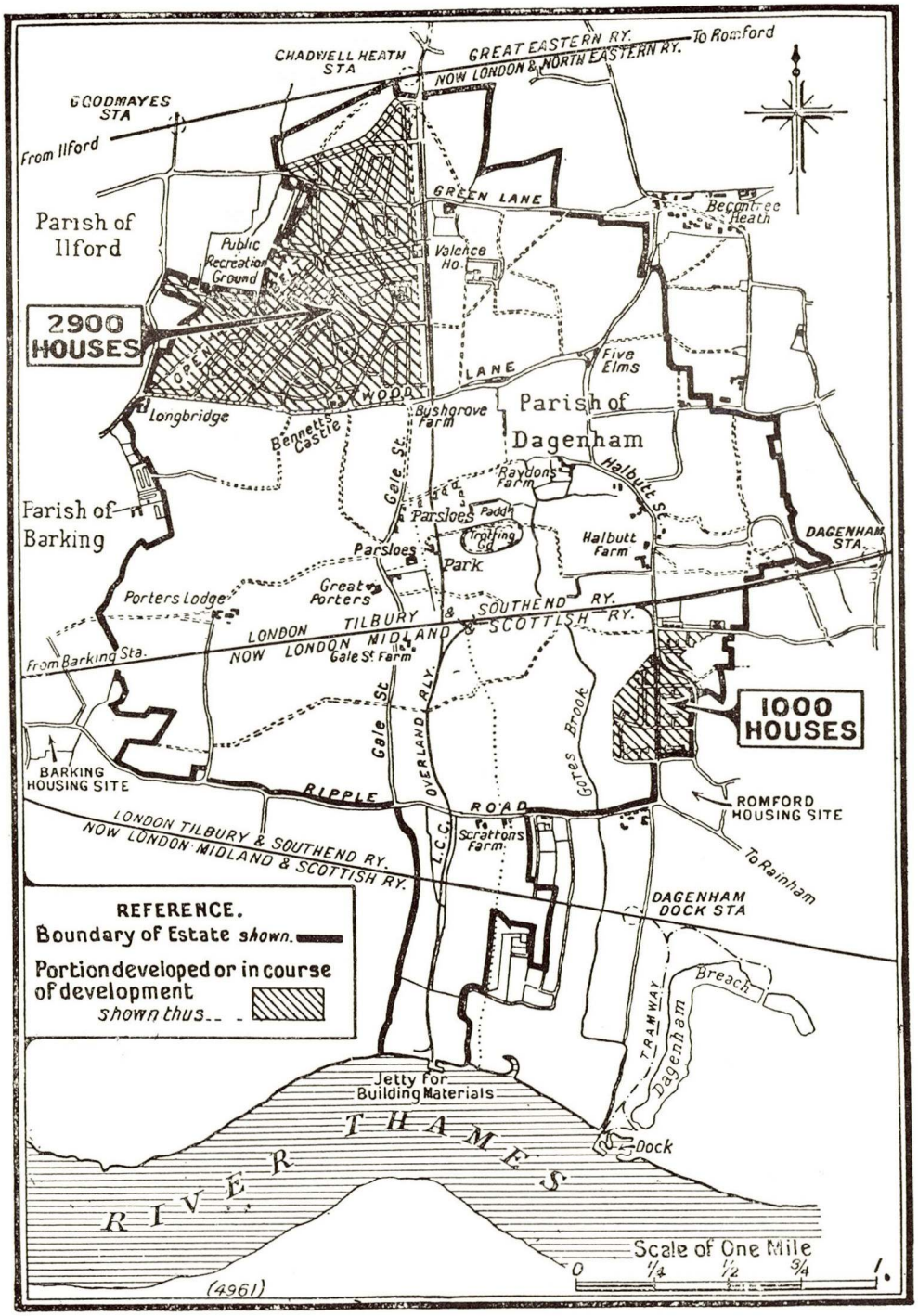


（第5圖） シンシナチー近くのマリーモント（Mariemont）. 此の計畫圖は計畫された二つの工業地區を示す。 Dale Park の住居地區は現實的に完成したのであつた。 John Nolan 及 Philip W. Foster の兩氏による計畫である（1921）



（第6圖） Murray アヴニウに沿ふて適當に配置されたグループ住宅（Marimont）

合つて居ると同時に、シンシナチーの〃衞星都市〃として成立して居るのである。が然し此の都市は、人口僅か 9,000 人の住民の爲めに適合し得る程度の設備しかないのである。此の都市の當初の計畫は、各々異なりたる様々な階級の給料生活者への居住地として企圖されたのであると記述されて居る。で、それは〃何事でも進步的に科學的に計畫され而も利益に關して制限を受けてゐる所有者は、その都市の生活者と共に都市の成功を享有するものである、と云ふことを除いては、米國式方針に基いた普通一般的の住宅地開發であ



(第7圖) Becontree 經營地の計畫

る。" と考へられて居る。そして "都市中心地の商業地區" に關する所有權は此の事業の繁榮に對する分前として居住者に獲得せしむべく殘しておく豫定であつた。公益施設は進歩的に設備され且つ所有者の爲に此の計畫を事業となすことは、出來得る丈け數多く住宅を建築することを意味するもので、開發さるべき此の場所としては、社會の發達に關し確定的な利益形體を獲得せしめる事になるのである。

英國に於ける大戰後、大規模に行はれた住宅政策も亦、此の衞星都市に殆んど近いものであつた。が然しいづれもそれらは、筆者が主張する包含的計畫にして且つ地方計畫的見地に於けるその要求が不足して居るばかりでなく又そのなかの財政計畫等が等閑に附せられて居る事を暴露して居るのである。1919 年に於て、ロンドン郡議會（London County Council）は、24,000 戸の住宅へ 120,000 人の人口を收容すべく Ilford に近接して居る Essex に 3,000 英町の土地を豫定し、且つ 5 ヶ年以內にその計畫事業を完成して仕舞ふ目論見であつたが、建築費が存外に高かつた爲め、各住宅 1 戸に付き 1 年間に50磅乃至60磅の損失に直面したので、議會は止むを得ず 2,000 戸にまで削減を行なつたのである。けれども現在までには漸やく 6,000 戸までの增加を見たのである。此の計畫は非常に野心的なものであつたので、自然的にそれが田園都市であるとか又は衞星都市であるとか云ふ主張があり、非常なる熱心さを以つてその事業に從事したのであつた。實にそれは大事業芽萠の徵候であり且つ都市建築(city-building)事業に非常なる貢獻をなしたかも知れないものであつた。乍然不幸にもそれは只單に大規模なる勞働者階級への郊外住宅地經營でしかなかつたのである。そしてその建築事業の實際は、此の經營地が旣に發達して居る部分に隣接して居るところから開始されたのであつた。で、此の土地は郡境界の外側の、Barking 及Ilford の市街地にして且つ Romford の田園地域でもあつた。ロンドン及北東鐵道が、北側の Ilford 及 Chadwell Heath停車場のところで境界をなし、南部は同じ鐵道の南部支線を橫斷して居るのである。實際的には此の土地全體は野菜を作る菜園(market-gardeus)であつた。（第 7 圖參照）

東部ロンドンは何處にでも存在する樣な發達は、未だしてなかつた。Aldgate 及 West Ham の間で Ilford の方面には、過去100年の間に、建物が非常に大量に建築されて居つたのであるが、いづれも北部、南部及西部に就て見る樣な散在的發達も、長腕式（long arms）開發もして居らなかつたのであつた。Epping 及 Hainault の森林帶及タマスの沼地帶等の存在が、開發中の道路又は鐵道等の交通機關と相俟つて Essex をロンドンの膨脹範圍より保護し得たのである。故に此のカウンチーはロンドンの膨脹により破壞されざる田園地として辛じて殘されたのであつた。

Barking 及 Tilbury の間にある河邊地は殆んど確定的に重要なる工業地となるのである。そして旣に其の全河邊地域に沿ふて大工場が存存し、新しいドツクや波止場等も亦建築中と云ふ狀態にあるのである。此の土地の大部分は、埋立地であるとか又は泥濘の爭坦

地であつた爲め住宅用地としては不適當なものであつた。けれどもロンドンから Tilbury に至る幹線道の反對側にある土地は漸次に高い丘地になつて居り、建築敷地としては優秀なものである。で、ロンドン郡議會による開發中の土地と云ふのは即ち此の土地を云ふのであつた。だが然し此の計畫が田園都市としての見地から滿足するものには未だ達して居らないと云ふのは、次に擧げた重要な諸點からである。

(1) それ自體が獨立したものとして都市生活が可能である様な確定的な設計がなさるべき筈であるのに只單に既存の市街地の一部分として開發されて居ること。

(2) 此の計畫は、只單に勞働者階級への住宅政策としてなされたもので都市生活の凡ての階級への施設でない事。

(3) 社會的の快適 (Social amenities) に關する組織と機關のない事。

(4) Ilfordと 新に開發せんとする土地の間には農耕地帶としての豫地が殆とない事。

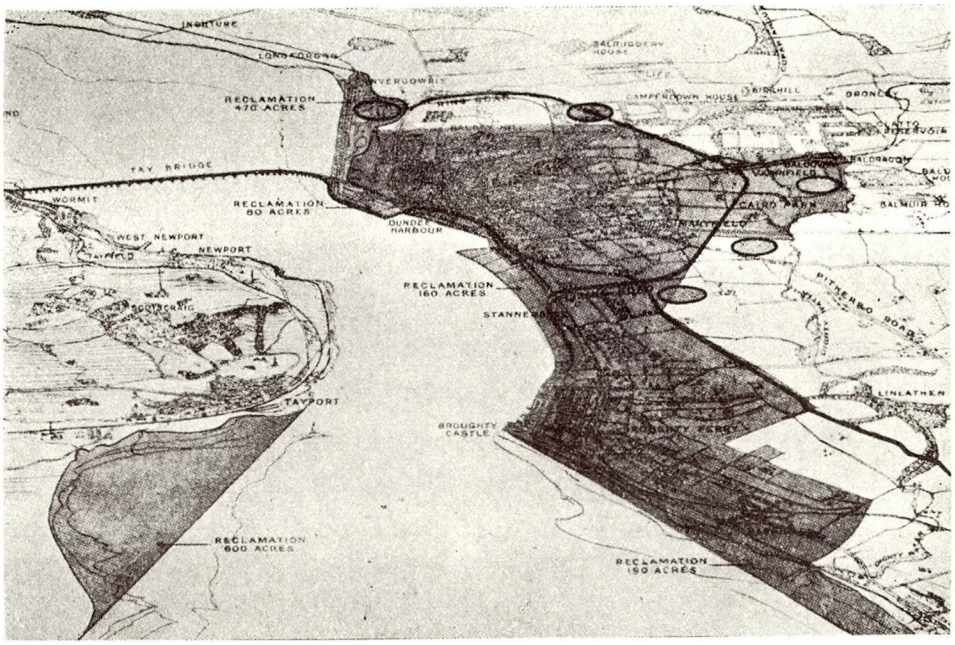
(5) 此の計畫は、將來、工業の發達又は新設さるべき工場等に雇はるべき人々の爲めへの住宅供給に關連して遂行されたのでない事。

(6) いはば此の計畫は、道路施設の不充分且つ鐵道が非常に混雜な狀態にある様な不適當な土地に配置されたロンドンの寄宿舍的都市に過ぎない事。

1918年に準備された、Dundee の都市工學者 (the city engineer) James Thomson 氏による報告書は最も興味ある文獻の一つである。何故なれば Thomson 氏は、現在の都市面積6,548[12]英町から將來 12,700英町まで擴張せしめる爲めには、適當なそして絶ゆる事なき膨脹は必要缺くべからざる事を指示すべく長い意見を有して居るからである。そして彼は他より這入り來る豫地のない一つのマッスとして都市を計畫處理して居る現代的手法を變革する事は絶對的に必要である事を誇張的に主張して居るのである。更に彼は機會ある毎に、市會が次の事柄に同意すべき事を主張して居つた。即ち未開發の土地に就ては出來得るかぎり農業的價値を有せしむる様に開發し、そして工業と住居地域に就て、凡て此の新しい組み合せに關してはその廣さを適當に制限する事を主張して居るのである。Thomson 氏による此の提案の内容は、一歩一歩づつ確實に努力して不良地區を除却し、中心部の混雜のはげしきあらゆる地區を改良し、そして漸進的に、中心部の幹線道路を擴張して行くと云ふのであつた。彼れの報告書によれば、かくなすことによつて衞星都市發達への方向に進むべき決定的な方法であると、指示して居るのである。(第8圖參照)

註12 Dundee 市として提供された土地は下の如く按分されて居る。

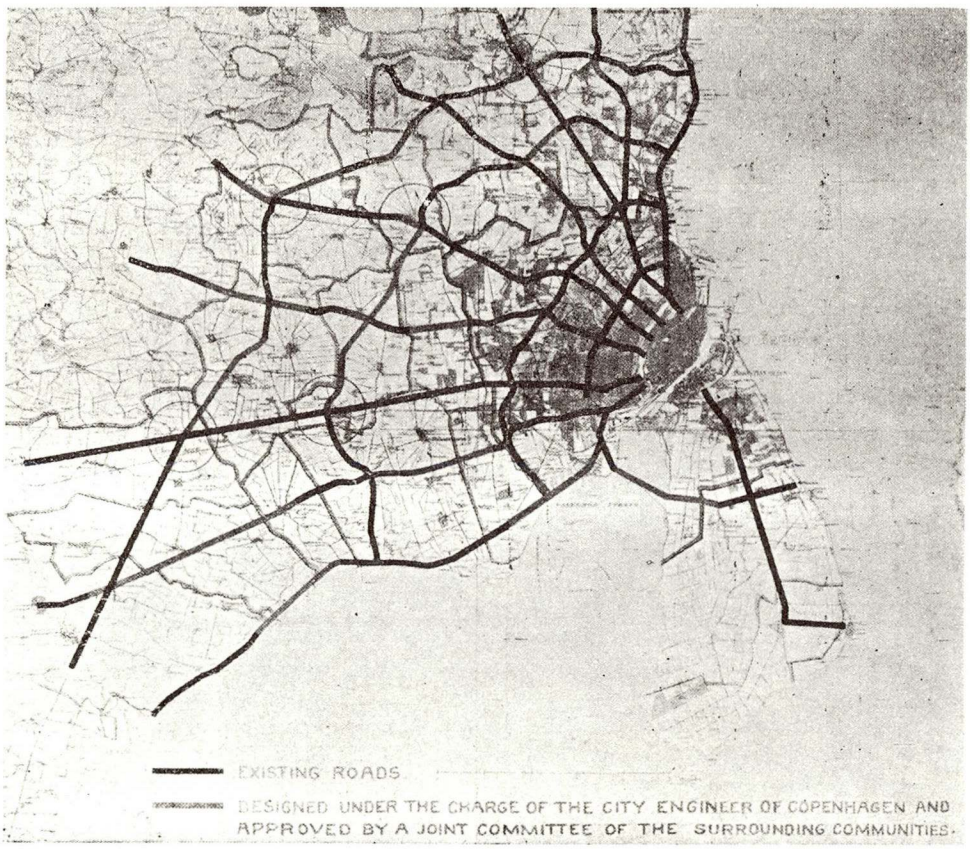
公　　園	8%
空　　地 (公共用に非す)	2%
墓　　地	2%
工業、鐵道及築港	10%
住　　宅	42%
農　　業	36%
	100%



（第8圖） Jams Thomson 氏による Dundee の計畫、開發地、幹線道路及工業及住居地帶等の計畫案を示す。

Copenhagen の地方道路計畫に就て考察して見ると或る點に於て衞星都市に類似して居る一群の郊外都市が計畫されてあつた。で、是等の都市は幹線道路が交叉するところであるとか、或は又鐵道の利便を有する既存の都市又は村落等の周圍に設立されたものである。Copenhagen の周圍を取り廻る田園地に、21個の都市が存在して居るのである。丁抹の土木學會（the Society of Danish Civil Engineers）の提議に從つて、是等諸都市及 Copenhagen 市の幹線道路問題に就て考察研究し且つ協議すべく委員を任命したのである。そして之れに附屬する5人のメンバーよりなり副委員（Sub-committee）は都市工學者 A. Bjerre 氏の監督の下で責任ある計畫を樹立すべく準備したのである。此の計畫は田園都市の影響を多分に受けて進められた事が明かに示されて居り且つ田園都市的立場に於て開發される樣にも思はれて居つたのである。が然し結局は、衞星都市として明確に判然と區別さる爲めには、互に都市が隣接し過ぎて居る事である。（第9圖）

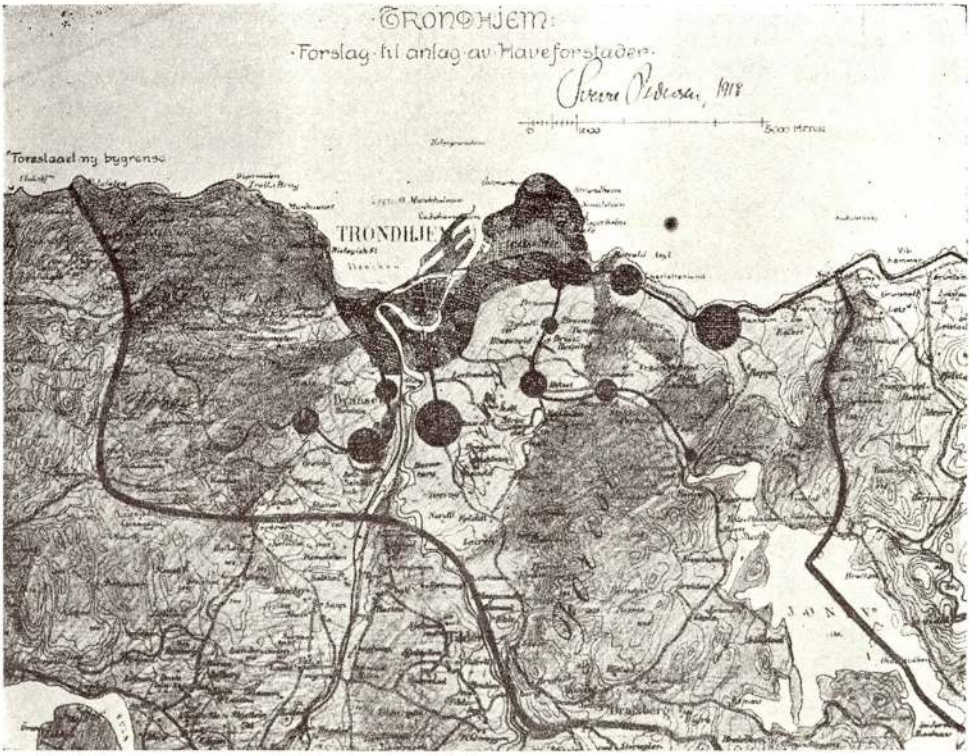
ノールウエに於ける Trondhjen の都市建築家（city architect）故 Sverre Pedersen 教授は、8粁の範圍内にある都市周圍の田園地域の開發の爲めの準備計畫案を持つて居つた。此の計畫案の理想とするところは、小都市又は郊外への分散による膨脹の爲めに備へられた農耕地帶で、都市の膨脹を現在の面積の程度に制限せんとするもので、特に工場の爲めには非常に注意して敷地計畫が行はれてあつた。都市自體は大面積のものであつたが、更に新しく開發する爲めに、土地全體を買收する豫定のものであつた。そして此の敷地は、



（第９圖） Copenhagen の近隣に於ける幹線道路網計畫の際提案されたる衛星都市計畫案・圓を描いたところは計畫衛星都市

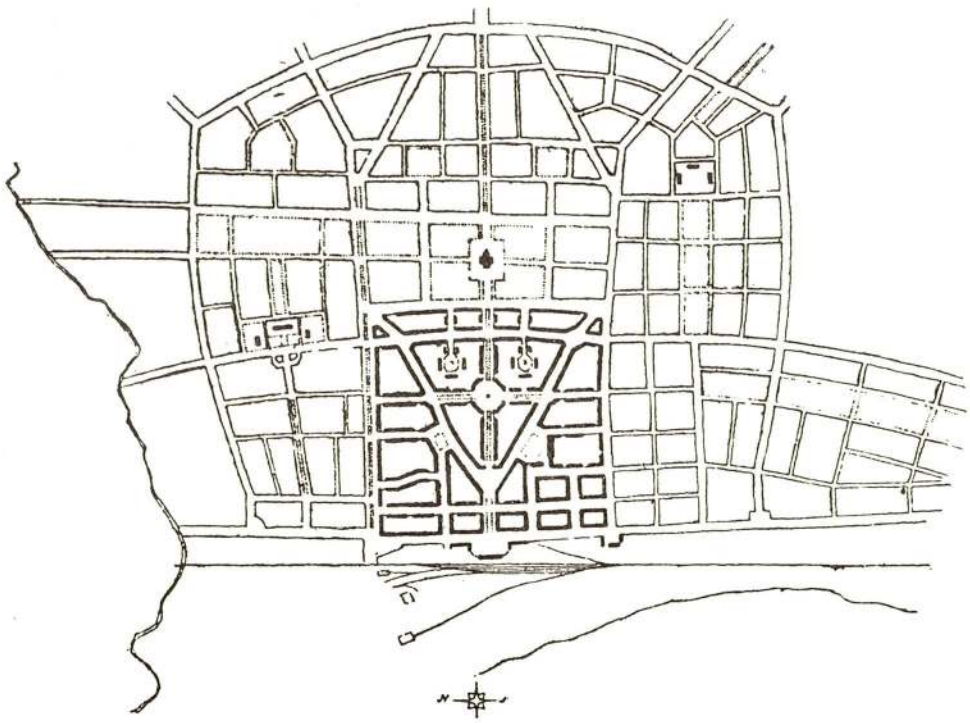
同様な他の田園地帶に於て滿足されて居つたものより遙かに小さいものであつたが、その計畫は、都市計畫として頗る卓越せるもので非常に興味を引いたばかりでなく、彼等は我々が考へ得る範圍内に於て眞に田園開發計畫に最も近いものであつた。（第10、11、12、13圖參）

田園郊外と云ふのは獨逸に於ける凡ての大都市の附近に發見し得るものであつた。そして又田園村と云ふのは、例證すれば、エツツエン近くのクルツプの計畫の如きものである。獨逸に於て田園都市に最も近い計畫はドレスデンの北６粁にある Hellerau である。此の Hellerau の所謂ガルテンシタツト（Gartenstadt）は1908年に獨逸に於てあの有名な、藝術と技術（arts and crafts）の開拓者なる Karl Schmidt 氏及 Wolf Dohrn 氏によつて創設されたものであつた。經營地は130ヘクター（530英町）の廣さの土地を包含し、且つ設計者の企圖して居るところは、手工藝者（hand-crafts）への技術と教育への中心地として 10,000 人乃至 15,000人の人々の爲めの小都市を建設するにあつた。その計畫圖は Riemer-schmidt 教授によつて準備されたものである。（第14、15圖參照）



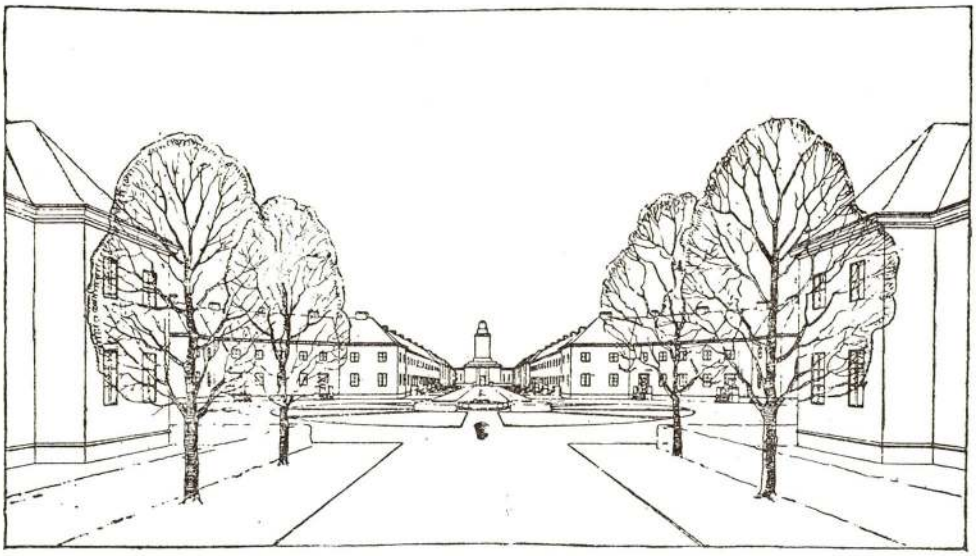
（第10圖） Trondhjem の周圍の小都市計畫案（ノールウエ）

左側の三つは現在建設中のものである。計畫案は“Sluppen”と稱する市の丁度南側の都市として用意されたものであるが、尙ほ他の都市の爲めには未だ計畫が準備されてない。前圖に說明したStjordalshalsen は Trondhjem から北部鐵道に沿ふて25粁離れた海岸のところにあるのである。（Sverre Pedersen 氏による計畫）

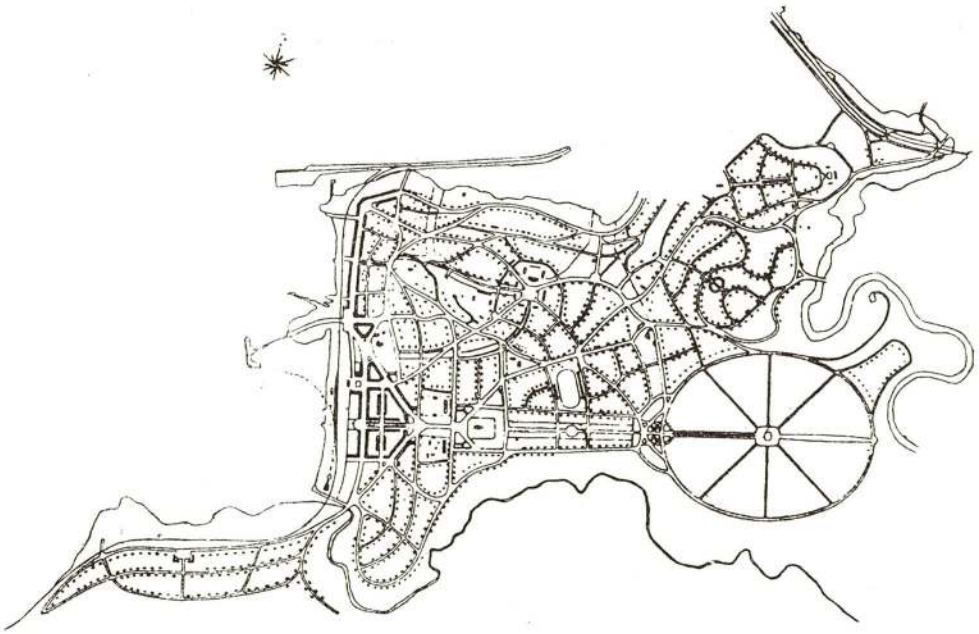


（第11圖） Trondhjem の衞星都市—Stjordalshalsen.（ノールウエ）

都市面積は約500英町で、周圍を取り廻いてゐる廣大な土地は農耕地帶として殘す豫定である。鐵道は圖示の如く下部に布設され、且つ鐵道の他の側に沿つて廣大なる工業用地となつて居る。中央の圓形のところはシヴイツクセンターで、此處に敎會や小公園が配置されてある。之れは 建築家 Sverre Pedersen 氏による計畫である。(1920)



（第12圖） Stjordalshalsen の シヴイツクセンタ; Trondhjem の衛星都市、（建築家 Sverre Pedersen による設計）



（第13圖） 北部ノールウエの中部に於ける新都市 Mo I Rana.

面積は約1,000英町である。此の土地は一人によつて所有 されて居る。事業も亦一人によつて企圖され且つ賃貸されて居るので、買賣されない土地である。都市を火災の延燒より防ぐ目的から狹小な Park belt によつて幾つかの部分に分割されてゐる。（Sverre Pedersen による計畫、1919）

1912年には Tessenow 教授による設計の祝日用大ホール(large festival hall)を持つ美しい學校が開校され、Eurythmics式教育の創設者Jaques Dalcroze氏などは、此の計畫の當初の頃これに關係して居つたのである。Wolf Dohrn氏の逝去に遇つて、此の計畫は中絶の止むなきに到つたのであるが、大戰後に460戸の住宅が建築されてあつた。此の都市の總人口は 2,100 人にして其處には 600人の職工を有する家具製造用の工場と比較的規模小なる工場が3つ建築されたのであつた。此の計畫の根本的(オリヂナル)創意の中には衞星都市的要素を多分に持つて居つたのであるが、然し其の實は只單にドレスデンの郊外の一部分を形成して居るに過ぎないものであつた。然るに建築的効果及其の施工方法に於ては或る特別な顯著なものを持つて居つたのであつた、けれども、嘗て田園都市又は衞星都市に與へられた定義の概念よりするならば、それはあまりに過小であつたのである。



(第14圖) Hellerau の位置を明かにし且つドレスデンとの關係を示す地圖

スエーデン及他の歐洲各國に於ける様に、獨逸に於ては都市の所有する廣大なる土地は——その多くは森林であるが、——近隣の郊外に沿ふた緣地帶を獲得し、且つ郊外都市を互に分離するのに役立つて居るのである。然し乍ら都市は(筆者はその實例を知るよしも

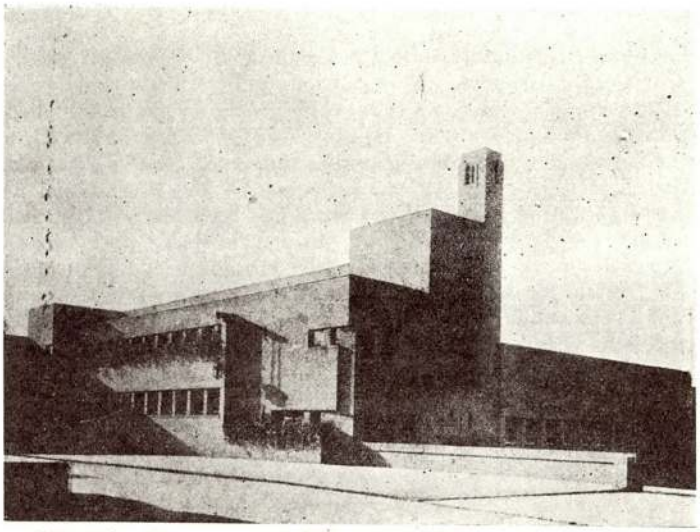


（第15圖） ドレスデン近くの Hellerau（Riemerschmidt 教授にする計畫、）(1908)

ないが）實際に帶狀形である事は極めて希で、寧ろ様々の部分に分散して居るものであるから、農耕地帶の機能を滿足さしたり、或は都市膨脹を物質的に抑制する事などは殆んど不可能であつた。

オランダのアムステルダムから10哩、Utrecht から7哩にある都市で而も人口40,000人乃至50,000人を有する都市の中間に介在して居る Hilversum は、是等二つの都市の實事上の衞星都市にして、且つ又かゝる目的の上に開發中のものである。アムステルダムの多くの實業家及專門家達は、勞働者と同様に、其處に居住して居り、多數の工場も亦此の都市内に於て發達しつゝあるのである。で、市廳に於ては大望ある住宅政策を實行し、且つ此の事業施工に際し市の建築家 W. M. Dudock 氏は著名な建築物の設計を完成し、且つ之れが實現に非常な効果を修めたのである。即ち新築の建物はいづれも非常な魅力を持つて居り、

敷地計畫等に就ては細心なる注意と研究がなされたのである。この計畫事業はアムステルダムの衞星都市として此の新設の大都市開發に關しては、市管理部（city government）が主管となつて進めたのである。（第16圖參照）



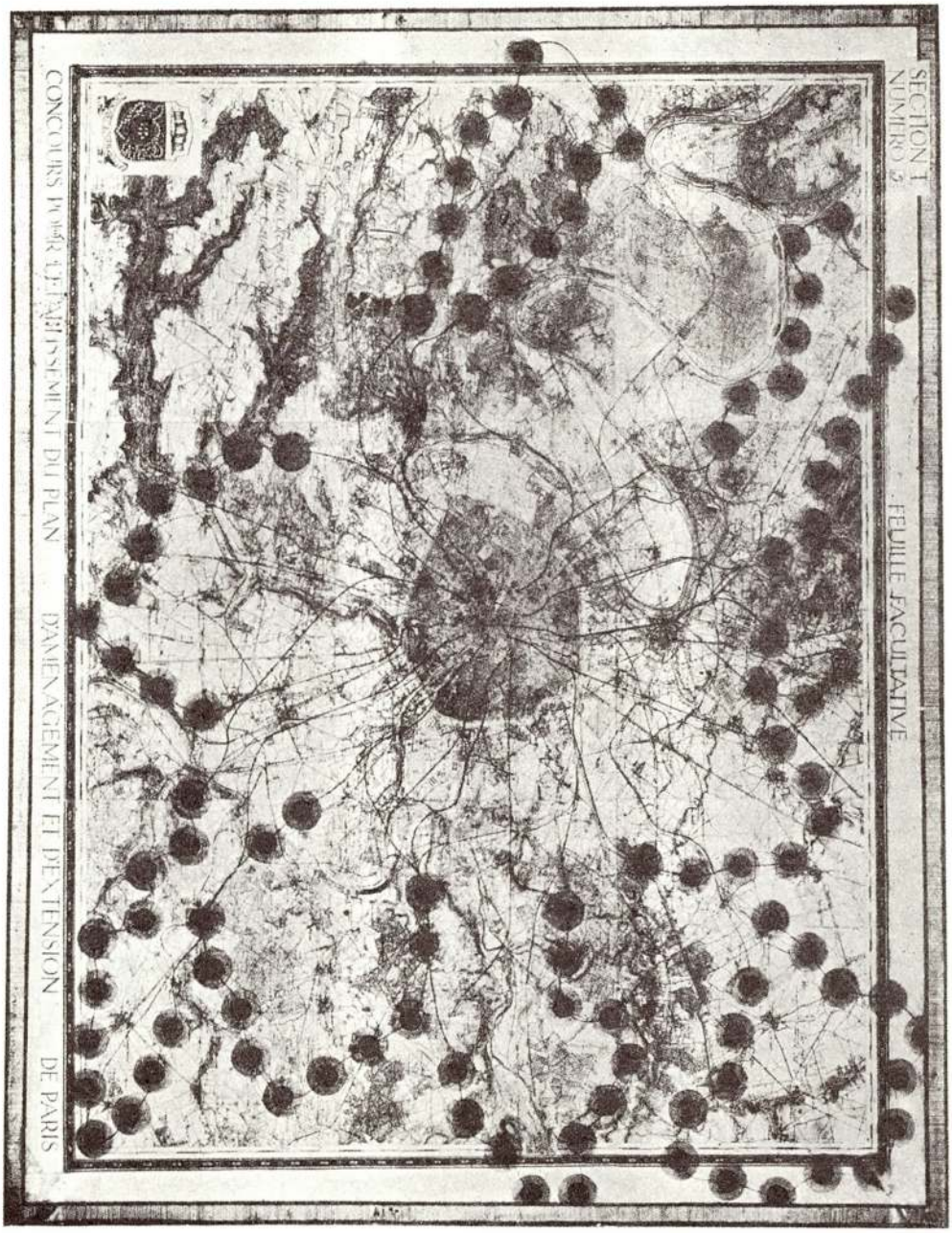
（第16圖） Hilversum の小學校、1921（建築家デュドツク氏設計）

Vreeuryk と云ふのはロツテルダム市によつて開發された一經營地の名稱にして、所謂田園都市と稱されて居るが實は、郊外都市でしかないのである。此の經營地は1913年に H. P. Berlage 博士によつて創設されたもので、且つ之れが計畫並に設計圖に關しては三つの確實なる建築事務所 —Grampré Moliere, Vehagen 及 Kok 建築事務所、de Roos 及 Orcreijnder 建築事務所そして Meischke 及 Schmit 建築事務所 ——によつて詳細に用意されたのであつた。經營地には教會、商店及娯樂場と共に2,400戸の住宅が存在して居り、現在（1925年頃なるを以つて今より約12年前）なほ住宅の建設が進められつゝあるのである。此の計畫は建築學的にも亦市の住宅政策又は住宅經營地開發計畫としても、特別に興味のあるものであつた。

ヴエニスは島上に一つの都市の事例を準備したのである。そしてそれは、主要島（mainland）それ自身の衞星都市の如く設立されたのである。河口又は突出せる舌狀の陸地（註半島ならん）で制限されて居る多くの都市は、その膨脹に對し郊外へ延びて行くか或は海又は河川を越えて他の都市に刺戟を與へるかである。即ちニューヨークとかサンフランシスコ等の如きはその最も顯著な事例でもある。そこでヴエニス市は、築港及工業或は住宅建築等の爲めの擴張として、2,841英町の土地を獲得したのである。そして是等の土地は下記の如く配分されたのである。

築港及ドツク	865英町
工業地域	1,606〃
住居地域	370〃
	2,841英町

築港は州の助成を得た Societe Porto 工場によつて開發されて居るので、公益施設及住宅地域の開發はヴエニス市が工事の全部を引き受けたのである。



（第17圖） MM. Berrigton, Chaures 及 Faure-Dyjarric 等の合作計畫になるパリー地方計畫、此の案の主なるアイデアは新設鐵道に沿ふて無數の Cités-Jardins を設立する事である。

1919年の當初に於て、佛國の立法院は、都市計畫問題の處理に就て地方計畫的内容を持つた總括的な都市計畫法を通過せしめたのである。そして巴里及セイヌ縣はその法律に從つて、都市の擴張と縣計畫への計畫並設計圖を求むるため競技設計が行はれたのであつた。で、此の競技設計の結果は不幸にも、僅かの設計圖しか集まらなかつたので、之れが結果の報告發表は無かつたのである。[13] 然し是等の應募圖案は都市計畫研究者の爲めに或る特徴のある材料を用意したのである。そして是等の應募圖案の凡ては、實に巴里を將來無數の都市又は無數の *Cités-jardins* として、取扱つて居るのであつた。二等賞を獲得した M M. Berrigton 氏、Chaures 氏及 Faure-Dyjarric 氏等の合作になる計畫に就ては M. Henrs 氏が彼等を論述して居る如く cité-satellités[14] を暗示したもので、最も興味のあるものであつた。(第17圖)

ベルギー、スエーデン及他の諸國に於て、既に指示した如く、興味ある住宅政策と都市の近隣地に於ける住宅地開發計畫等があつたが、是等はいづれも郊外都市的特質を變へておらなかつたのである。

§ 5

米國に於ては、無數に多少なりとも相互助成的組織の根據を有する都市建設の企てがあつた。そして是等のなかには都市の利害に關する土地統制に就て、何處か田園都市的アイデアを提案するものとして土地に所謂單一稅 (Single-tax) なる enclaves[15] を實行して居るものがあつた。だが然し、是等の計畫はいづれも規模小であるばかりでなく科學的の理想を有して居つたものは殆んどなかつた。即ちいづれもかゝる都市の機能に關する慨念などは除外され、かへつて特種な社會問題的な又は宗教的な理論に追從して居つたのである。

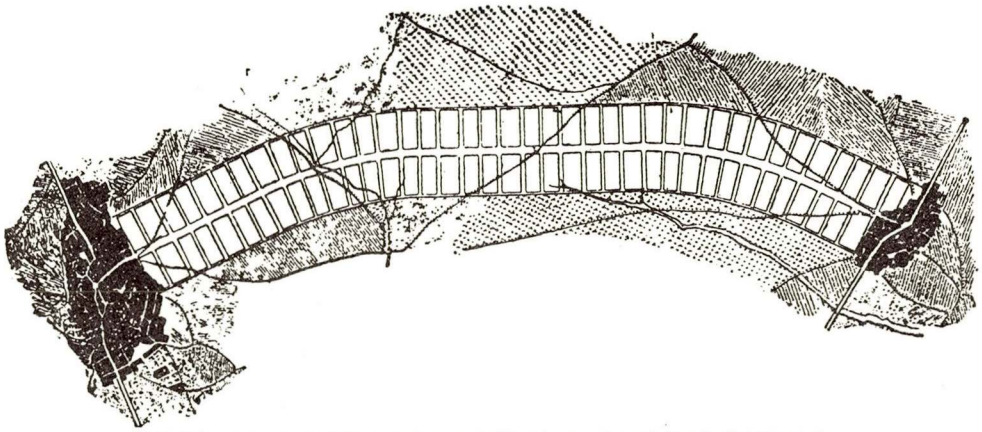
兎に角、此處に都市開發の獨特な手段として吾々の興味を引くものは、1882年に於ける故 Don Arturr Soria y Mata[16] による計畫で、Compañia Madrileña de Urbanización によつて事業が遂行されたスパニツシュの直線形都市 (Spanisk lineal city) である。此の都市はその名が暗示して居る如く、直線的にまつすぐ都市を建築する慨念のものである。會社は所謂 lineal 都市として最初直線的に約 5,200米を完成しそして更に直線的に 17,000米

註13 La Vie Urbaine (1920) 參照

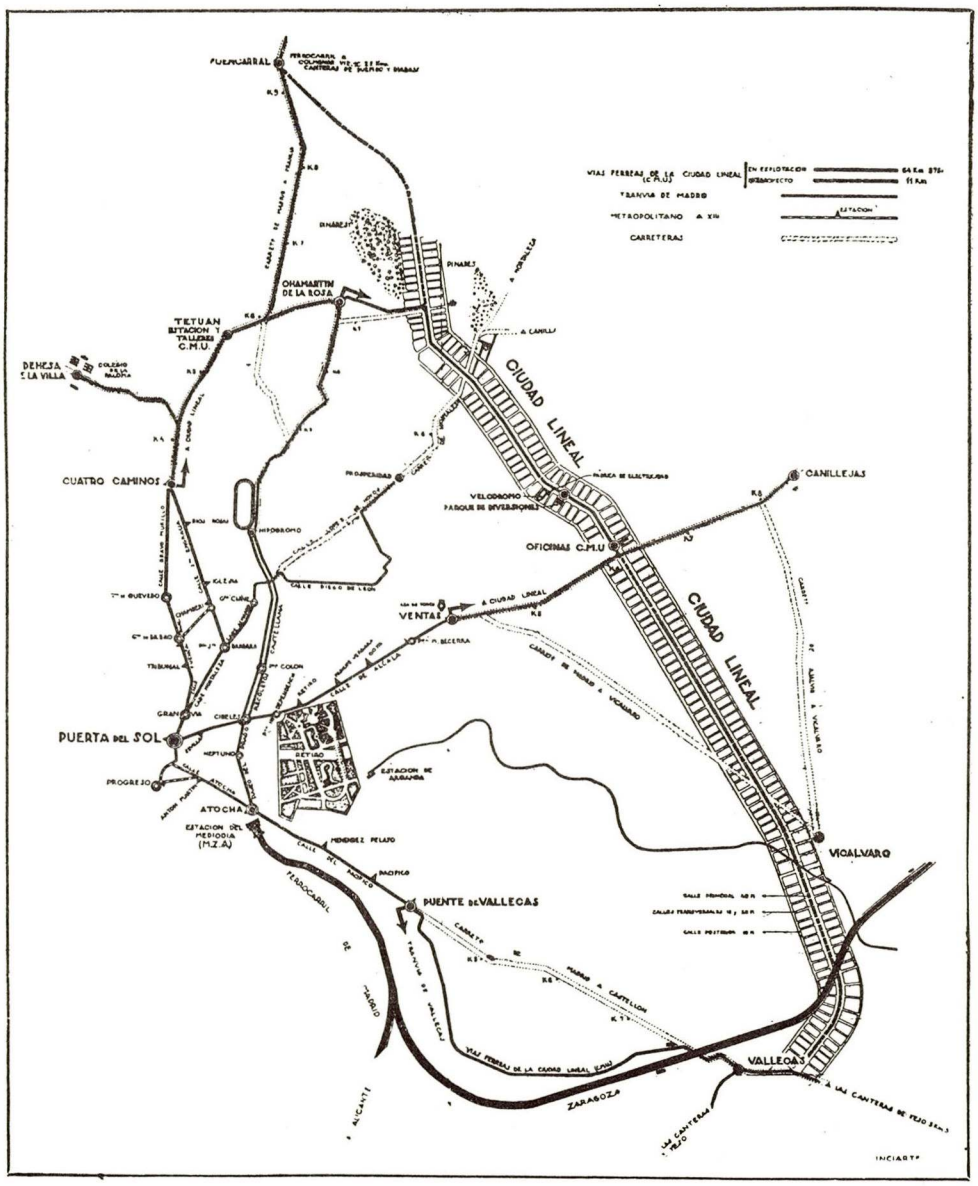
註14 "cités-jardin" も cité-satellité も亦〃田園都市〃に等しくないのは不幸な譯であるが、是等はいづれも英語に於ける "Garden city" の意味を滿足させてない樣に思はれる。

註15 Single-taxer の使用して居る此の enclaves と云ふ言葉は、經濟的地代が、有權借地權の條件下に蒐集され、且つ郡、州又は國家によつて賦課された確定的な稅金支拂の際によく使用されるところの土地の廣さ (area of laud) を意味するものである。經濟的地代とは裸地 (bare land) ——例へば建物であるとか、農業用の田畑とか或は又森林等のないものとして考へ得る土地——の用途に對する權利が必要なる價値を表すものとしての 1年の支拂を云ふのである。——Enclaves of Economic Rent, Third Annual Volume (1923) P. 1.

註16 La Ciudad: Antecedentes y datos varios acerca de su Construcciön. Madrid, 1884. And other Writings.



（第18圖） Lineal 都市によつて二つの舊都市が、共に連鎖された例を示す。



（第19圖） マドリッドの Lineal 都市の計畫

此の圖には全部描かれてないがマドリッドは此の左側にある。鐵道の主要停車場は示圖されて居る。Puerta del Sol からの市街軌道は東へ此の Lineal 都市を二つに切斷し、其處に此の會社の事務所を設立して居る。 lineal 都市の中心を貫通して居る軌道は會社の所有である、又圖には公園、發電所等も示されて居る。1924年までに開發された部分は太いがつちりした線で示し、破線のものは開發計畫のものを示す。

が建設中であるか若くは計畫中なのである。1,800戸の住宅が52粁の鐵道、30,000人の爲めの上水道工事及電力工事と共に建設されたのであつた。此の計畫の根本的原理に就ては、次の如く記述されて居る。(第18、19圖參照) 即ち

a) 交通計畫が都市の設計を決定する。

b) 都市計畫は構築より先に行ふべきである。

c) 都市の形體は幹線道路軸或は又吾人の所謂市街組織の Spine (回轉狀) 形であるべきで且つ出來るだけ幅廣に建築すべきで——最低40米乃至44米——且つ中心部には1本乃至2本の鐵道が布設さるべきである。そして優秀な電氣施設も建築さるべきこと。

加之、規則的な幾何學的形體としては (正方形、長方形及不等邊四邊形) 殆んど完全なものであり、尙且つ同面積の不規則形のものより更に短い周圍でおさまつて居るものである。獨立的な部分又は都市の住宅區廓となつて居る部分は——又同時に此の Vertebrate (推骨的) 組織の推骨をなして居るのであるが——幹線道路の中にある鐵道線路から直角に描かれた線によつて決定さるべきで、之れが殆くとも20米 (22ヤード) 位横の道路 (Transverse Streets) から離れて居るのである、其處から下水汚物及他の衞生的處理に對すると同樣に、水道、瓦斯及電氣供給等の爲めの主要管は互に直角に橫斷して直線的に布設する事が出來る樣になつて居るのである。

d) 都市面積の⅕ (one-fibth) は住宅地となり⅘は生產的耕地となるのである。そして各住宅の敷地は最低400平方米位の面積を有するものとす。

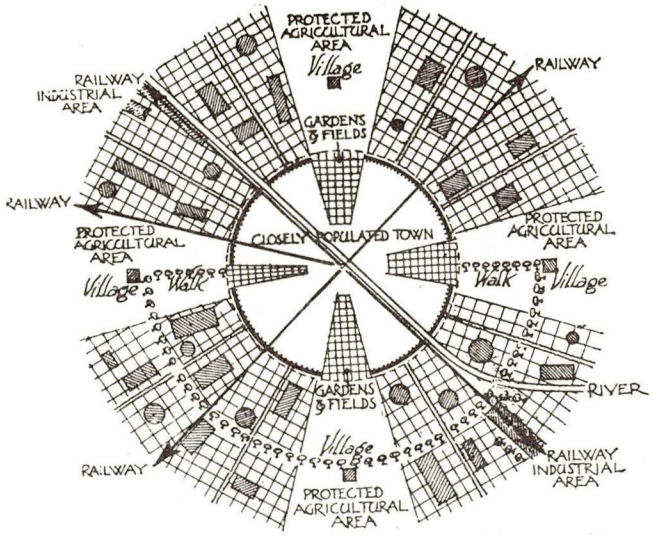
e) 一家族に一住宅として各々のその住宅には果樹及花園等を附屬せしむる事になつてゐる。

f) 土地の平等なる分配。

此の計畫の目的とするところは、此の直線的都市 (lineal cities) によつて互に既存都市へ關係せしめ、且つ既存の舊都市の尖狀形をなす三角形の市街地の土地をして漸次的に lineal cities にして仕舞ふと云ふのであつた。而して此の新しい手法によれば、農業と工業に貢獻するところ大であらうと云ふのであつた。[17]

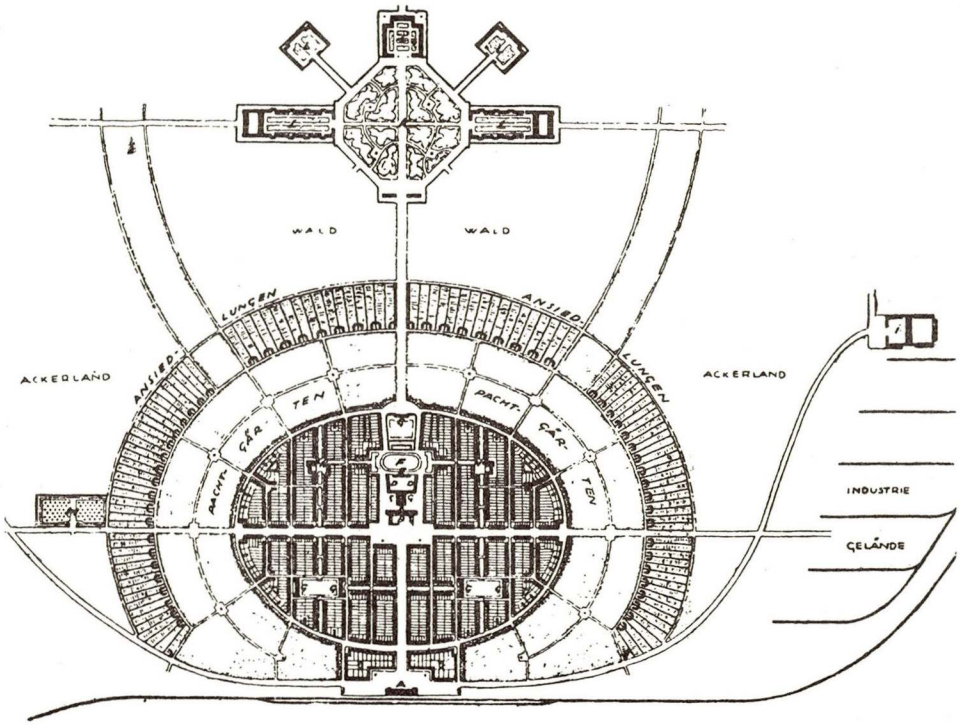
此の都市の創立者達は、lineal 都市が田園都市として優秀なる形體である事を主張して居る。が然し此の都市はその性質上寧ろ郊外都市であると云つた方が適當である。lineal 都市と云ふのは、それ自身が獨立的都市として活動するのでなく寧ろ既存都市に加入してその都市のサーヴイスを行ふものである。長い直線的發達の故に建築物等が分散せざるを得ない事から、所謂都市の自然的傾向なるまとまりのよさ (compactness) 或は科學的統制と云ふ考へを失ふことは、明に不利益な事である。更に又交通運輸の見地から論じても、人口を一定に、鐵道又は交通運輸系統に沿ふて分布さすことが、實際的に、はたして經濟的であるかどうかと云ふことは頗る疑問の樣に思へる。何故なれば、鐵道も市街電車も定つた停車場で乘客を乘降させねばならないので、勢ひその停車場の周圍に最も多數の人口の集中を必要とするからである。即ち此の場合停車場附近以外では、鐵道及市街電車からの利益を享有する事が困難であると云ふ譯である。けれども此の計畫が尙吾々の興味を非常にそゝるものは、農業の奬勵と哲學的原理の上にかゝる特種的な都市を建設せんとする企圖に對すると同時、之れが實現に關して可成の程度にまで達し得たと云ふその特質に

註17 Rational Architecture of Cities (madrid, 1924) 及 the journal La Ciudad Lineal,參照。



（第20圖） Adolf Rading 教授による將來の大都市への理想計畫(1924)

工業開發地域と永久農耕地域を示す。ハッチした部分は生產的庭園、田畑、菓樹園等を持つ住宅地を示す。此の計畫案の將來は、人口が適當に飽和された都市として制限される樣になつてゐる。



（第21圖） Herr Paul Wolf 氏による工業的衛星都市(1922)

對してゞある。

此の計畫を引照し得るところのものは、現代的都市建設に對し、理論的計畫に關し興味ある研究の提案がなし得ると云ふ事を世界の國々の前に示した點である。是等の計畫は田園都市の理想に非常なる影響を受けて提案されたもので、彼等の多數は、都市擴張問題が實際的に討議され且つ、その企畫中にあつたものが提案されたのであつた。後者に示した實例は Adolf Rading 教授による理想都市の設計で、これは同教授がブレスロー市を中心として半徑60粁の範圍内にある周圍都市に關する計畫の際なした彼の研究の結果であるとして此處に擧げ得るのであるが、[18]（第20圖參照）ドレスデンの都市建築家 Herr Paul Wolf 氏による大都市の衞星的工業都市[19]及 M. Jules Scrive-Loyer 氏の計畫等は Lille[20] の擴張とその周圍の都市計畫に影響された提案である。（第21、22圖參照）

田園都市發達に關するレーモンドアンウイン氏のダイアグラムは一般によく知られて居る。で、彼によれば〃田園都市の原理は郊外都市にも摘用し得る[21]〃と云つて居る。

著者の知る範圍に於ては、アンウイン氏は、此のダイアグラムに就て完全な論述をしてない様である。が然し最近に到り此處に採錄した如きダイアグラムを用意したのである。是れは兎に角同様なアイデアを傳へて居る様に思へる。何故なれば、此のダイアグラムを檢討するならば、尠くとも新鮮なる空氣、慰樂休養機關及自然に接する爲めの充分なる土地を用意することにより、或る中心都市又は既存都市より分離して、その周圍に郊外都市を一群として分散せしめる方法によつて、都市の新しい意味の擴張を提案して居るからである。[22]（第23圖參照）

次に、或點兎に角アンウイン氏のアイデアと同樣のものであるが、然し更に之れより進歩發達し、殆んど田園都市の理想に近いとされて居るものはオハヨー州クリーヴランドの Robert Whitten 氏による提案である。[23]彼はその提案に就て次の如く記述して居る。（第24圖參照）

首都計畫に關し open development strip の用途を示すべく最初に描かれたダイアグラムは、首都地方（Metroplolitan region）の組織に就て、可能性のある改善の要點に關する數點を說明して居るのである。中心都市と云ふものは無數の分散された自給自足の郊外都市又は衞星都市等で周繞さるべきである。で、是等衞星都市が永久的に分散された狀態で存在される爲めには、中心都市から是等を分離する廣大なる空地の介在によつて得らるるのである。此の提案の相違する點は、屢々農耕地帶として提案される open develolsment strip を、市街地又は半市街地的——例へば大公園、公園道路、遊戲

註18 Grosstadtbildung by Adolf Rading; in Die Umschau (Frankfurt-a-Main, 6th Sept., 1924) 地圖とダイアグラムを持つ興味ある論文である。

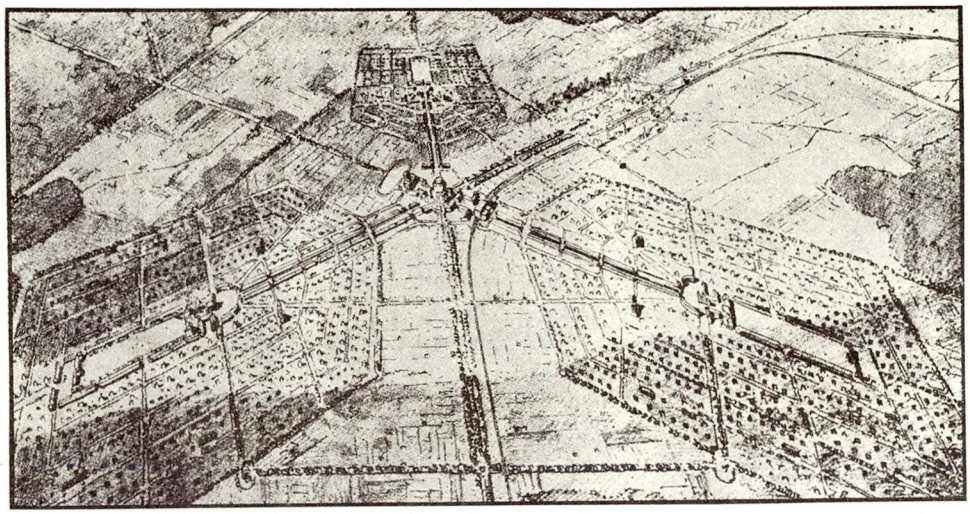
註19 Der Stadtebau, Nos' 11—12, Vol. XIX. 參照

註20 Les Projets d' Aménagement de Lille by C. Hesset, in La Revue Maderne, (Paris 30th Aug., 1923). 參照

註21 これは Nothing Gained by Overcrowding (1918) and elsewhere から轉載したものである。

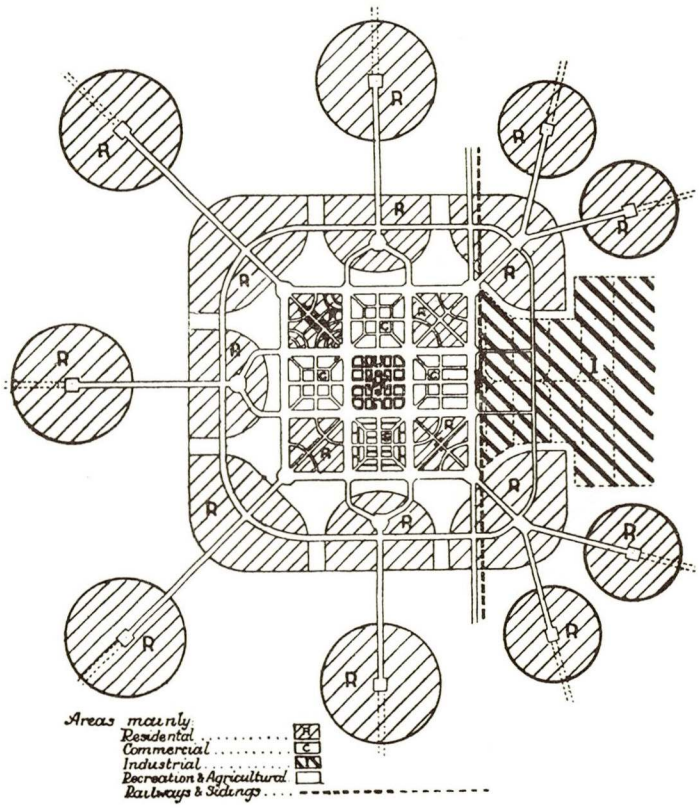
註22 Nothing Gained by Overcrowding, P. 4.

註23 Landescape Architecture. (Jan., 1924.)



（第22圖） 獨逸に於ける中心を持つ三つの田園都市への計畫、

此の三つのものは共に人口 100,000 内外を收容するものとして計畫されたのである。（Herr Paul Wolf, 1922）. 大ドレスデンへの略計畫を準備した Herr Paul Wolf 氏は森林帶や農耕地域で圍繞されて居る工業地又は半田園郊外を更に開發する事によつて衞星都市のアイデアを應用し得る事を示して居る。



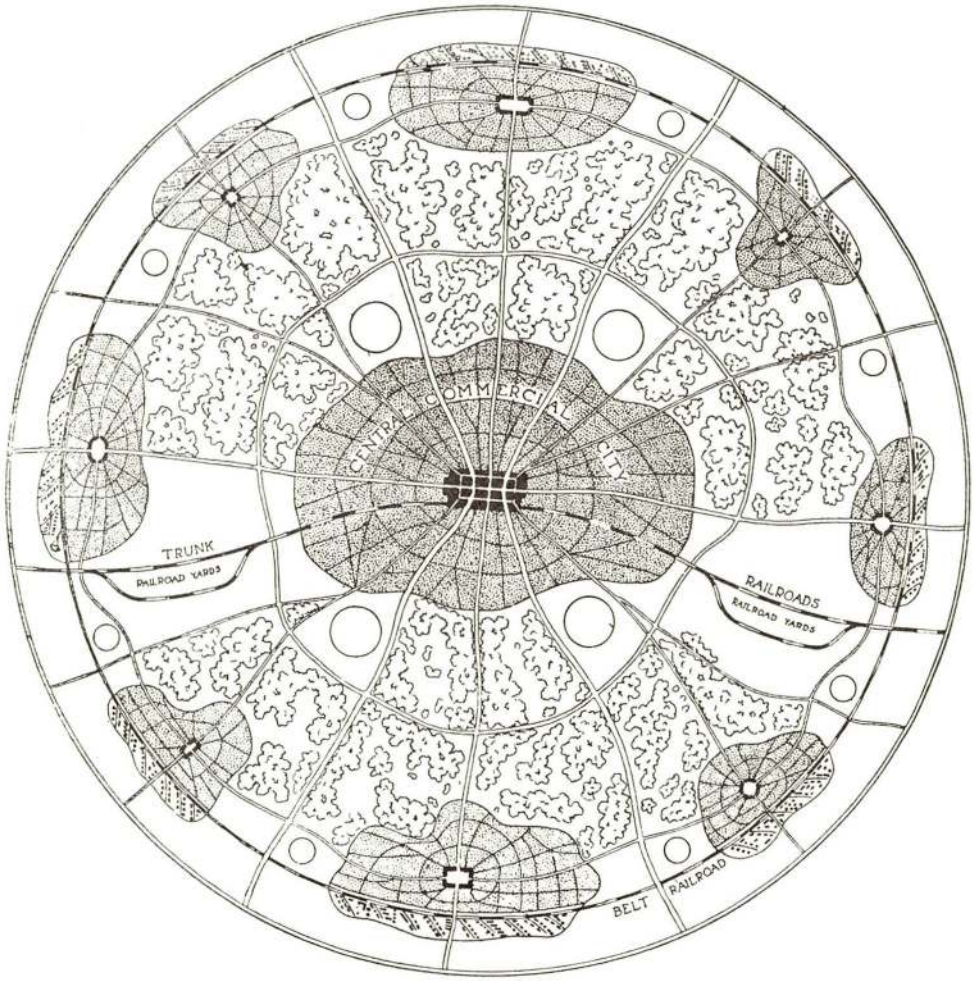
（第23圖） 都市を地域的に分割し且つ空地によつて確定的な地區に分割する方法を提案して居るダイアグラム。

レイモンドアンウイン氏による設計（1922）

運動場、保存森林帶、ゴルフ又はカンツリークラブ、個人的經營地、墓地、上水用沈澱池用保存池、空港、都市、郡、及州等の用地、公共建築物、廣大なる用地を占める私的團體の建物、フエアグラウンド（fair grounds）、汚水處分工場、トラツクガーデン、（truck garden）、溫室及鐵道機關車車庫及客車用操車ヤード——用として使用されてゐる點である。

Open development Strip は以上の如き種々なる用途の外に衞星都市の永久的確保と云ふこともある。又半公開 Strip（Semi-open strip）と云ふのは…交通運輸の技術的進歩改良に就て、將來の危急に遭遇した場合に備へ得る事になるであらうところの土地である。けれど是等の要求に對し、將來の正確なる見通をなす事は不可能であると雖も、將來公開又は建築せざるところの空地が必要であらうことは確である。

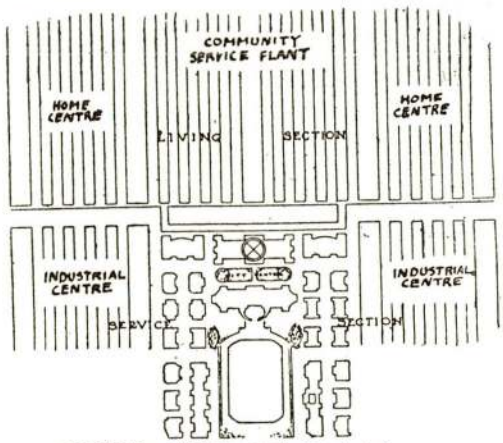
周圍に獨立した衞星都市を持つ中心都市は、その機能を有効に制限する事は許される事である。で、中心都市自體は最初、商業的活動の上に役立つべきで、且つ家庭の人々も、その都市の商業に從事すべきである。大商業都市の周圍に群在する郊外及衞星都市としては、主として工業的に活動し且つ又其處に住む勞働者はその衞星都市内の工場に雇はるべきである。此の方法によるならば、交通、運輸、及住宅等の問題を殆んどなくする事が出來且つ商業的にも亦工業的にもその能率を增加す



（第24圖） ロバートホイツトン氏の衞星都市の理論を圖解してゐるダイアグラム。（1923）

ることが出來るであらう。

更に、此の工業的又は凡ての都市的施設は、各々分散して居る郊外の適接なる進歩と調和への最善なる方法として、種々なる郊外へ適當に割り當て、且つ分配さるべきである。



（第25圖）　科學的に設計された都市のダイアグラム（1920）

〃科學的に設計された都市〃として他の米國の計畫は此處に圖解して居るところのものである。此の計畫の基礎とするところは、近隣都市、又は人口 7,000 乃至 8,000 を有する地方都市として所々に分散せしめる事で、且つ又之れが開發に關しては、完全なる自由を都市に許すべき事を主張して居るのである。[24]（第25圖參照）

是等の計畫は他の計畫と折衷し得るかも知れない、そして上記の計畫はいづれも都市設計に關し、よく行はれて居る傾向の代表的なものとして考へ得るものかも知れない。が然じ、此處で著者は、是等の計畫に關する批評的檢討を試みんとするのではない。さもなくば本章のみで一册の本を書かねばならないかも知れないからである。言ひ換へれば、是等の計畫はいづれも、本書で記述した田園都市概念に對して、或る程度の不足があると雖も、此の問題はいづれも都市計畫の研究者へ、特別な研究分野と充分なる研究の機會とを與へて居る事を指摘すればそれで充分であらう。

然し乍ら、筆者の記述した計畫又は企圖或は又世界各國に於ける住宅の建築及配置計畫（lay-out）等への改善された標準と云ふものは田園都市アイデアの影響によるものである事は明かである。で、その影響の下で〃田園都市方針〃として都市計畫又は住宅政策に對して是等のものを引用するのが習慣の様になつた。そして此の事は本稿の最初の部分で指摘したところである。世界の國々に於ける多數の住宅地及經營地開發計畫が、田園都市のアイデアに幾分でも負ふところがあつたものであることは考へ得るが、上記の如き無差別的用途は甚だ好ましくないところである。何故なれば田園都市の眞の意味が彼等は、著しく缺除して居るからである。又田園都市的考へ方として〃一英町に12戸の住宅〃と云ふ原理の聯想も〃田園都市〃と云ふ言葉の恐らくは非常なる間違つた用途であらう。で、多くの人々は充分なる庭園地を持つた住宅の敷地計畫を〃田園都市的方針〃の計畫と考へてゐるのである。又實際に、都市計畫家自身でさえ、都市のあらゆる開發に就て、その効果に關する必要な注意を與へる事なくそれを空地開發（open dev elopmeut）の原理であると

註24　Housing and Community Planning: The New City, a Planned Physical Equipment, By Robert R, Kern and C. Geschickter. Journal of the American Institute of Architects. Nov. 1920 の附錄。

して非常に信ずる様になつてゐるのはありさうな事である。衞生大臣 I. G. Gibbon 博士の最近に於ける、此の問題に關する著しい批評は相當の强制力を以つて居る様に思へる。即ち彼は此の問題に關し次の如く言つてゐるのである。：—

私は最近〝田園都市的方針〟と稱する所謂開發計畫に關し繰返し云ふのが幾分うるさくなつて來た事を白狀する。即ちこれは〝田園都市〟と云ふ言葉だけで、その內容に就て只單に無智で締りの無い考へ方の〝綠の外套〟をそれに着せて居るに過ぎないからである。私は最近、〝都市計畫が直面して居るところの危險の一は、〝田園都市の開發〟と云ふことが無暗やたらに話されて居る事である。〟と、殆んど說得されて仕舞つたのである。私は田園都市開發に關して强制的に主張して居る人々のアイデアには非常に同情を有して居る。が、然し他方に都市計畫の一端として彼等が好んで〝田園都市的方針〟と稱する様な住宅政策を行はんとする人々には殆んど同情し得ないのである。（實は是等の人々が簡單に田園都市發達の妨害となつて居る譯なんであるが、）[25]

最後に、著者は田園都市の完全な形體として二つの實例を示し得るのは幸ひである。で、世界に於て二つの此の計畫でも、それを持つて居る英國は名譽でもあると思つてゐるのである。それは田園都市又は衞星都市建築の完全なる概念を具體的に表現して居るのである。そこで著者は今や是等二つの田園都市に就て記述するところに達したのである。

（譯者註一本章の筆者パーダム氏は以上の如く云つて第1章第3節の "What is Meant by Satellite Towns" の論說を結び續いて第2章及第3章に於てレチツワス及ウエルウインの兩田園都市を詳細に紹介して居るのである。）

註25 Garden Cities and Town Planning (Dec. 1924.) P. 253

街の美學

元良勳

◇◇瓦◇◇

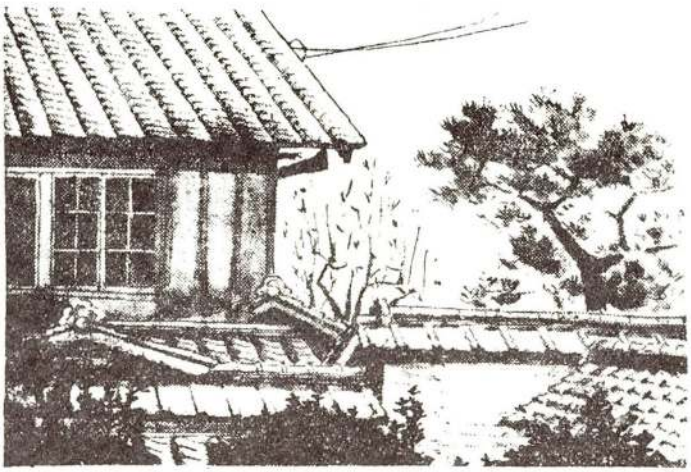
本誌12月號の建築隨想欄に小泉嘉四郎氏が、我が國都市のスカイラインの貧弱さと、瓦屋根の薄汚さとを、いみじくも指摘してゐる。正にその通り、歪んだ棟、波打つ軒、埃をかぶつた憂鬱な瓦の色、蓋し都市醜を代表する尤なるものでもあらう。しかし、此の事實は日本家屋の屋根そのものに責任があるのだらうか。又瓦そのものが救はれ難い缺點を持つてゐるのだらうか。小泉氏は、瓦をもつて最も非現代的のものとして痛烈にコキ下してゐられるが、私自身としては全く別の見方を持つてゐる。現代的なりや否やを暫く問はない事として、私は今瓦の美を識つてゐるのだ。既に見たのだ。そうして今此處に私自身に對する備忘のためにも、此の事實を書き留めて置かうとするのである。

佐野繁次郎畫伯は船場の出と聞いてゐる。彼は生れ乍らにして良き大阪を滿喫し、その中に育ち、その中に完成し、後他國へ出て始めてハツキリと良き大阪の姿を摑み得たのではないかと云ふやうな氣持ちがする。そうして彼の纖細な神經と、愛情の籠つた筆とによつて、良き大阪の姿が、塵と埃とを洗ひ落して再現されたものが彼の畫なのである。鋭い藝術家の眼と筆とを通して、眞の大阪の姿が寫し出されたのである。

彼の描く大阪の畫が私に瓦の美しさを教へて呉れた。瓦の眞實の姿を見せて呉れたのだ。

佐野畫伯は好んで建築のスケツチをされるやうである。或る場合は部分的に、又或る場合は群像として。そうして之れ等の畫を見てゐると、屋根の描く構圖が非常に大きなモーテイフになつてゐる事に氣が付くのである。瓦の並列によつて出來た斜平面が、立體的に構成されて、一つの屋根を造り上げる。手前の屋根は次の屋根へと必然的に交錯して、一つの空間を確立する。そうして此の立體的の構成が瓦によつて出來た面によつてなされてゐると云ふ點が重大なのだ。それは滑かな面ではない。瓦の凹凸によつてリズムをつけられた、柔い手觸りの面である。そうして其の一つ一つの瓦は重大な畫面の一單位となつてゐる。瓦に對する愛着が、數多い其の繰り返しを省略する事を許るさないのだ。刻銘に一つ一つを、愛情を以つて描き續けて行く。

私の家の前、道路を距てゝ、ガツチリした純京都風な木造住宅がある。塀、門、中潜り、母屋と實に面白い聯係をたどつて、複雜な瓦屋根の構成を見せてゐる。佐野畫伯の畫によつて刺戟を受けた私は、大分前の事であるが、此の建築をスケツチして見たのである。始め、瓦なんかザツト描いてしまふ心算りでかゝつだのであつたが、遣り始めて見ると、とても瓦を省略する氣持ちにはなれなくなつて來た。綜合的に美しいのみならず、一枚一枚の瓦がサン然と美しく輝いて見えるのである。そこで御叮寧に一つづゝ刻銘に畫き出した事である。愛情を以つて、樂しく、瓦を畫きつゞけた事である。出來上つた時は嬉しかつた。樂



しかつた。元來無性で億却がりの私に此の仕事をする事が出來た事が誇らしかつた。挿入の寫眞がその書である。心臟が強いと笑はれるのは覺悟の上で、敢えて讀者諸彦の御高覽に供する次第は、まるで小學兒童の寫生の如く、無邪氣に瓦を並べて行つた所を見て戴き度いからである。

瓦の一枚一枚の姿はなかなか味がある。其の波を打つた曲線は合目的の形だと云へるだらう。その色は銀灰色、そうして雨露を含むで少し濕つたときは、一層美しい深みのある色にまでサへ返るのである。但し色艶の褪せた燥涸びた奴が埃を浴びた姿だけは、何んとしても助からない。見るからに疲れ果てた感觸である。

餘りに一枚の瓦にコダワつて語り過ぎたやうである。此の瓦の並列によつて形造られる所の平面、即ち屋根の面が、私には堪らなく美しく見える。それはリズムを持つてゐる。方向を持つてゐる。躍動して空を截り、一轉して地に向ひ、横に竪に空間を劃しつゝ、其處に屋根の律動的形態を造り出すのである。

かくして、瓦の美は、リズムは、屋根のそれにまで展開せしめられて行く。

そうして、屋根の美は、リズムは、都市全體としてのそれにまで、展開せしめられなければならないのである。

◇◇ 屋 根 ◇◇

瓦で葺いた重い屋根は、日本建築を構成する上にエツセンシヤルのものなりや？之れは今私にとつて非常に大きな問題となつてゐる。

社寺建築の形態美を決定する上に、屋根のそれが極めて大きい要素となつてゐる點は、總ての日本建築を理解する人達によつて認められてゐる事であると思ふ。そうして宗教建築の如くに、その外觀が建築そのものゝ生命として考へられるものにあつては、例へ多くの不便を伴ふとしても、その屋根の形を度外視して考へる事は出來ない。即ち屋根の美は社寺建築の生命線なのである。必要缺くべからざるものなる事、敢えて多言を要しまいと思ふ。

所が、一般の住宅建築の場合、此の屋根の形に就いて考へるとき、問題は全く異つて來るのである。

日本住宅の根本的の良さは、その微妙な空間構成の複雜さにある、と云ふのが私の持論である。その考へから見るとき、屋根は完全に雨露を凌ぎさへすれば足りる、即ち單なる實用物以上の何者でもないと云ふ事になる。そうして嘗つての私は、屋根を過大評價する人を、單なる保守的な趣味の人として考へて來たのであつた。しかし、今は大分考へ方が變つてゐる。

關西の大工は全體に良い趣味を理解し、瀟洒な味を出す點に於て、はるかに關東の大工に勝つてゐると云はれてゐるが、特に京都の大工の屋根の扱ひ方の巧なのには、しばしば驚嘆せしめられる。勿論その多く

のものは。凝り過ぎて、無くもがなの小細工を弄してはゐるが。

すでに前の項で瓦と共に述べたやうに、私は屋根の美しさを今では餘りにハツキリと意識し過ぎてゐる。實際京都の街を歩いて感じる、その街の持つ落ち着いた寂びのある氣分と云ふものは、その屋根の醸し出す雰圍氣を取り除いては考へる事は出來ないのである。そうして、通りすがりにチラと眼につく屋根が、別に大して技巧を弄したと云ふわけでもないのに、何か人を惹きつける懐しさを持つてゐるやうな場合にしばしば出くはすのである。自分の故郷を見出したやうな心易さを感じるのである。

此の屋根の持つ良さは、瓦と共にしてしか考へられない。——檜皮葺や萱葺の良さには暫く言及しない事として——如何に私が屋根を讃美したからとて、セメント瓦のあのカスカスした感觸や、トタン波板の輕薄な屋根までを美しいと云ふのではないのだから。速い話しが、震災後の東京のあのブリキ屋根を想ひ畫いて見て戴き度い。大體東京の住宅は大部分が四注屋根の一點張りで元來屋根の美しさを忘れて出來た建築であつたのだが、地震に懲りて屋根を輕くするために、瓦を外してブリキを張つたのだ。ブリキで瓦の形を造つて張つたのだ。御叮寧にブリキ製の鬼瓦まで載つけて屋根が復興したのである。ヒドイものだ。情ないものだ。之れが他所事なら笑つても濟ませるが、日本の帝都東京の復興した姿なのだ。東京の人々は金輪際屋根の美しさがワカらないらしい。自然心ある人達をして屋根の無用を叫ばしめるのではないのだらうか。

私は東京に育つて、當時すでに建築には興味を持つてゐたのであるが、日本建築の良さに對する眼は未だ全然開けてゐなかつた。たゞ單に淡い憧れを持つてゐたに過ぎなかつた。京都に來て始めて檜皮葺の神社を見たときの感激、之れは今でもハツキリと憶えてゐる。故郷を見た喜びである。所謂る瞼の祖先に遇ふ喜びとも云へるだらう。そうして歳と共に屋根に對する愛着は成長して行つた。理論でもつて此の感情を抑へて見た事もあるけれ共、其れはたゞ腦皮の表面をカスつて去る一遍の理論にしか過ぎなかつた。今になつて此の愛着は單なる個人的な傾向ではなく、もつと根の深い民族的とでも云ふべきものではないかと思ひ出してゐるのである。

建築が單に住む爲めだけのものでなく、それは地上に創り出された一つの自然と見るときに、屋根の問題はすでに實利一方の域を脫してゐる。山に樹が茂り繁る如く、建築が屋根を冠するのは自然の姿でもあらうか。現在自分としては、瓦屋根の持つ美しさは、日本的な一つの要素であると斷言し度いのである。たゞ、之れに代るもつと合理的な方法が生み出されると云ふ事は可能である。又生み出されなければならないものとも思ふ。しかし、その次の段階への躍進は、瓦屋根の美しさを理解した、愛情の上になされなければならないと思ふ。反對物への飛躍ではなしに、瓦屋根の持つ缺點を揚棄した段階であらしめなければならないと思ふ。

しかも尙私は迷つてゐる。ヒツトラー治下の獨乙に於て近頃建設される建築が、やたらに屋根をつけ出した。屋根とファツショとは何か必然的な因緣があるのだらうか？若しありとすれば、私の今持つてゐる感情は、年と共に强まつて行く保守的な傾向の一の現れなのだらうか？

それはそれとして、昭和十二年劈頭の話題である、四つ橋の電氣科學館並にプラネタリウム、之れは新名君の設計であるため、餘り仲間賞めする事は避けるとしても、確かに良い建築である。そうして此の建築が屋上に雄大なドームを覗かせてゐる

事によつて此の建築を決定的に個性づけ、單に平凡になるのを救つてゐるのみならず、極めて悠然とした外觀を與へてゐる事に注意すべきである。此の事實と瓦屋根の讃美とは、一見何等の關係もない事乍ら、私の心の中では、可成り大きな關聯を以つて此の二つの事が渦を巻いてゐるのである。

私は迷つてゐる。

◇ ◇ 街の性格 ◇ ◇

私は街を歩くのが好きである。成る可く電車通りを避けて、横丁へ横丁へと曲つて行く。何か知らず樂しいものである。素晴らしい未知の國へでも出るのではないか等と云ふ、お伽噺めいた空想さへ湧いて來る。

大阪の人は京都の街を汚いと云ふ。又京都の人も大阪へ行つてその繁華に驚嘆の聲を漏らす。しかし、大阪の街の美しい所は主要の街路だけであつて、その裏街は勿論の事、表通りも汚い所の方が多い。家も汚い。人も汚い。何から何まで埃のヴェールを被つてゐる。先づ大阪では船場島ノ内、此の界隈を除いては、歩る く氣が起らないのである。電車に乘つてゐてさへ、阪急前から都島へ出る線、堂島大橋から南下する線、櫻島線、築港線、心樂しまざる事筆舌に盡し難いものがある。此んな街をいくらウロついても、瓦や屋根の美しさは金輪際ワカらないのである。

裏街放浪の好もしさは、何んと云つても京都のものであるらしい。

街によつて住む人の職業なり、資財の程度なりが違つて來るのは當然の話しで、此の相違が街の性格となつて現れて來る。建築も違ふ。通る人も違ふ。道巾も違へば、犬の種類までが變つて來る。此の街の性格を味ひながら、次へ次へと漫歩を延ばして行く。問屋街から高級住宅街へ、突如として繁華な商店街へ、再び、横丁にモグリ込んでほんとの裏町へ、それを抜けると寺の境内へ、それが京都の寺だ、他所の寺とは少し許り違つてゐる。かくして街々の性格の綜合が、大都市京都の性格を造り上げて行くのである。

それにしても、何故京都はこうも靜かなのだらう。電車も通るし、勿論自動車だつて、人口並みには走つてゐるのだ。一面に人の波と云ふやうな雜踏だつて決して珍らしくはない。それでゐて、その喧噪を少しも感じないのである。之れは不思議な事である。私にとつて、未だに解き得ない一つの謎である。

京都の街は御承知の如く碁盤目である。だからと云つて、パースペクティブの見本みたいな、行手はるかに心細くなつてしまふやうな、幾何學的の直線の道は決して無い。皆適當に曲つたり、喰ひ違つたりして、次への展開に對する好奇心を充分に滿足させて呉れる。

周圍を劃する山の姿も、京の街を性格づける重要な素材である。樹木の少しも無いやうな街を歩いてゐても、必ず正面に見えるであらう所の山の衣粧は、私に季節を思ひ出させて呉れる。それにつけても怨めしいのは、何時ぞやの風害である。山の美しさも、寺や社の床しさも、臺なしにしてしまつた。元の姿に立ち返るのには、恐らく數百年を必要とするのではないのかと思ふ。風害後に京見物に來た人達に、御丁寧にそれ以前の姿を語つて、まるで自分が惡い事でもしたやうに辯解する私をフト見出して、微笑しく思ふ時がしばしばある。

京都には未だ私の識つてゐない街が澤山ある筈である。何んだか寶探しでもしてゐるやうな私の街歩きは當分續けられるであらう。

樂しい事である。(12、1、16)

"石工符牒"の話

森　忠一

昭和11年6月一時大阪人の話題の中心となつた所謂大阪城渦水異變の際、同城に於て濠の石垣の表面に文字や紋章の如き多くのサインが發見せられました。

當時これ等は新聞紙上[1]で〃大名サイン〃とか、石垣の〃珍サイン〃等の呼稱のもとに報道されました。西洋にもかくのごときサインが古代並に中世の寺院や城壁に見出されて、それぞれ文字や圖形の性質、及その使用目的の異るに從て石工符牒（mason'smark, Steinmetz zeichen, marque de maçon）石割符牒（maque d'appareillage）下請人記號（marque de tâcherons,）碑銘サイン（Signes lapidaires）碑銘モノグラム（monogrammes lapidaires）と呼ばれて古くより研究されて居ます。今手許の僅かの參考書や筆者の旅行スケツチの中より東西建築に於ける石工符牒の二三に就ての小話を試みたいと思ひます。

•∴•

石工符牒は金石文中の極めて特殊なる部類に屬するものでありますが元來我が國では支那や西洋に比して金石文少くその研究も比較的に新らしく所謂金石家としてこの方面の研究家が漸く明和の頃より出現したといはれてゐます[2]。

古來我が建築では石材のを多く使用しないため、その結果として當然石工符牒も少く最近では僅かに城の石垣にあるものが發見され研究されはじめたものの如くに思はれます。今それ等の一、二の例に就て說明いたしませう。

大阪府廳舍の玄關車寄の向つて左側の植込の中に大きいその表面に分銅印（圖1）の刻まれた花崗岩の置かれてあるのを在阪の讀者の多くは御承知の事と思ひますが、それに就ては建札の解說に「豐太閤大阪城築城ノ節諸大名ヨリ寄進ノ巨石當時機械が不充分ノタメ運搬陸揚ノ際過ツテ河中ニ落シタルモノノ内一部此ノ地ニ移シ記念トス。昭和八年九月」。最後に「分胴ノ刻印ハ豐後臼杵ノ城主ヨリ寄進ノモノト稱セラル」と追記されてをります。即ちこの分胴の印は寄進の大名を識別するための石工符牒であります。又昨夏大阪城の石垣に於て調査[3]せられた符牒の中（**田中築後守**－〇**豆島00**）（**あしや太一**）（**あしや九**）（**こん太夫**）（**こん六郎**）が發表されてゐます、即これ等は石材の寄進者である大名の姓名や石の生產地、又は石工の通稱名や數字及大名の紋章等がその主たるものであります。

我が國の一般建築には石材の使用少きため石工符牒の多く見出されざる事は前述の如く

註1　大毎昭和11年6月13日、大朝昭和11年6月17日

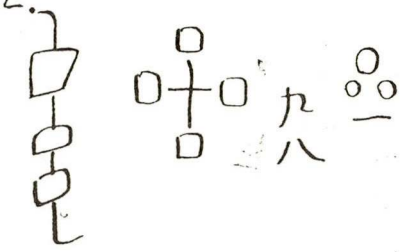
註2　木崎愛吉、大日本金石史附錄

註3　大阪城歷史館の平林、岸本兩氏の調査 d'appareillage. Bulletin mon. 1904p. 111.）これには Vogue 伯 Reinach Salomon. A. Evans. A. choisy 等の著名なる考古學者の著作が見出される。

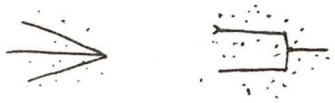
1



2.



3.

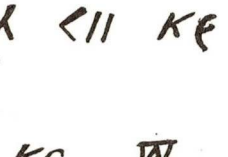


4.

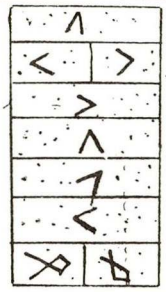
FR S II FR S III

FR D IV

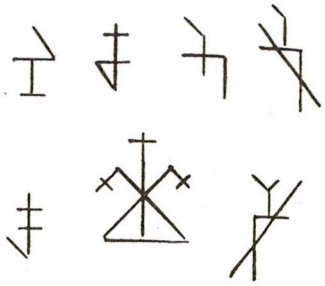
5.



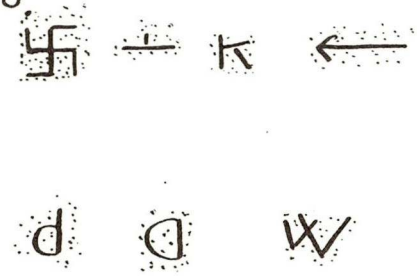
6.



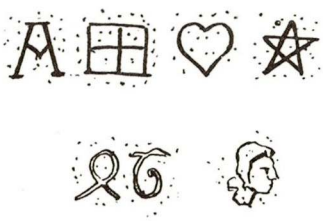
7



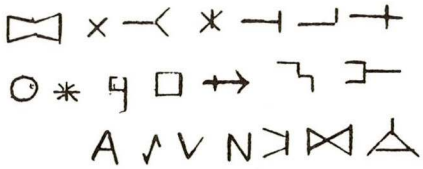
8.



9.



10.



石　工　符　牒（前掲圖説明）

1. 大阪城築城のための石材に刻するもの（大阪府廳の庭にあり）
2. 大阪城に於て發見されたるもの（昭和11年6月、大阪毎日新聞所載に依る）
3. 古代建築に存在するもの（Knossos）（クレタ島）の發掘場にて1933年スケツチ）
4. ローマ時代の積方符牒（marques de repose），（Emile Esperandieu-Le pont du gard 所載による）
5. ビザンチン時代（A. Choisy-Art de Batir chez les Byzantins に依る）
6. 中世期の積方符牒（F. Benoit L'Architecture accident mediéval に依る）
7. ドイツ中世期の石工モノグラム（Steinmetz monogramme 在 Nürnberg Karl Heideloff-Baubütte des mittelaeters in Deutschland に依る）
8. ドイツ中世期のもの〔Bamberg 教會（obere pfarrkiorche）にて1934年スケツチ〕
9. フランス中世期のもの　在 La Ferte-Alais（上段圖）　在 Reims 寺院（F. Benoit, L' Architecture occident mediéval に依る）
10. フランス中世期の在クーシイ城（château de concy）（Camille Enlart-Manuel d'archéologie Francaise より轉載

でありますがこれに反して我が建築の特徴としてその主要なる役割をなす屋根瓦の類に多くの興味ある銘文を書けるもの少くなく今日尚多くの古社寺の屋根の上に見出すことが出來ます。これには瓦大工の姓名（時にはその年齢をも附記するものがあります）とか瓦の製作年月或はその種類と枚數の内譯明細を記入するものがあります。これ等以下述べます西洋の石工符牒や建築に關する碑文に匹適して我が古建築研究の上に興味あり且貴重なる資料を提供してゐます。

•∴•

西洋の古代建築即ち地中海沿岸諸國の古典建築には歷史的に又は文學的に價値のある銘文や建築術そのもの即建築法規、現場規定、請負契約に關する碑文や圖示が尚多く保存され研究されてゐます。この時代の石工符牒の著名なものとしてはクレテ島の發堀、ギリシヤ本土の遺跡、ポンペイの古代ローマ人の都市やエスパニヤ並に南フランスに殘るローマ人の水道等に（aqueduct）發見されたるものがあり、之等に關する研究は19世紀末より今世紀のはじめにかけて多く發表されて居ります。[4]

この時代の石工符牒としてギリシヤ前期のものとしてローマ時代のものを示しませう。（圖3）は1933年恩師森田慶一博士に從つてギリシヤに古建築行脚の際にクレテ島の所謂

註 4　Ad Blanchet の掲ぐ石工符牒に關する文献目錄（Bulletin monumental 1904 p. 111）の中には Voguë 伯 Reinach Salomon. A. Evans その他多くの著名なる考古學者の研究が擧げられて居ります。

ミノス（minos）の宮殿として著名なるクノソス（Knossos）發堀場に於て收錄せるものでこれらに關してはクノソスの發堀者エバンス卿（Sir A. Evans）の極めて立派な詳細なる研究ある事を同博士より聞いて居ます。

（圖4）は南佛に於てローマ人の手によつて築かれた有名な水道橋ポンジュガアールのアーチのブロックに刻まれたもので明らかにアルファベットとローマ數字との組合せたものであります。これ等は、石工符牒の中の積み方符牒（marque de repose）と呼ばれるべきものであります。即ち FRS FRD はそれぞれ Fronte Sinistra,（左正面）Fronte Dextra（右正面）の省略文字でありローマ數字と共に石積の場所、順序を示すものであります。

•⁘•

東ローマ帝國の建築所謂ビザンチン建築にも石工符牒を有するものが多く中にもコンスタンチノープルの聖ソフイア、サロニカの舊劇場跡、同市の外壁の石工符牒は特に著明であります。これらの研究に關しては筆者の知る狹い範圍では古代建築の構造並に建築工事場の組織に造詣深い點に於て建築史家として特異の立場にあつたジョワジー（Choisy）[5]のものが權威あるものの一つでありませう。

この時代の石工符牒（圖5）は2個のアルファベットを組合せたもの多くこれは石工の姓名の所謂イニシャルであつて時には姓名がフルネームで書かれてゐます。

又この時代のサインの特徵としては同じサインがキヤピタルにもドラムにも又單なる壇石のブロックにも見つけられてゐますがこれに反し、西ローマ帝國の建築には同一のサインが一定の部分にしか見出されません。この事によつて前者にあつては同一職人が種々の仕事を受持ち後者にては仕事が專門化してゐた事が考へられてゐます。

中世期の西歐では所謂ロマネスクやゴシックの建築が隆盛を極めました。石工符牒も略々それ等の建築の進展に伴ひ歐洲の南部では11—13世紀のロマネスクよりゴシックの初期に出來た建物に多く見出され、中部歐洲ではゴシック末期よりルネサンス初期にかゝる建物に多くその例があります。建物の性質より分類しますとキリスト教寺院及びこの時代に隆盛を極めた所謂中世都市の城壁が最も多く石工符牒を保存しアビニヨン（Avignons）ニユルンベルグ（Nürnberg）等の都市の外壁城壁やランス（Reims）シヤルトル（Chartres）ストラスブルグ（Strasburg）其他ラインやバイエルン等の南ドイツ地方の伽藍並にクーシイ（Coucy）の城（圖10）にあるものが普通によく知られた例であります。

中世の石工符牒が古代建築の遺物に刻まれてゐる特殊な例があります。前述のローマ時代の水道橋ポンジュガアールにローマ人の手になる銘文以外に中世期の人名と石工の使用する鑿や槌等の道具の圖を併記せるものがあります。これ等は中世期の職人の內に於て當

註 5　Art de batirchez les bes byzantins p. 171 marque d'ouvriersbyzantins à Constantinople à Nicée, et à salonique（Rev. archéol. 1876）

時屢々行はれた全國周遊の途中この古代建築をも見學した際に刻みつけたものと思はれます。當時石工が徒弟より一人前の親方になるためには〃三回の旅行：三つの工事〃を了へなければならないといふ信條があり、又彼等のもつ石工道具の各々にも中世期的なシンボリックな且古實的な意味をつけてゐたものと云はれてゐます。[6]

中世期の歐洲では商工階級のギルド制徒弟制度が盛んであつたため、一般に之等に關する研究多く特に中世建築に於ては石工が重大な役割を演じてゐたゝめ、石工の生活程度、技能教養習慣に關する事項が中世建築史の一章であり、又石工符牒はその中の少くとも幾行か幾頁かをなしてゐます。

最後に上述の東西兩建築にあらはれた石工符牒を要約しますと符牒としては一般に容易に刻みやすい簡單な圖形や文字よりなるもの多く即ち幾何學な形、數字、アルファベット、人名、地名の一部又は全部及、石工用道具等の圖等であります。石に刻まれた大名の紋章は他國に例を見ない我が國特有のものでありませう。符牒を畫かれた動機より分類しますと小徒弟より親方に至る石工又は職場や石切場の識別及石材の勘定に便なるための符牒と石のブロックを積む順序を示すためのものがあります之等のカテゴリーの何れにも屬しないものとして單なる所謂落書もある事でせう。以上は古代並に中世に關する石工符牒の話でありますが近世及現在の石工間に使用されて居る符牒に就ては別に考へたいと思ひます。(15—I—37)

註 6 Von Felix Durach— Mittelarterliche Bauhütte und Geometrie S. 53

本號執筆者紹介

（五十音順）

尾龜清四郎	須賀商會
尾崎祐治	都市計畫東京地方委員會
龜井幸次郎	大阪府警察部建築課・技師
小泉嘉四郎	大阪市校園建設所
堀口甚吉	大阪府立西野田職工學校・本協會常務
宮田秀穗	大阪市經理部營繕課
元良勳	大阪市土木部橋梁係・技師
森忠一	村野建築事務所

2 月 號

フランスの地方計畫立法

尾崎祐治

序言

フランスの都市計畫法としては、1919年3月14日の法律及1924年7月19日の法律がある。之に依ると、人口1萬以上の都市及法律の特に指定した町村は都市計畫(projet communal d'amenagement, d'embellissement et d'extension)を作成して道路、自由空地、衞生、歷史竝風致上の見地よりする諸種の制限等を定めることを要する。又土地所有者又は借地權者が譲渡又は賃貸の目的を以て建設する住宅集團及譲渡又は賃貸の目的を以てする住宅劃地の設定にして相當の規模を有するものに對しては、其所在地の如何に拘らず種々の規整を加へてゐる。更に最近に至つて、共同の利害を有する一地方内の都市計畫を總括する地方計畫(projet régional)の必要が認められ、數次に亘つて關係諸法令を整備し、其進捗を圖ることとなつた。尤も既に1919年3月14日の法律及1924年7月19日の法律第8條及第9條は數都市が利害關係を有する事項に付、關係都市の協力を規定してゐるが、其必要な場合に於ても之を強制し得ないこと、錯雜せる利害を調和する手續の不完全なこと等の點で遺憾な所があつたのである。斯くして1932年に先づ巴里地方計畫が企てられ、次で1935年に之が一般化せられた。而して次に來るべき問題は、更に此等地方計畫を綜合する國土計畫(programme national)の完成に在るとせられてゐることは注意すべきである。以下は地方計畫關係法令中2つを譯したもので、之に若干の註を附け加へた。

巴里地方計畫作成ニ關スル1932年5月14日ノ法律

(Loi du 14 mai 1932 autorisant l'etablissement d'un projet d'amenagement de la region parisienne)

第1條 巴里地方ハ單一ナル地方計畫ニ依リ之ヲ開發規整スルモノトス。

巴里地方内市町村(Communes)ノ都市計畫ハ當該地方計畫ノ趣旨ニ從ヒテ之ヲ作成スベシ。

第2條 巴里地方ハ Seine縣全部、巴里ノ周圍最大35粁以内ニ在ル Seine-et-Oise縣及 Seine-et-Marne 縣ノ區域並 Oise 縣ノ一部ヲ包含スルモノトス、

前項ノ區域ニ屬スル市町村ハ關係縣會(Conseils généraux)及巴里地方計畫委員會(Comité Supérieur de l'aménagement et de l'organisation générale de la région parisienne)ノ意見ヲ聽キテ内務大臣之ヲ決定スベシ、

巴里地方計畫ハ1919年3月14日ノ法律及1924年7月29日ノ法律ノ定ムル樣式ニ從ヒ、本法公布後1年以内ニ之ヲ作成スベシ、

註1. 巴里地方計畫區域は面積51萬2千ヘクタールで、656の市町村を包含し、(内 Seine 縣81、Seine-et-Oise 縣387、Seine-et-Marne縣105、Oise 縣83)總人口は約650萬である。

註2. 本條第3項の1年の期間は、1934年6月10日の法律に依り更に1ケ年延長された。

第3條 地方計畫ハ內務大臣ノ下ニ於テ巴里地方計畫委員會之ヲ作成スベシ、

前項ノ規定ニ依リテ作成シタル地方計畫ハ之ヲ關係市町村ニ於ケル審査ニ付シ、且之ニ關シ關係市町村會（Conseils municipaux）. 縣衞生參事會（Conseils départementaux d'hygiène）. 商業會議所（Chamhres de commerce）. 農會（Chambres d' agriculture）. 縣開發委員會（Commissions départementales d' aménagement et d extension）及縣會ノ意見ヲ聽クベシ、

前項ノ手續ヲ經タル地方計畫ハ法律ニ依リテ認可セラレ且公益認定ノ宣言（Déclaration d' utilité publque）ヲ爲サルヽコトヲ要ス、此法律ハ地方計畫ノ施行規則ヲモ定ムベシ、

註1. 地方計畫は公益認定の宣言を受くるに因り執行力を有するに至る。

註2. 巴里地方計畫委員會は1928年3月26日の大統領令（Décret）に依り巴里地方內市町村の利害を調和する機關として設定されたものであるが、更に本法に依り地方計畫作成の任に當ることとなつたのである。

此委員會は次の5の小委員會に分れてゐる、即1. 立法及財政、2. 計畫作成、3. 計畫施行、4. 公企業、5. 交通、運輸の5である。

註3. 巴里地方計畫は1934年5月14日其作成を終り、內務大臣の許に提出され、又其審査に關し1934年7月29日の大統領令が制定された。

第4條 地方計畫作成ニ要スル經費ハ500萬法トシ、國庫之ヲ負擔ス。

第5條 本法公布後ニ於テハ、巴里地方內市町村ニシテ1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律ニ依リテ都市計畫ヲ作成スル義務ヲ負ハザルモノニ對シ、內務大臣ハ巴里地方計畫委員會ノ意見ヲ聽キタル上同法ニ依ル都市計畫ノ作成ヲ命ズルコトヲ得、

前項ノ命令アリタルトキハ當該市町村ハ1年以內ニ都市計畫ヲ作成スベシ。

第6條 本法公布後ニ於テ、巴里地方內市町村ノ都市計畫ニ付公益認定ノ宣言ヲ爲スニ當リテハ巴里地方計畫委員會ノ意見ヲ徵スベシ、

地方計畫ヨリ以前ニ公益認定ノ宣言ヲ爲サレタル都市計畫ハ關係縣知事又ハ市町村長ノ發議ニ依リ之ヲ變更シテ地方計畫ニ合致セシムルコトヲ得、

前項ノ變更が爲サルル以前ニ於テモ、當該縣知事ハ公益認定ノ宣言ヲ受ケタル地方計畫ニ牴觸スル都市計畫ノ施行停止ヲ命ズルコトヲ得。

第7條 巴里市及Seine縣ハ夫々市町村組合及縣組合ニ參加スルコトヲ得、

參事院（Conseil d' Etat）ノ議ヲ經タル大統領令ハ巴里市及Seine縣ニ對シ地方計畫事業施行ノ爲メニスル起債ヲ認可スルコトヲ得。

第8條 本法公布後ニ於テハ、巴里市ノ周圍60粁以內ノ住宅集團（groupe d' habitation）又ハ住宅劃地設定（latissement）ニ對シ、1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律ノ規定ニ依リテ與フル許可ハ巴里地方計畫委員會、關係縣知事及關係市町村長ノ意見ヲ聽キタル上內務大臣之ヲ爲スベシ。

註　住宅集團（groupe d' habitation）とは、土地所有者又は借地權者が讓渡又は賃貸の目的を以て建築する住宅の集團にして、相當の規模を有するものを謂ふ。

住宅劃地設定（lotissement）とは、讓渡又は賃貸の目的を以て土地所有者の爲す住宅劃地の設定にして、相當の規模を有するものを謂ふ。

第9條 1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律ニ基ク都市計畫ニ依リ設定セラレタル住居地域ニシテ巴里地方ニ在ルモノニ於テハ第1級又ハ第2級建築物ノ新設ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ。第1級又ハ第2級ノ既在建築物ニシテ前項ノ地域內ニ在ルモノニ付テハ、近隣ニ及ボス障害ヲ加重セザル場合ニ限リ其修繕ヲ許可スルコトヲ得、大統領ハ參事院ノ議ヲ經タル大統領令ヲ以テ、第3級建築物ニシテ特ニ危險又ハ有害ナルモノニ付、之ヲ本法ノ適用ニ於テ第2級建築物ト看做スコトヲ得。

註　參事院（Conseil d' Etat）の議を經た命令は法律と同樣の効力を有する。

第10條 本法公布後ニ於テハ、巴里地方內ニ在ル面積1ヘクタール以上ノ樹林地及公園ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルニアラザレバ他ノ目的ノ爲メニ之ヲ開發スルコトヲ得ズ、內務大臣ハ此許可ヲ與フルニ當リテハ巴里地方計畫委員會及關係縣知事ノ意見ヲ徵スベシ、面積1ヘクタール未滿ノモノニ付テハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キタル後縣知事其開發ヲ許可スルコトヲ得。

第11條 巴里地方計畫委員會ハ內務大臣ニ屬

シ、會長ハ大統領、書記官長ハ内務大臣之ヲ任命ス。

巴里地方計畫委員會ハ次ノ構成員ヨリ成ル。

1. 上院ノ選擧セル上院議員6人、下院ノ選擧セル下院議員10人、參事院副議長及内務大臣ノ指名セル參事院議員4人。
2. 關係縣知事又ハ其代理
3. 關係縣會ノ選擧セル縣會議員14人（内 Seine 縣7人、Seine-et-Oise縣4人 Seine-et-Marne 縣2人、Oise 縣1人）Seine縣會ノ選擧セル議員中少クトモ3人ハ巴里市近郊ノ郡（Canton）ヨリ、又他ノ縣會ノ選擧セル議員ハ巴里地方内ノ郡ヨリ選出セラレタル者タルベシ。
4. 關係市町村ノ代表者14人、其選出方法次ノ如シ。

巴里市會ノ指名セル者3人、Seine縣會が知事ノ發議ニ依リ同縣市町村長中ヨリ選擧セル者4人、但縣會議員タラザル者ニ限ル。

Seine-et-Oise 縣會が知事ノ發議ニ依リ巴里地方内ノ同縣市町村長中ヨリ選擧セル者4人、但縣會議員タラザル者ニ限ル。

Seine-et-Marne縣會が知事ノ發議ニ依リ巴里地方内ノ同縣市町村長中ヨリ選擧セル者2人、但縣會議員タラザル者ニ限ル、

Oise 縣會が知事ノ發議ニ依リ巴里地方内ノ同縣市町村長中ヨリ選擧セル者一人、但縣會議員タラザル者ニ限ル。

5. 内務大臣が法律家、官吏、都市計畫家、技術者其他ノ者ヨリ任期3年ヲ以テ任命セル者40人。

第12條 本法ノ施行ニ關スル規則ハ參事院ノ議ヲ經タル大統領令ヲ以テ之ヲ定ム、

註 本法の施行に關するものとしては、1932年7月30日、1932年10月26日及1934年7月29日の大統領令があるが、更に1935年7月25日に地方計畫の實現を容易ならしむる爲め3つの大統領令が制定された。此は1935年6月8日の法律に依り發せられたもので、法律と同樣の効力を有する。其規定事項の二、三を擧げて見ると、協同委員會（Comité de coordination technique）の設定、地方計畫の認可前に於て、將來計畫の施行を妨げる處のある建築を防止する縣知事の權限、地方計畫事業の國防的見地よりする公益認定の宣言、計畫より生ずる損害の補償等がある。

地方計畫作成ニ關スル1935年7月25日ノ大統領令

（Décret-Loi du 25 juillet 1935 autorisant la création de projeto regionaux）

註 此大統領令は1935年6月8日の法律に依り制定されたもので、法律と同樣の效力を有する。

第1條 市街地ノ連續若ハ其傾向又ハ農業、商業、工業、鑛業、慰樂其他ノ見地ヨリ共同ノ利害ヲ有スル市町村ハ同一ノ縣（département）内ニ在ルト否トヲ問ハズ、1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律ニ依ル開發ノ目的ノ爲メ結合シテ一ノ地方（Région）ヲ形成スルコトヲ得、

同一地方ニ屬スル市町村ハ單一ナル地方計畫（projet règional）ニ依リテ之ヲ開發スベシ、

第2條 本令ノ公布後6ケ月以内ニ當該知事ハ豫定地方内ノ市町村會代表者ヲ招集シテ本令ノ適用ニ付協議ヲ爲サシムベシ、

豫定地方總人口ノ2分ノ1以上ヲ代表スル市町村會又ハ豫定地方内市町村會ノ3分ノ2以上ノ承諾アリタルトキハ、關係縣會ノ同意ヲ得、且都市計畫高等委員會（Commission supérieure d'amenagement. d'embellissement et d'extension des villes）ノ意見ヲ聽キタル後内務大臣ノ爲シタル提議ニ基キ、大統領ハ大統領令ヲ以テ當該豫定地方ヲシテ地方（Region）ヲ形成セシムベシ、

第3條 地方計畫ハ地方計畫委員會（Comite regional）之ヲ作成スベシ、地方計畫委員會ハ次ノ構成員ヨリ成ル、

1. 關係縣知事又ハ其代理、
2. 關係縣會議長、
3. 關係郡會議員、
4. 關係市町村長、
5. 人口1萬ヲ超ユル都市ニ於テ、都市會が人口5萬毎ニ1人ノ割合ニテ選出スル都市代表、但人口5萬未滿ノ都市ノ代表ハ1人トス、

6. 都市及村落開發ニ關スル縣委員會ノ代表、(Commission départementale d′ amenagement des villes et villages)
7. 名勝及天然紀念物ニ關スル縣委員會ノ代表、(Commission départementalldes sites et monuments naturels)
8. 縣衞生參事會ノ代表2人、
9. 縣會計主任官、
10. 縣知事ノ指名セル者4人乃至8人、

關係縣が1ナルトキハ其縣ノ知事(Préfet)ヲ地方計畫委員會ノ會長トス、關係縣が2以上ニ亘ルトキハ、地方計畫委員會ノ會長ハ第2條ノ大統領令ヲ以テ關係縣知事中ヨリ之ヲ任命ス、

地方計畫委員會ハ第2條ノ大統領令公布ノ日ヨリ3ケ月以內ニ縣令(arrêté préfectoral)ヲ以テ之ヲ組織スベシ、關係縣が2以上ニ亘ルトキハ、當該縣知事共同シテ之ニ關スル命令ヲ發スベシ、

第4條 地方計畫委員會ハ遲クトモ第2條ノ大統領令ノ發セラレタル日ヨリ2年以內ニ地方計畫ヲ作成スベシ、地方計畫ニ於テハ特ニ維持、建設又ハ變更スベキ幹線道路、保存又ハ開發スベキ自由空地及樹林地、地域、衞生、照明、上下水道、汚物處理等ニ關スル計畫ヲ決定スベシ、

地方計畫ニ於テハ、1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律が都市計畫ニ付規定スル諸種ノ制限及市町村令ニ付標準規定ヲ設クベシ、

地方計畫ニ於テハ、其施行方法、殊ニ其施行ヲ擔任スル團體ヲ決定スベシ、市町村組合が其施行團體ニ指定セラレタルトキハ、地方計畫ニ付公益認定宣言ヲ爲ス大統領令中ニ於テ其組織ヲ規定スベシ、

第5條 地方計畫作成費ハ、前年ノ市町村稅額ニ應ジ地方計畫委員會之ヲ關係市町村ニ割當ツベシ、

第6條 地方計畫ハ之ヲ1934年2月18日ノ命令ノ規定スル審査ニ付シ、都市計畫高等委員會ノ審議ヲ經、且公共衞生高等參事會(Conseil supérieur d′ hygiène publique de France)ノ意見ノ聽キタル後、內務大臣ノ爲スベキ提議ニ基キ、參事院ノ議ヲ經タル大統領令ヲ以テ之ヲ認可シ且其公益認定ノ宣言ヲ爲スベシ、

註 地方計畫は公益認定の宣言を受くるに依つて執行力を付與せられ、關係市町村は之に從つて其都市計畫を作成すべきこととなる。

第7條 (缺)

第8條 地方ヲ形成スル大統領令ノ公布アリタル後ハ、地方內市町村ノ都市計畫ハ知事之ヲ地方計畫委員會ノ議ニ付シタル上內務大臣ニ送附スベシ、

地方內市町村ニシテ、1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律ニ依ル都市計畫作成ノ義務ヲ負ハザルモノニ對シ、縣知事ハ地方計畫委員會ノ意見ヲ聽キタル上、縣令ヲ以テ期限ヲ付シ同法ニ依ル都市計畫ノ作成ヲ命ズルコトヲ得、

既ニ作成セラレタル都市計畫ハ其公益認定ノ宣言アリタルト否トヲ問ハズ、縣知事又ハ市町村長ノ請求ニ依リ之ヲ變更シテ地方計畫ニ合致セシムルコトヲ得、地方計畫が其認可後變更セラレタルトキ亦同ジ、

縣知事ハ前項ノ變更が爲サルヽマデ、公益認定ノ宣言ヲ受ケタル都市計畫ノ施行ヲ全部又ハ一部停止セシムルコトヲ得、

第9條 公共事業(travawx publics). 住宅劃地設定(lotissment) 其他地方ノ開發(l′ aménagement de la région) ニ關スル事項ハ縣知事が地方計畫ニ合スルコトヲ認メタル後ニアラザレバ之ヲ施行スルコトヲ得ズ、

第10條 地方ヲ形成スル大統領令ノ公布ノ日ヨリ地方計畫及之ニ適應スル都市計畫ニ付公益認定ノ宣言ノ爲サルヽマデ、建築許可ニ關スル1902年2月15日ノ法律ヲ地方(région)ニ適用ス、此許可ハ住宅以外ノ建築又ハ既存建築物ノ增築若ハ修築ノ場合ニ於テモ之ヲ受クルコトヲ要ス、

市町村長ハ建築許可申請ヲ受理シタル日ヨリ3日以內ニ之ヲ縣知事ニ送附スベシ、建築許可申請書ニハ工事概要書及建築物ノ所在地ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ、

縣知事ハ前項ノ申請ノ送附ヲ受ケタル日ヨリ2ケ月以內ニ之ヲ審査スベシ、1902年2月15日ノ法律第11條ニ依リ市町村長ニ許與セラレタル期間ハ此2ケ月ノ期間ヲ經過シタル日ヨリ之ヲ起算ス、

許可申請アリタル建築が地方計畫ノ施行ヲ妨ゲ又ハ其經費ヲ增加セシムル虞アルトキハ、縣知事ハ命令ヲ以テ地方計畫ニ付公益認定ノ宣言ノ爲サルヽマデ申請ノ許否決定ヲ延期スルコトヲ得、此命令ハ當該市町村長及申請人ニ之ヲ送達スベシ、此

送達ヲ受ケタル市町村長ハ當該建築ニ對シ許可ヲ與フルコトヲ得ズ、

本條ノ規定ニ違反シテ工事ヲ爲シタル者ニ對シテハ、1902年2月15日ノ法律第27條第2項ノ規定スル處罰ニ付スル外、其原狀回復ヲ爲スマデ1日ニ付10法以上300法以下ノ過料ヲ科ス、

第11條 地方ヲ形成スル大統領令ノ公布ノ日ヨリ地方計畫及之ニ適應スル都市計畫ニ付公益認定ノ宣言ノ爲サルヽマデハ、當該地方ニ於ケル住宅劃地設定（lotissement）ヲ先ツ地方計畫委員會ノ議ニ付スベシ、此場合ニ於テハ1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律第11條ガ縣知事ニ許與スル期間ハ1ケ月之ヲ延長ス、

住宅劃地設定ガ地方計畫ノ施行ヲ妨ゲ又ハ其經費ヲ著シク增加セシムベキトキハ、縣知事ハ命令ヲ以テ地方計畫ニ付公益認定ノ宣言アルマデ其許否決定ヲ延期スルコトヲ得、此命令ニ違反シタル者ハ之ヲ前條ノ處罰ニ付ス、

第12條 縣知事ハ前條ト同一ノ事由ニ基キ、命令ヲ以テ地方計畫及之ニ適應スル都市計畫ニ付公益認定ノ宣言アルマデ等級建築物（les établissemnts classés）設定ニ對スル許否決定ヲ延期スルコトヲ得、此命令ニ違反セル工業家ニ對シテハ1932年4月20日ノ法律ニ依リ改正セラレタル1917年2月19日ノ法律第36條ノ處罰ヲ科ス。

第13條 地方內ニ存スル面積1ヘクタール以上ノ樹林地及公園ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルニアラザレバ之ヲ他ノ目的ノ爲メニ開發スルコトヲ得ズ、內務大臣ハ此許可ヲ與フルニ當リテハ地方計畫委員會及關係縣知事ノ意見ヲ聽クベシ、本條ニ違反シタル者ニ對シテニ森林法第221條ノ處罰ヲ科ス、面積1ヘクタール未滿ノモノニアリテハ、關係市町村會ノ意見ヲ聽キタル後、縣知事其開發ヲ許可スルコトヲ得。

第14條 地方計畫又ハ地方內市町村ノ都市計畫施行ノ爲メ公用徵收ヲ爲ス場合ニ於テハ、收用審査會（les juryo d'expropriation）ハ地方ヲ形成スル大統領令公布ノ日及收用ノ日ニ於ケル收用財產ノ價格ノ中其小ナルモノヲ標準トシテ損失補償額ヲ定ムベシ、本條ノ規定ハ公用徵收ガ1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律第10條ノ規定スル15年及30年ノ期間內ニ施行セラルベキ場合ニ限リ之ヲ適用ス。

註1. 地方を形成する大統領令公布の日の價格及收用の日に於ける價格の中其小なるものを選擇せしめたのは、收用豫定財產が投機に依つて不當に高價となるのを防止する趣旨である。

註2. 公用徵收に關する1935年8月8日の大統領令及1935年10月30日の大統領令（何れも1935年6月8日の法律に基き制定せられたもので、法律と同樣の効力を有する。）は收用審査會（les jurys d' expropriation）を廢止し、之に代ふるに仲裁評價委員會（les commissions arbitrales d' évaluation）を以てした。

第15條 地方計畫ニ付公益認定ノ宣言アリタルトキハ、1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律第10條ノ規定ヲ地方計畫ニ適用ス。

地方計畫ニ依リテ計畫セラレ且未ダ公用開始ノ爲サレザル道路又ハ公共用地ニ接シテ設定セラルベキ建築物ニ關シ、1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律第10條ニ依リテ、市町村會ガ15年ノ期間內ニ事業施行ヲ決定スル數限及不動產取得ノ財源ヲ議決スル權限ハ、縣知事ノ提議ニ依リ、且地方計畫委員會ノ意見ヲ聽キタル後、市町村組合縣又ハ縣組合之ヲ行使スルコトヲ得、此市町村組合、縣又ハ縣組合ハ次ノ常會ニ於テ、常會ナキトキハ3ケ月以內ニ必要ナル決定ヲ爲スベシ。

註 1919年3月14日の法律及1924年7月19日の法律第10條は都市計畫の施行に便する爲め、既設又は計畫道路に接する既存又は豫定建築物に付市町村の爲めに諸種の制限を設けてゐるが、所有者の利益を慮り此等制限に一定の期限を付してゐる。即市町村は此期間內に其與へられたる權利を行使しなければならないのである。

第16條 1841年5月3日ノ法律第76條ノ規定ハ地方計畫又ハ之ニ適應スル都市計畫事業ニシテ急ヲ要スルモノニ之ヲ準用ス。

第17條 1918年11月6日ノ法律及1921年7月17日ノ法律ニ依リ改正セラレタル1841年5月3日ノ法律第2條及第2條ノ2ノ規定ニ依リ、事業地外ノ不動產ヲ收用スベキ場合ニ於テハ、收用ノ裁決ハ參事院ノ議ヲ經タル大統領令ヲ以テ之ヲ爲ス、

第18條 公共團體ガ公益認定ノ宣言ヲ受ケ又ハ其手續中ニ在ル地方計畫又ハ都市計畫ノ爲メ土地收用ヲ爲サントスル場合ニ於テハ、之ニ對シ公益認定ノ宣言ヲ爲スコトヲ得、

（以下55頁へ續く）



續　建　築　斷　章

小泉嘉四郎

★

建築家は本來最も破壞を憎むものである。

★

一部の人々の間に、破壞の進步的意義を强調する傾向があるが、それよりも破壞に抗する防衞の進步的意義の方が遙かに偉大であることを我々は知つて居る。

★

破壞に注がれる10の力は、建設に盡された100の力を無に歸せしめるであらふ。

★

1914年から5ヶ年間もかゝつて、資本2000億餘ドルを費して爲された人類の大愚業の後に殘されたのは何だつたか。荒涼たる原野と、炸裂した鐵のかけらと、縷々たる白骨と、背負ひの切れない負債と、飢餓と、ニヒリズムとだけだつたらう。

★

〃怖るべき破壞の容易さに抗して起るすべての聲々〃(ポオル・ヴアレリイ)と共に、我々建築家も亦警しめの叫びを擧げなければならない。

★

★

★

美と醜との問題は理想に對して附隨的なもの、第二義的なもの、と誤つて考へられて居る場合が多いが、それは理想の本質に迄入り込んだ重要な要素なのだ。

「より美なるもの」そのものが即ち理想なのである。

★

★

何故に、より美なるもの、より眞なるものへの追求が善であるのか。それは人類と神の意志に忠實なるものであるから。

何故に、より醜なるもの、より僞なるものへの反動が惡であるのか。それは惡魔の意志に從ふものであるから。

★

新らしきモラルは常に、より美なるもの、より眞なるものへの眞摯なる追求の側に味方する。

それは何と名付けてもよい。ネオ・リアリズムと云つても良からう。發展的ロマンチシズムと云つても良からう。

★

★

★

最近、學會で「日本的樣式」と云ふ問題が採り上げられて居たが、建築に於ける日本的なるものとは如何なる內容を意味するのかがはつきりと摑めなかつた。

★

若しそれが單に、肘木を附けるとか、反りのある瓦屋根を葺くとか云つた樣な傳統的樣式に固定せしめると云ふ事を意味して居るのならば、直ちには承服し難い。

★

假りに一軒の家について見ても、そこには居間もあり、床の間もあり、床の間には骨董品も置いてあるのだらふ。が又オフィスも、サンルームも無ければならない。

壞古趣味的固定樣式も丁度床の間に置かれる骨董品と同樣な意味で許容され得るが、こんな所に建築の本道とか、指導精神はあり得まい。

★

例へば、法隆寺の價値は600年代式の初期に於ける優れた日本的なるものと云ふ點

にあるのだが、1900年代の現在に於ける眞の日本的なものとは丸の内風景であり、中之島風景でなければならない。

★

即ち、建築に於ける眞の意味の日本的なるものとは、現在の建築科學の發展段階——これは國際性を持つたものである。——が到達し得た範圍以上の日本の風土的特殊性に對應して生れて來るものでなければならないだらふ。

★

★

建築實踐を伴ひ得ない建築理論が無價値なるが如くに、建築理論の基礎付けを持たない凡ての建築實踐も亦價値がない。

★

★

★

★

鐵の缺乏、値上りで建築工事は中止しなければならなく成りはしないかが憂へられて居る。

この事は、建築家も最早「建築」と云ふ圍の内だけに閉ぢ籠つて居て、暢々と暮してゆくことが許されなく成つて來た事を意味して居るのだらふ。

★

(1937. 1. 5)

昨年度12月號掲載の拙稿「新建築斷章」中第二項に「…建築文化の遂行以外であり得ない。」とありますは「逆行」の誤植です。重要な誤りだと思はれますので、此處に訂正させて戴きます。

近視眼

尾亀清四郎

× ×

市町村の合併が盛に問題となりそれが次々と成功して行く。大變結構な事である。都市美と云ふ事についても最近盛に論議される様になりそれが直接それに携はる建築家、都市計畫家以外の人々の話題となりつゝあるのは誠に喜ばしき事である。

梅田難波間の廣路が完成され兩側が防火地區、美觀地區に指定され高の最低限度が規定されて一應之で立派な都市美を構成するお膳立は出來上つた譯である。

だがここに出來上る建築は？

間口2間足らずの敷地があつたり猫の額の様な敷地があつたりする。高の最低限度もあり、又敷地の利用などからして當然6階、7階の建築物が出來上る。如何にも小市民的根性の表はれた建築が。

これでは美觀どころのさわぎではない。これら都市建築の體格向上の爲、都市建築の合併即ち共同建築の實現に、當局の斡旋の勞をお願ひしたいものである。

× ×

松屋町筋、三休橋筋、平野町、京町堀通等と都市計畫で道路が擴張され鋪裝されて立派なものになるのは結構な事。だが兩側に出來上るものは建築家の存在を無視した家主と大工によつて作られる2階建の建築である。塗家造りの壁がタイル張になり軒先が銅板で卷かれただけの變化であるとはなさけない。

× ×

アドビルとして設計された建物に廣告が貼られなかつたり、苦心して殘したであらう壁面が竣工して施主の手にうつつてしまふと一言の相談もなしに看板屋の手によつて埋められてしまふこの世の中、これでは建築家もたまらない。

× ×

建築物の美粧を業とする會社が生れて大建築の外觀を見違へる様に美しくして呉れる。都市美觀の上から大變結構な事だが次から次へとこの美粧工作を受けたとしたら、……落付き、さび、滋味、曖昧、親

める汚れ、等がなくなつてしまふ。明朗な都市となる事は事實だらうが。

ホルモン療法だヤレ何だと云つても肉體を内外に若返りを可能とした今日の科學文明は又建築物の年齢をもなくしてしまふ事となつた。

× ×

電鐵會社或は住宅會社の經營にかゝる住宅地は上水道、下水道、電氣、瓦斯、道路、公園等と凡そ近代科學の產物にして文化と名のつく設備は一通りやつてゐる如くである。だが衞生上重要なる汚物處理に就ては一向素知らぬ顔である。

既成大都市すら非常な犧牲を拂つて切開手術をしてゐる今日、これから作らうと云ふ住宅地にもうこれ位の設備はあつてもよさそうなものと思へる。この設備によつて當然地價は幾らか高くなるであらうが、各戸の汚水淨化槽が省けたり、住宅地内を屎尿車が横行しない様になるなど誠に難有き事である。

我等は當然の代價を拂つて近代文化を享受する義務があるのではなからうか。

× ×

朝日會館の10周年記念講演會にて山田耕作氏の講演を聞く。

巨匠アーノルド・ファンク博士作る處の映畫〃新しき土〃のトーキー音樂を依頼されたが、そのときファンク曰く〃なるだけ日本的の音樂を書いて貰ひたい〃と〃ではあなたはどんなものを以て日本的と思ひますか〃之に對しファンクは一枚のレコードを示した。それは宮城道雄氏の琴と尺八の合奏であつたと云ふ。

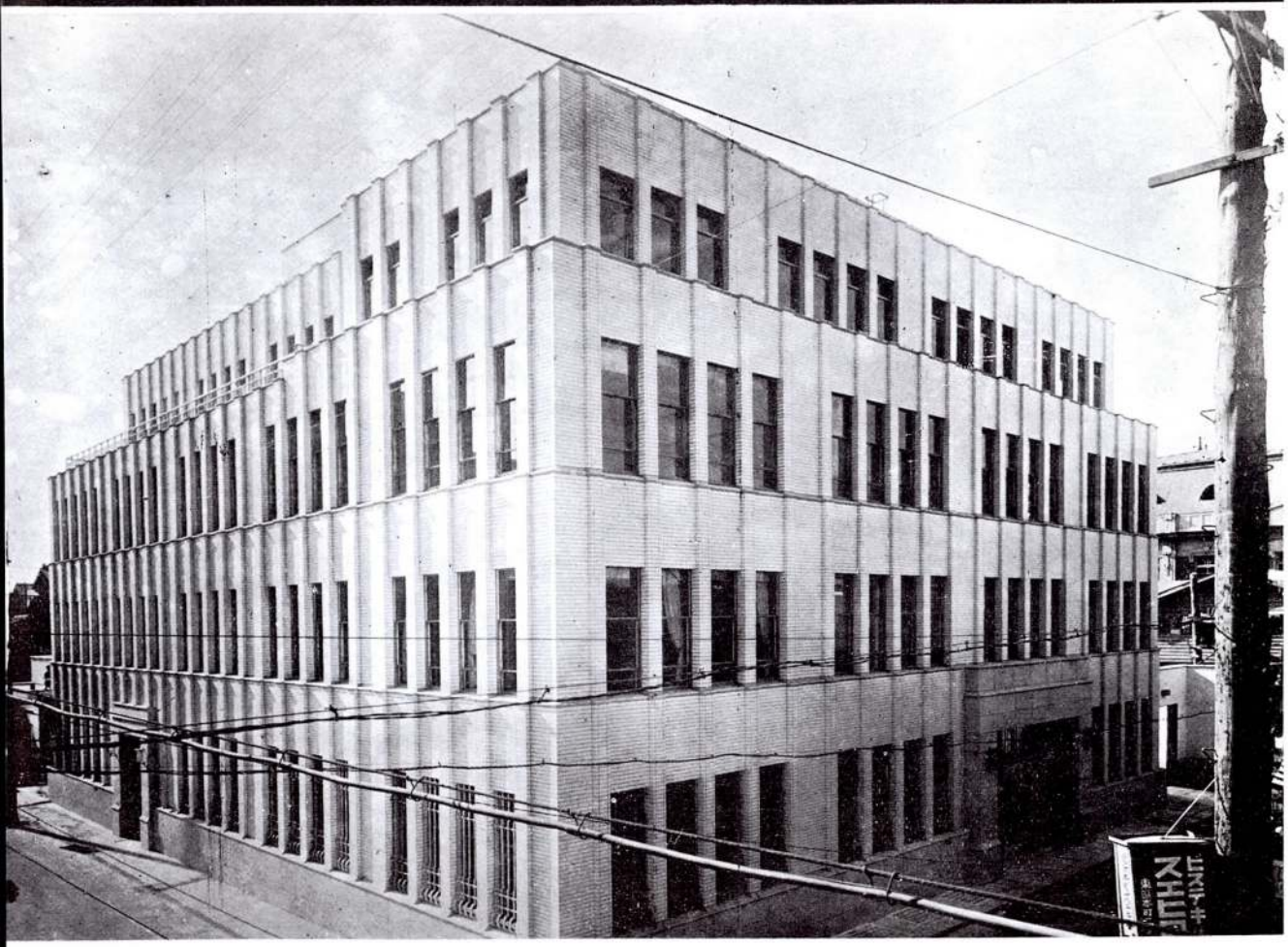
あの講演會に出席して居つた人々の内、心ある人々は各々自己の分野に結びつけて微苦笑しながら聞いてゐた事であらう。山田氏は日本的なる音樂について更に講演を續けられた。がそれは決して鐵筋コンクリートに勾配屋根のついた建築でなかつた事は云ふ迄もない。

× ×

本店で設計に從事する人々は午前9時から午後5時迄勤め、現場に從事する人々は午前8時から午後6時迄勤めねば、その建築が出來上らず又もうからないと云ふ様な事が平氣で行はれてゐて少しも不思議とされない。メリヤス屋の夜業を笑へなくなる。

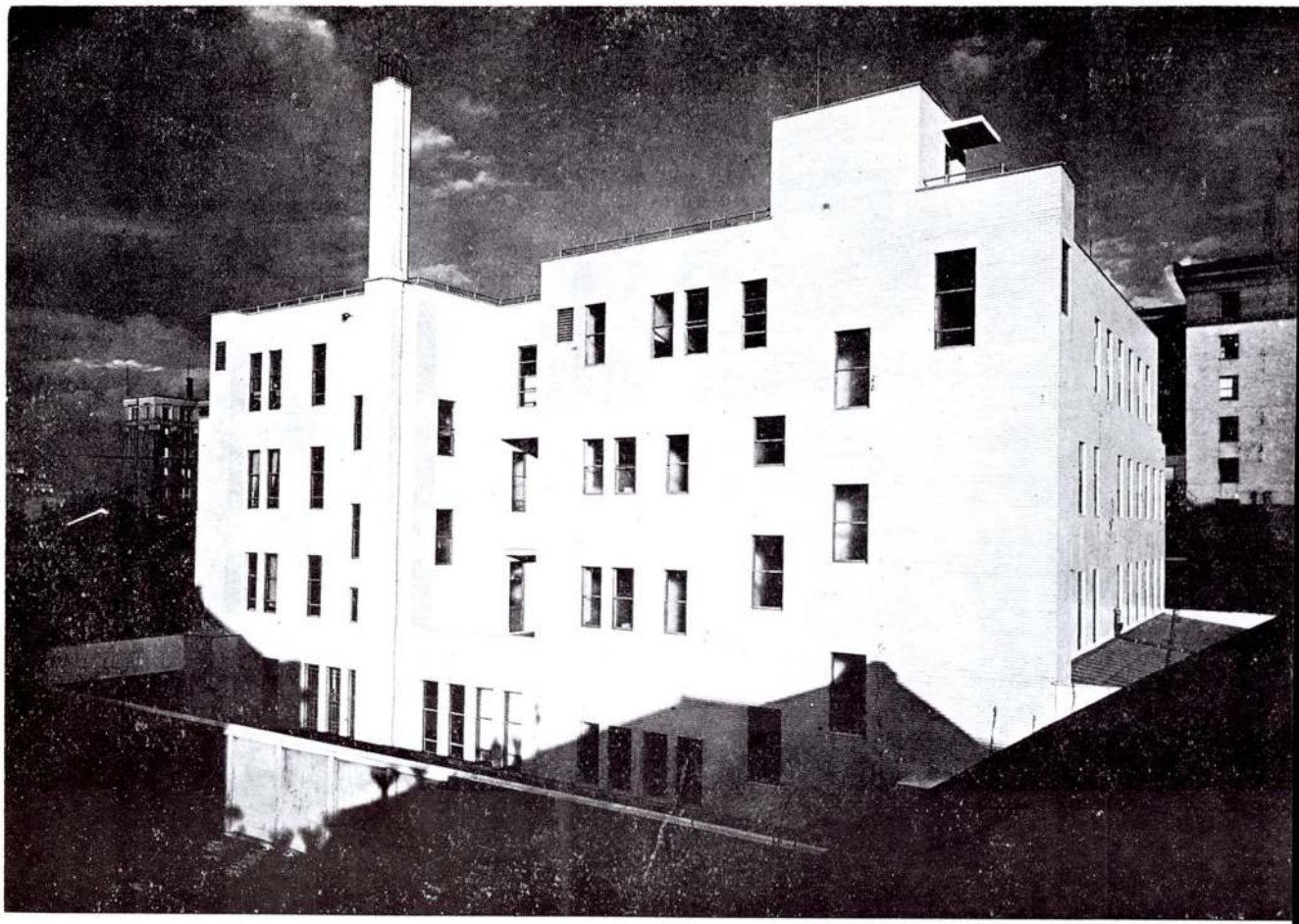
× ×

服裝を整へてから便所を出てサテそれから手を洗ふのが日本人のケツペキ性だから恐れ入る。生活の設計を建築家がやるのだつたらもう何とかせねばならない。



全景

“田附商店” 設計・岡田建築事務所・施工・大林組 1 11



背　　景

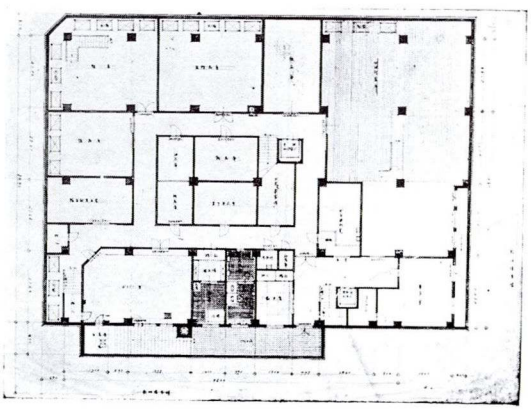
〃2　“田　　附　　商　　店”　設計・岡田建築事務所・施工・大林組

營　業　室



會　議　室





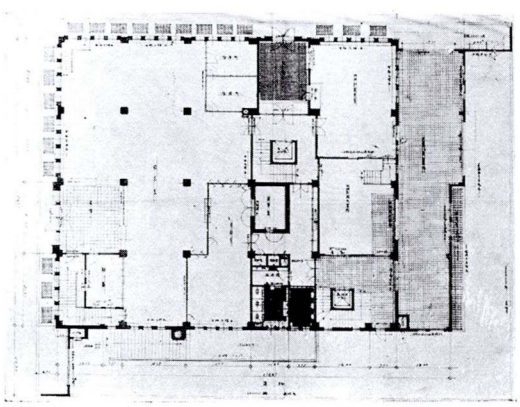
地階平面圖



應　接　室



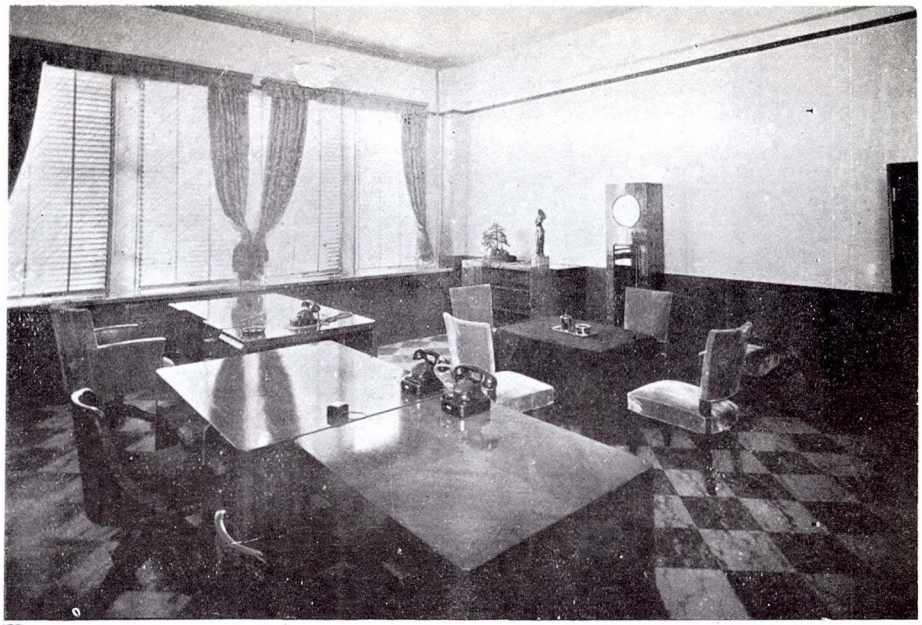
社　長　室



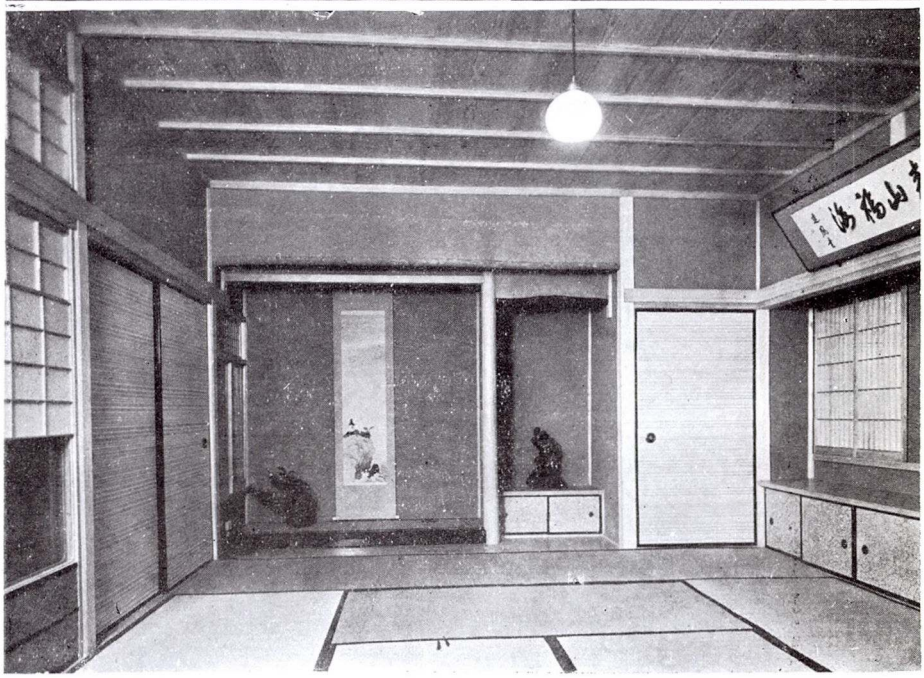
1 階 平 面 圖

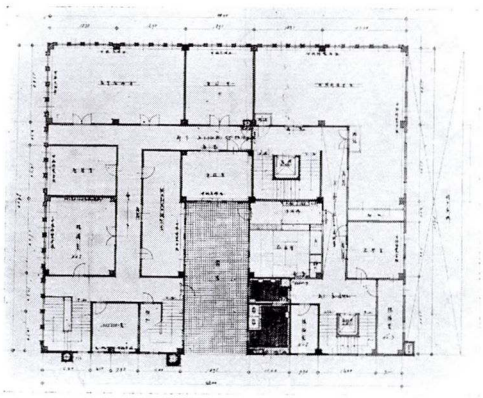
4 “田　附　商　店” 設計・岡田建築事務所・施工・大沐組

重　役　室



日　本　間



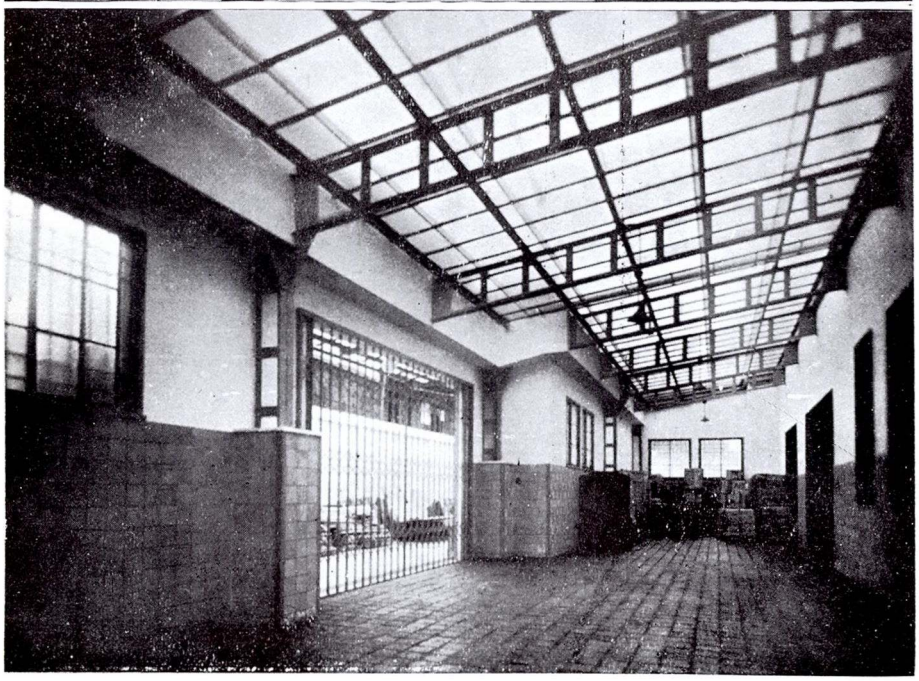


2 階 平 面 圖

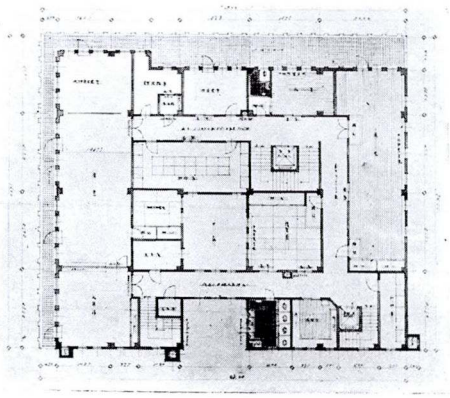
“田　附　商　店”　設計・岡田建築事務所・施工・大林組　5 11



來　客　食　堂



荷　造　場



4 階 平 面 圖

116 “田　附　商　店” 設計・岡田建築事務所・施工・大林組



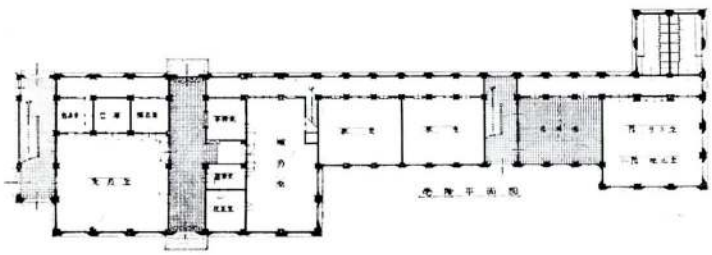
店　員　寢　室

田附商店新築工事概要

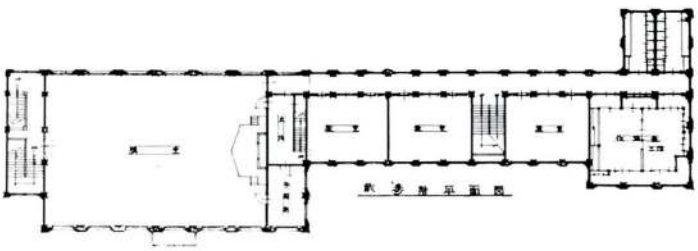
所在地	大阪市東區備後町2丁目30番地
敷地面積	421坪
建築面積	270.1坪
總延面積	1.186.048坪
竣工	昭和11年11月15日
構造	鐵筋コンクリート造、耐震耐火構造
設計監督	岡田建築事務所
工事請負人	株式會社　大林組



校庭側外觀



1階平面圖

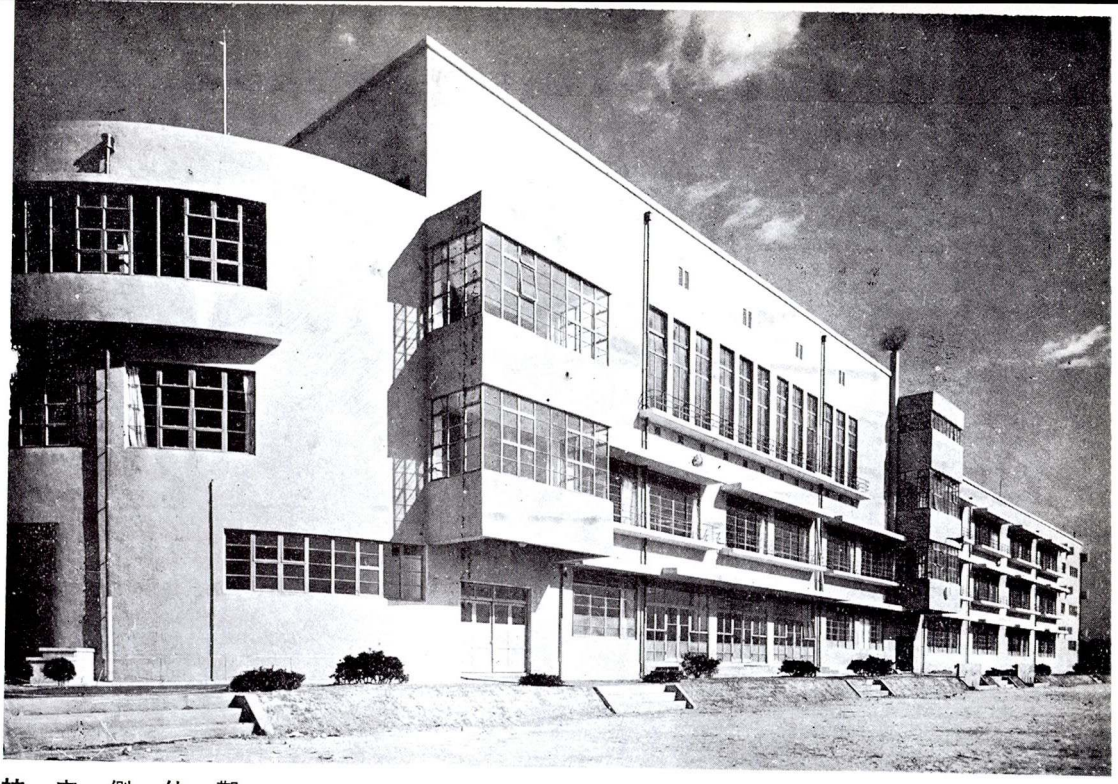


2階平面圖

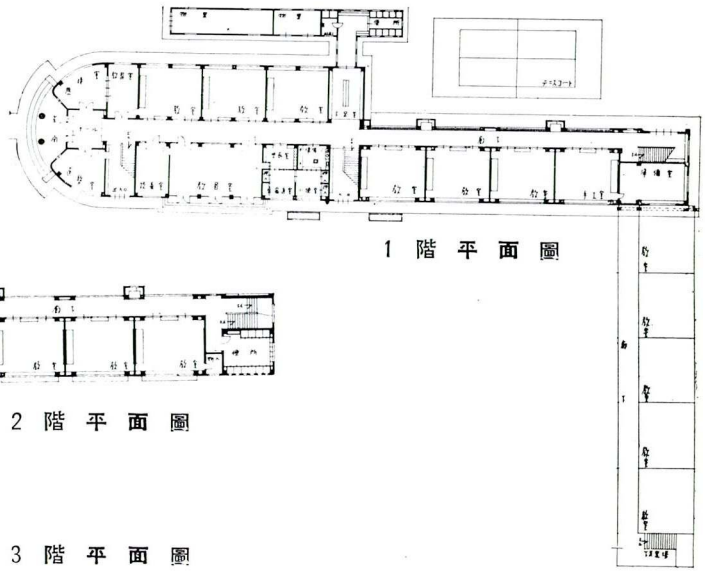


講堂

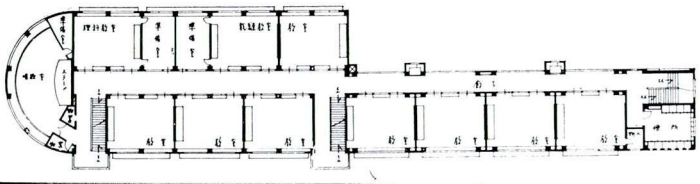
8 “大庄村小學校” 設計・大庄村小學校・施工・鹿島組



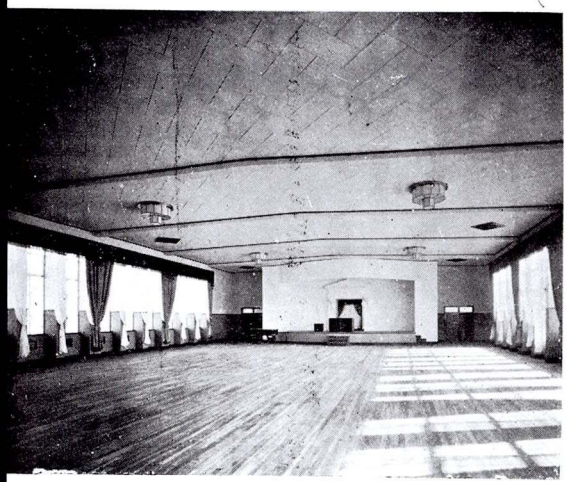
校庭側外觀



1階平面圖

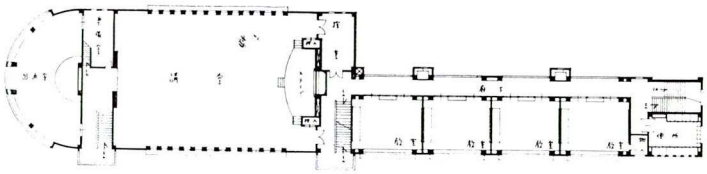


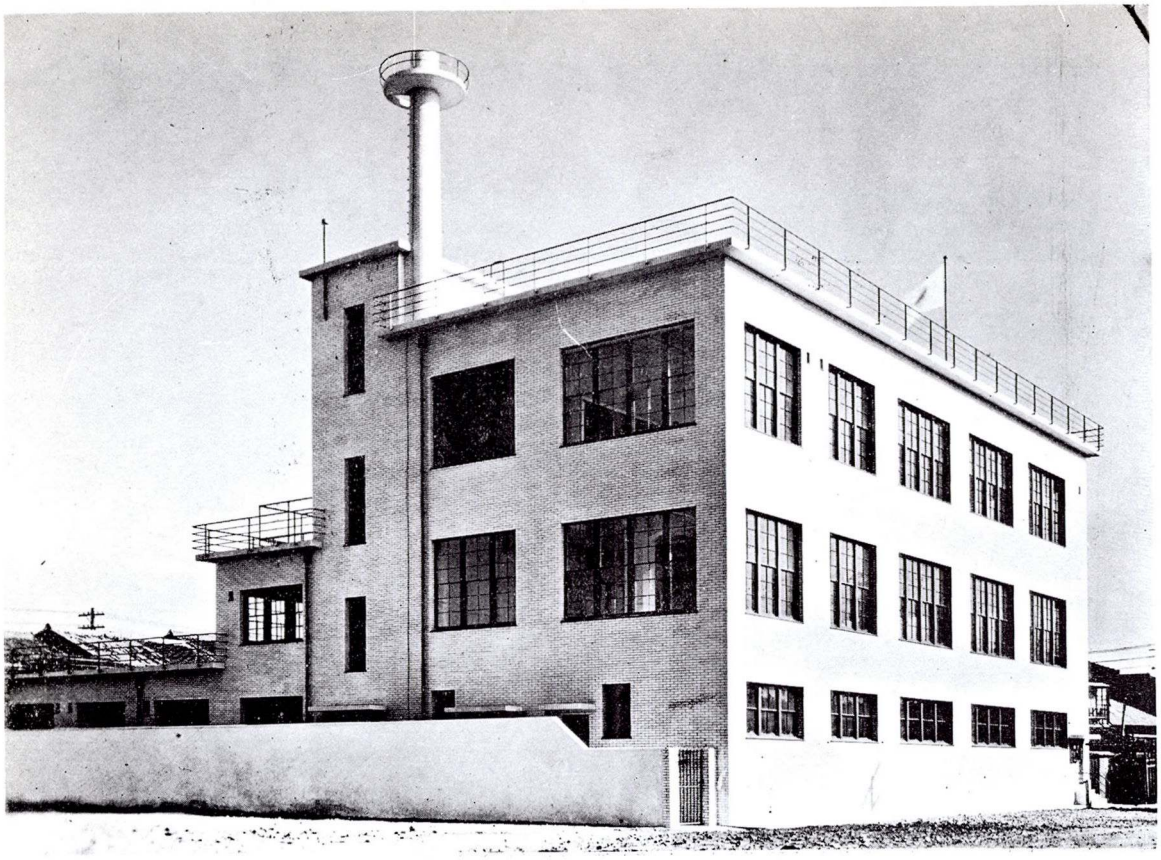
2階平面圖



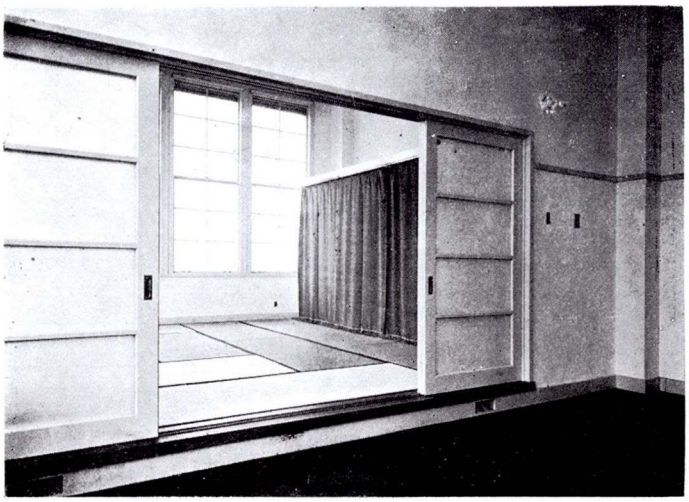
講堂

3階平面圖



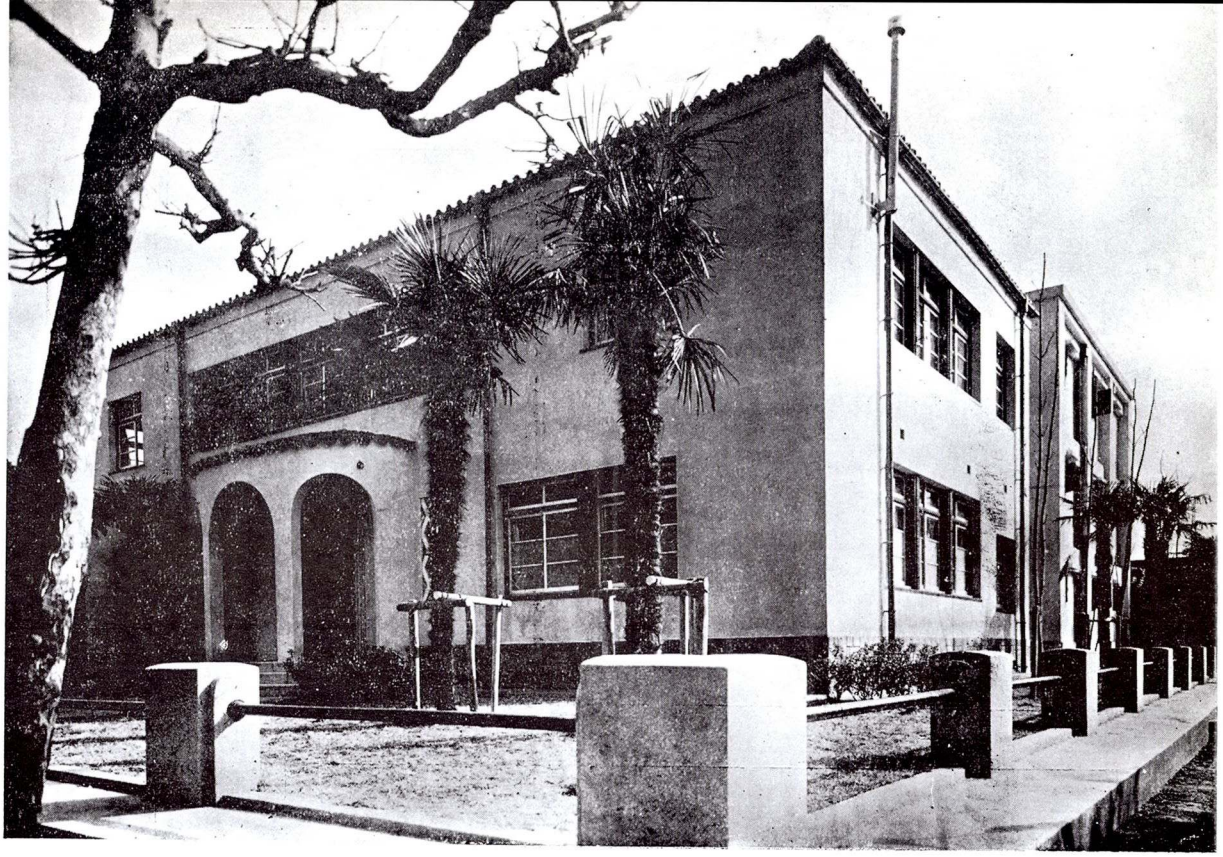


全　　景



日　本　間

10 “市　岡　電　話　局” 設計・遞信省經理局營繕課・施工・松村組



全　　景

玄　　關

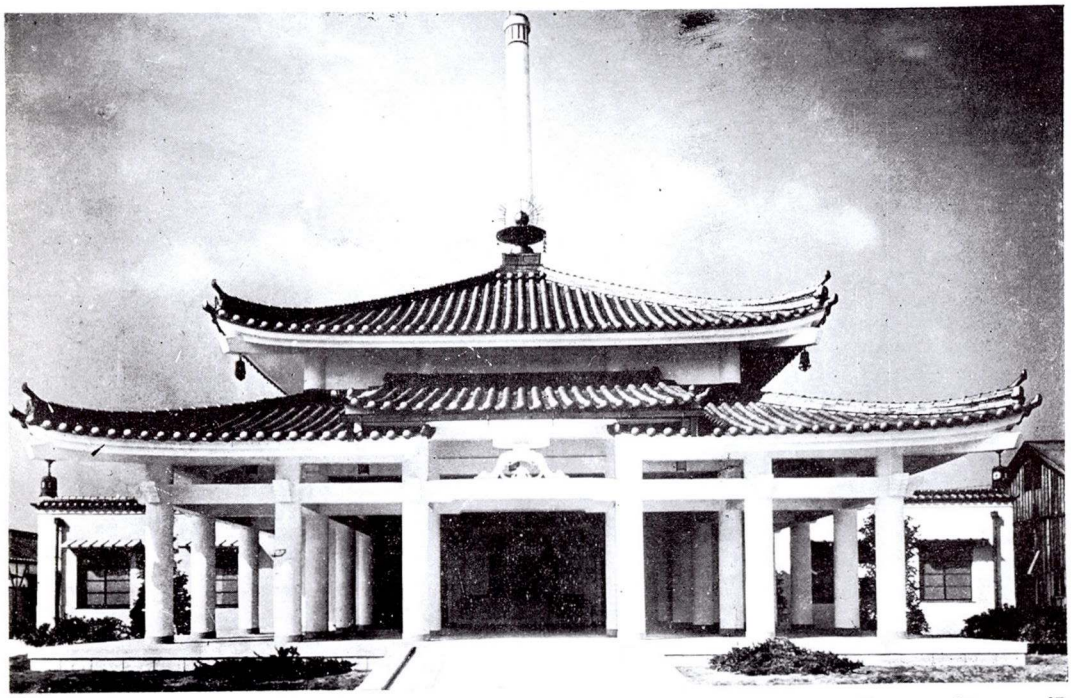


立立堺圖書館新築工事概要

位　置	堺市宿院町東3丁25番地
敷　地	300·51坪
建　坪	本館 71·65坪　書庫 18·3坪　別館 22·5坪　2階建渡廊下 1·1坪　平家建渡廊下 1·5坪　總建坪 115·06坪　總延坪 220·04坪
構　造	本館木造鐵網張「リソイド」塗仕上、書庫鐵筋「コンクリート」造、別館其ノ他木造鐵網張リ色「モルタル」吹付仕上
外　裝	本館「リソイド」塗仕上、書庫別館渡廊下色「モルタル」吹付仕上
内　裝	天井「テックス」張水性「ペンキ」塗仕上又ハ「ピーリング」打上ゲ及竿縁天井トシ、壁ハ「プラスター」塗、腰、腰羽目、木部「ステイン」及「ペンキ」塗一部「ニス」塗仕上、床ハ板張り、「タイル」張、「モルタル」塗トス
衞生工事	給水方法ハ市水道ヨリ給水シ、防火栓ヲ設置ス
工　程	昭和11年6月15日起工　昭和11年11月7日竣功
設　計	堺市役所土木部技術課



全　　景



葬　祭　場

堺市立斎儀所改築工事概要

位　置	堺市東雲町830ノ2番地外3筆
敷　地	2723坪
建　坪	葬斎場 31.5坪　火爐室 126.1坪 事務所及公舎 24.2坪　休憩室27坪 禮場 2坪　便所3.2坪　火夫休憩所 26.7坪　屍體預所 6坪
構　造	葬斎場、火爐室ハ鐵筋「コンクリート」造其他ハ木造「メタルラス」張リ「モルタル」塗
外　装	葬斎場白漆喰塗、火爐室其他ハ色「モルタル・リシン」仕上トス
内　装	葬斎場壁漆喰塗、天井飛州檜材格天井床人造石研出シ、火爐室、壁及天井白漆喰塗、床「モルタル」塗トス、其他ノ建物ハ壁眞壁白漆喰塗、天井打上天井及竿縁天井トス
火　爐	三機式重油火葬爐 特等 1基　1等 2基　2等 9基（内6基ハ座棺）
衛生工事	給水方法ハ市水道ヨリ給水シ、防火栓ヲ設置ス
工　程	昭和11年12月起工　昭和11年9月竣功

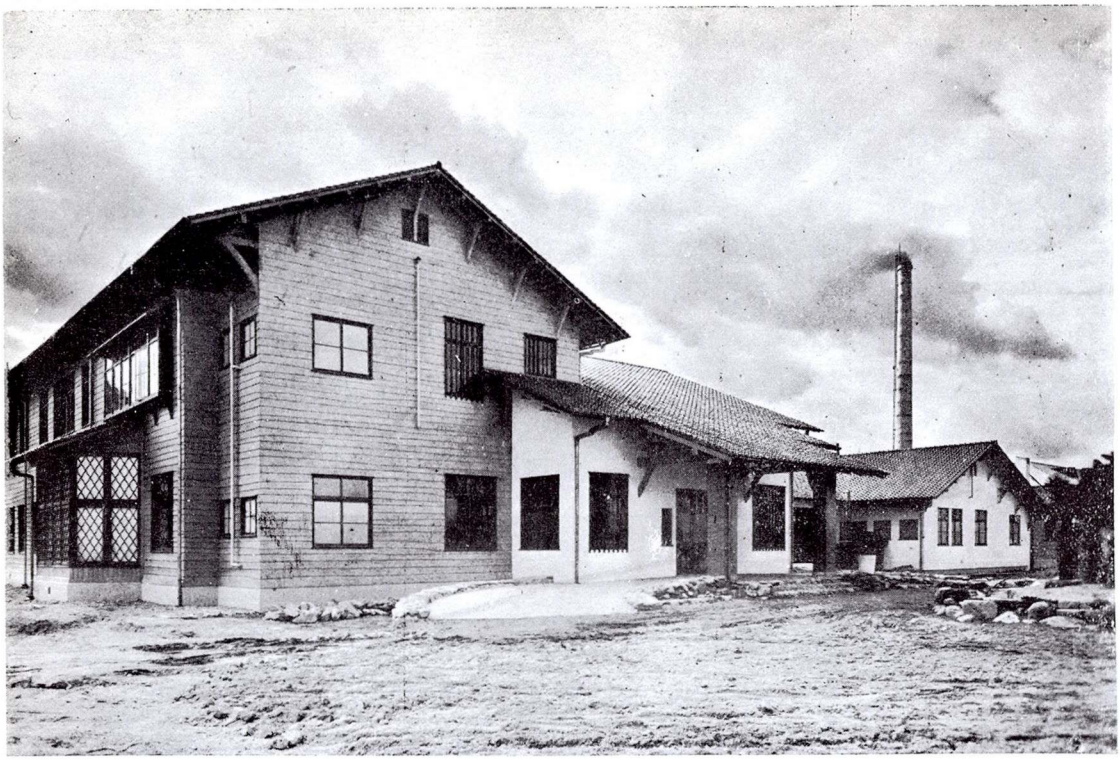
12 “堺市立葬儀所”　設計・堺市役所土木部技術課・施工・中筋組



全　　景

風水害殉難者慰靈塔建築工事概要

位　置　堺市海山通7丁115番地　　敷　地　510.0坪
建　坪　63.18坪　　構　造　鐵筋「コンクリート」概造
外　裝　塔人造石小叩キ仕上、基壇及土壇石造及人造石洗出仕上、
　　相輪眞鍮製「ブロンズ」仕上
內　裝　祭壇內部格天井壁「プラスター」塗、床「フロアリング、ブロック」張リ仕上
工　程　昭和11年5月18日起工、昭和11年9月21日竣功
設　計　堺市役所土木部技術課

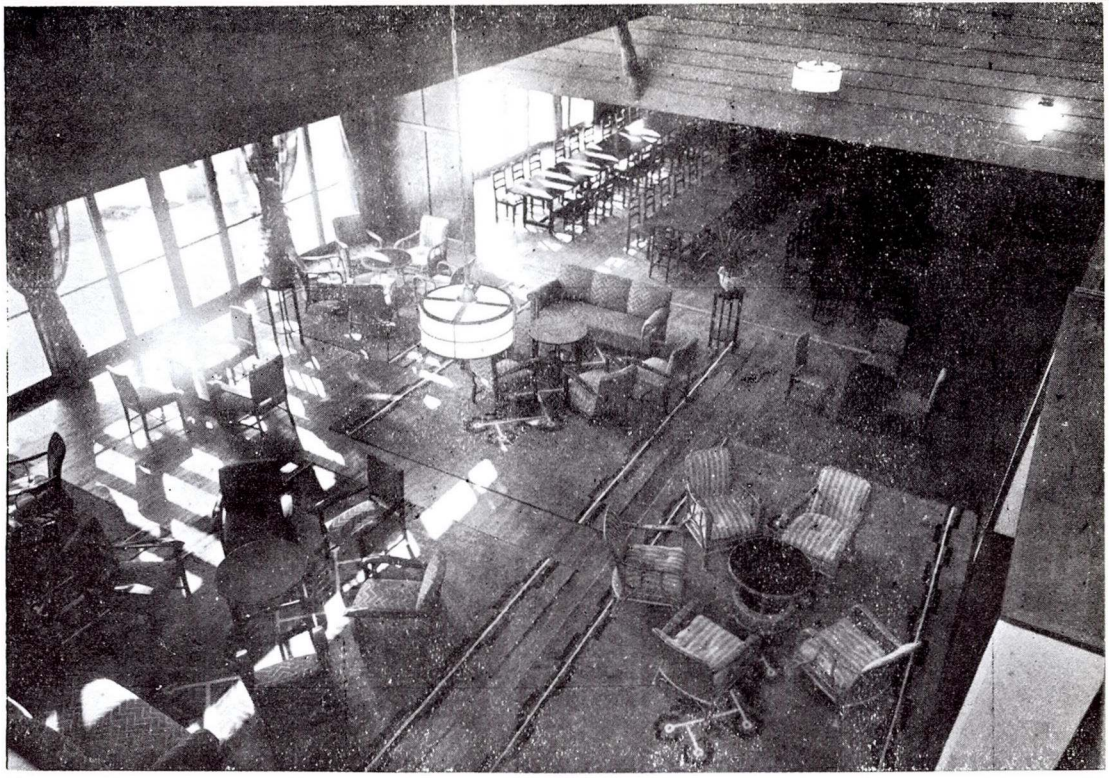


正　面　玄　關



背　　面

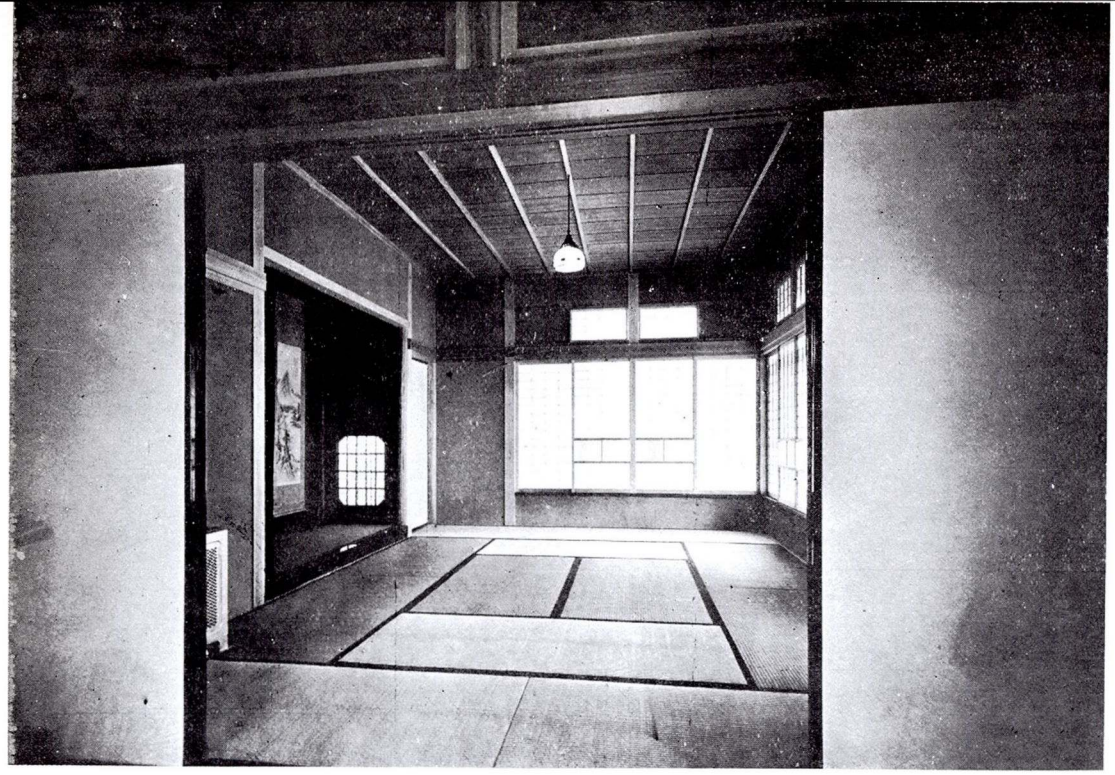
14　“新居濱住友クラブ”　設計・長谷部竹腰建築事務所・施工・藤木工務店



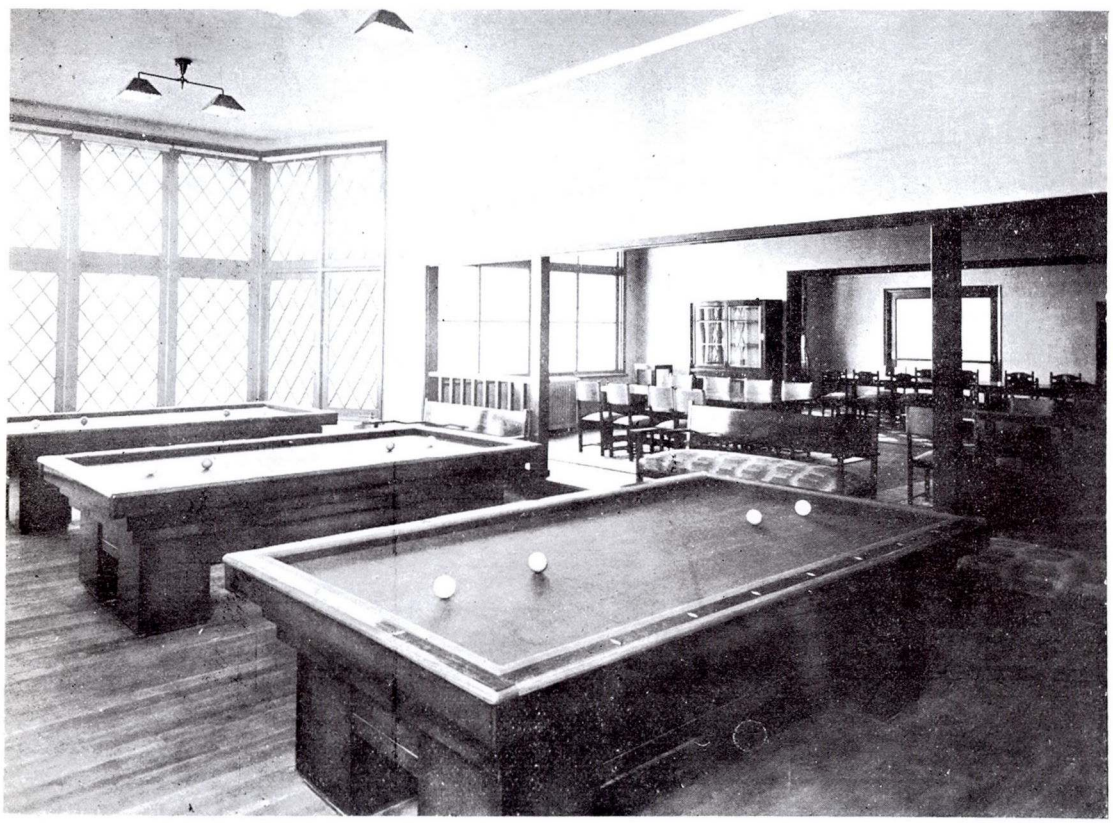
社　　交　　室



豫　　備　　室

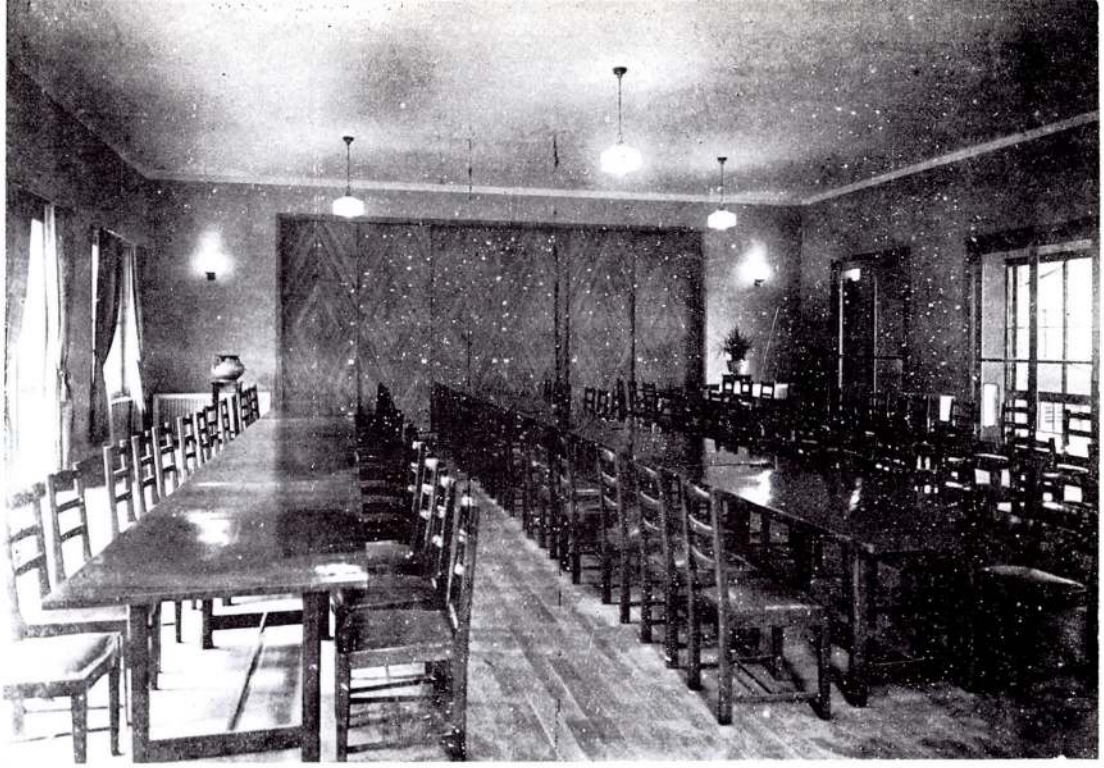


和　　室



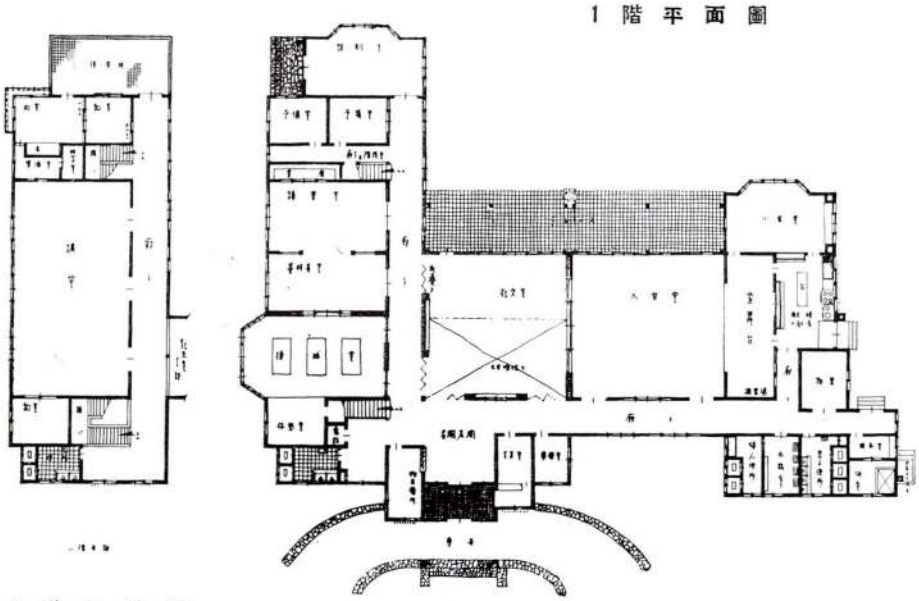
球戯室より圍碁室を望む

II 16 “新居濱住友クラブ” 設計・長谷部竹腰建築事務所・施工・藤木工務店

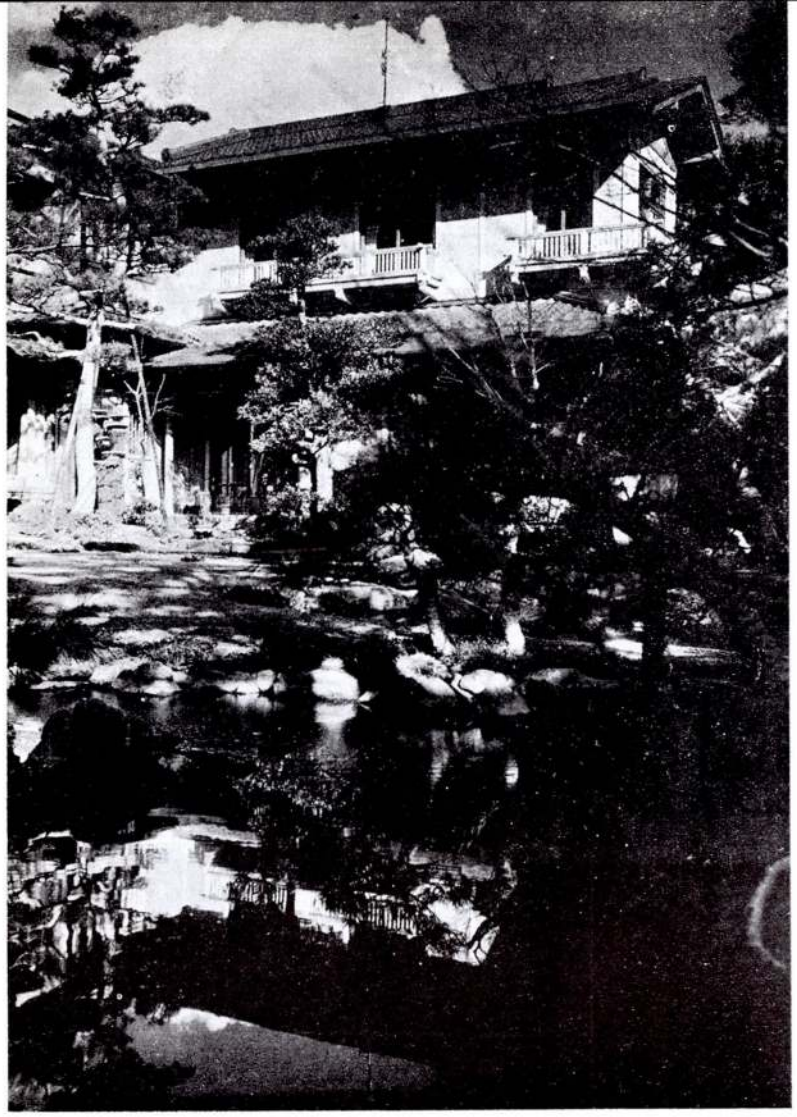


食　　堂

1 階 平 面 圖



2 階 平 面 圖



庭前より見たる外観

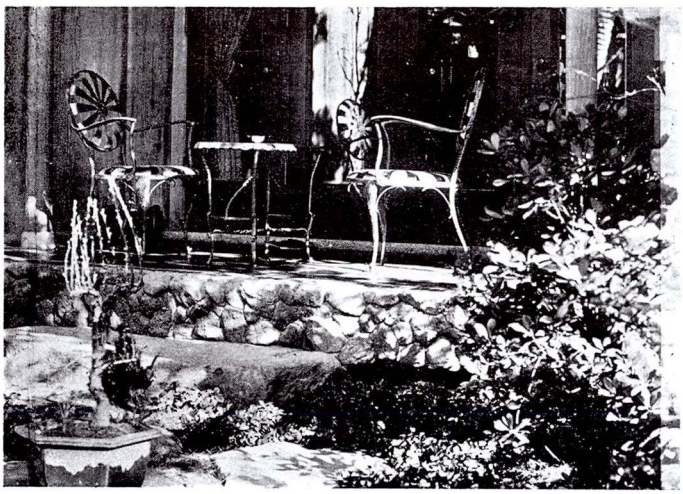


1階ホール正面

〃 18 “杉　　山　　邸” (芦屋) 設計・小川安一郎・施工・笠谷工務店

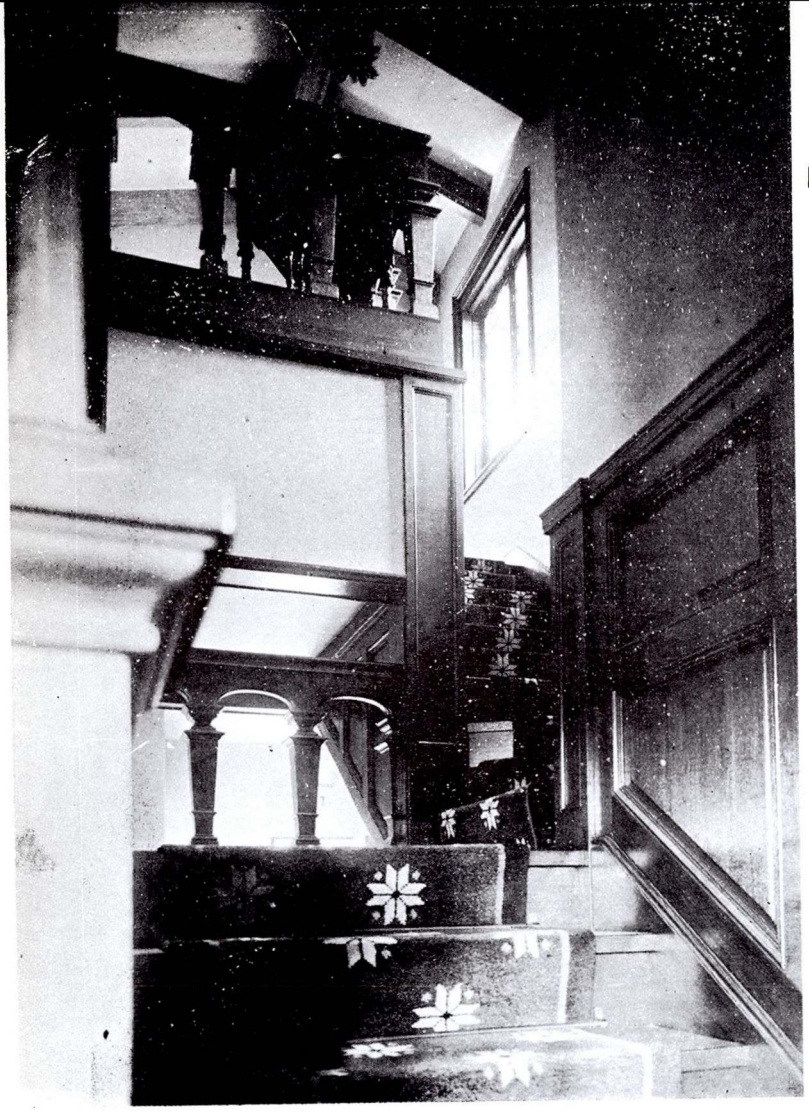
車寄正面





ベランダー

“杉山邸”（芦屋）設計・小川安一郎・施工・笠谷工務店



階段室

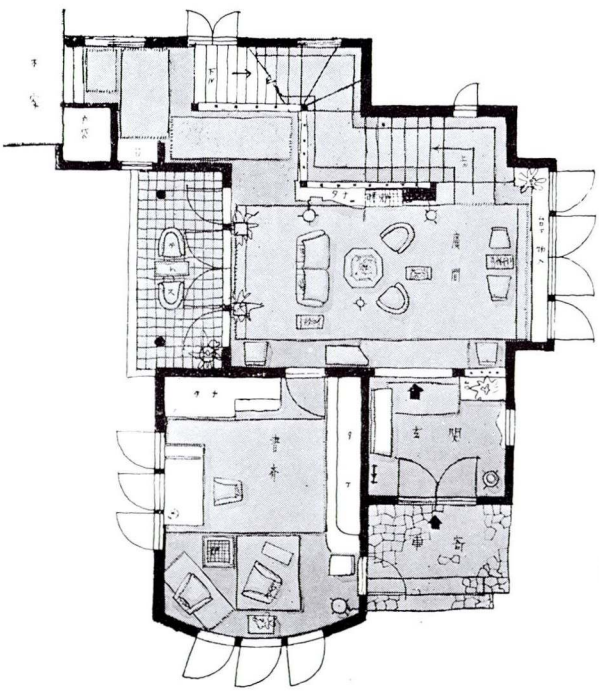


書齊の暖爐面

II 20 “杉山邸” (芦屋) 設計・小川安一郎・施工・笠谷工務店



書齊の一隅



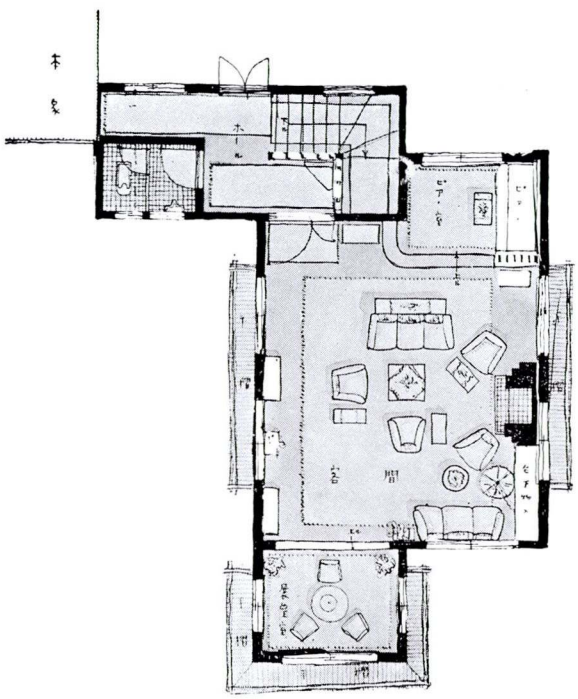
1階平面圖

“杉　山　邸”（芦屋）設計・小川安一郎・施工・笠谷工務店



客　間　の　一　部

2 階 平 面 圖



芦屋杉山邸

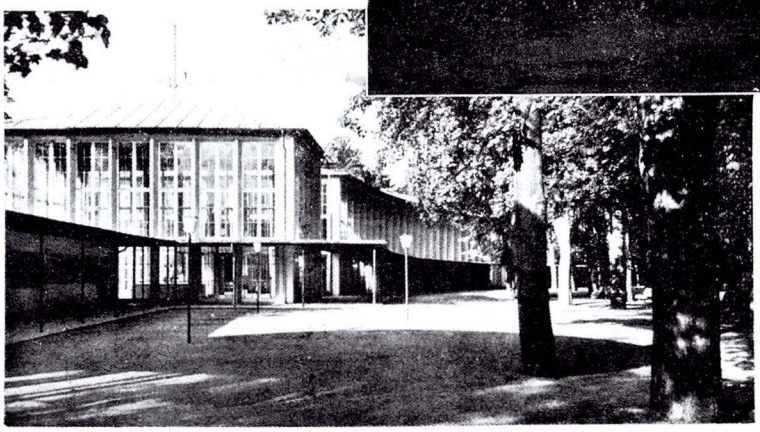
顧問　武田五一博士
基礎、軸、施工　笠谷工務店
内部　設計監督　小川安一郎
内部造作並ニ家具裝飾施行一式
内外木材工藝株式會社

22 “杉　山　邸” （芦屋） 設計・小川安一郎・施工・笠谷工務店

遊歩室外観夜景

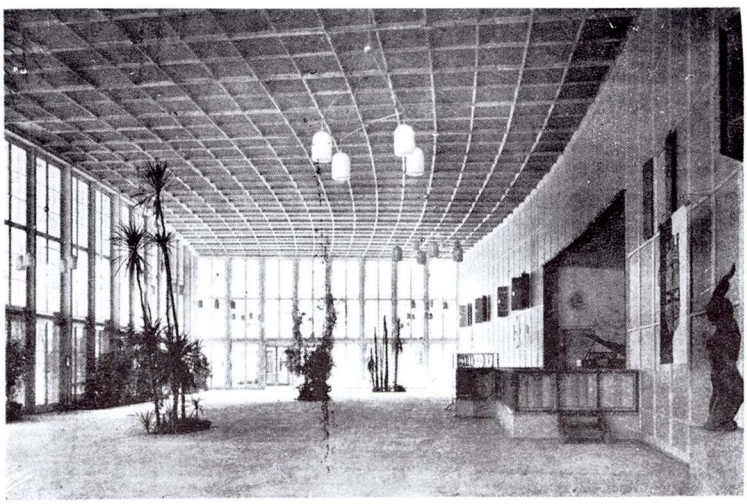


遊歩室外観



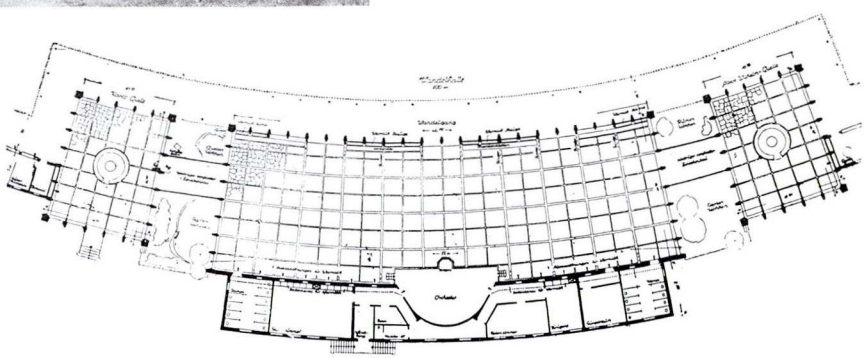
Paul Bonatz の評。〃優美と輕快な遊びを持つ作品！病人はここに於いて治療を求める。そして建築敷地は高い樹々の環境に於いて強く特徴づけられて居る。すべての重壓はここに於いて霧散されねばならぬ。輕妙な調子がどこかに感ぜられるとすれば、全くこの敷地のためであらう。だがしかし幸福なる輕快の印象が達せられたのは全く建築に於ける次の點の成功に外ならぬ。――スレンダー――な鐵筋コンクリートの側柱。高い窓（遊歩場の天井高は 8m である）。輕快な屋根をもつ平たく突出した軒の線。細い鐵柱の並ぶ歩廊。――これ等はすべて意匠的な天井の面と巧妙に關係づけられて、建築全體の感じに一つの形態上の法則を展開して居る〃。と、

Moderne Banformen, Dez., 1936 より）

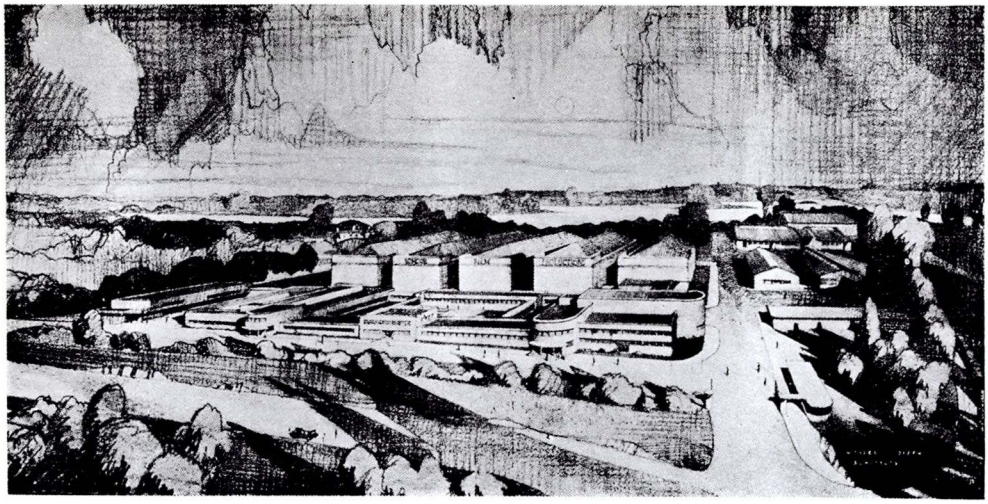


遊歩室内部

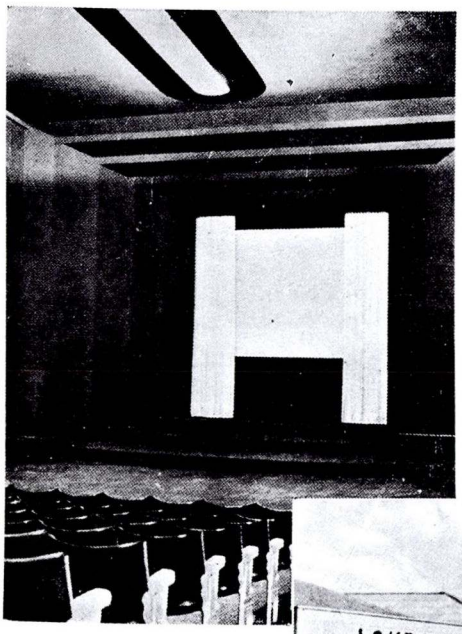
平面圖



（ドイツ） Mergentheim 溫泉の遊歩場と飲泉場　　建築家 Edward Krüger



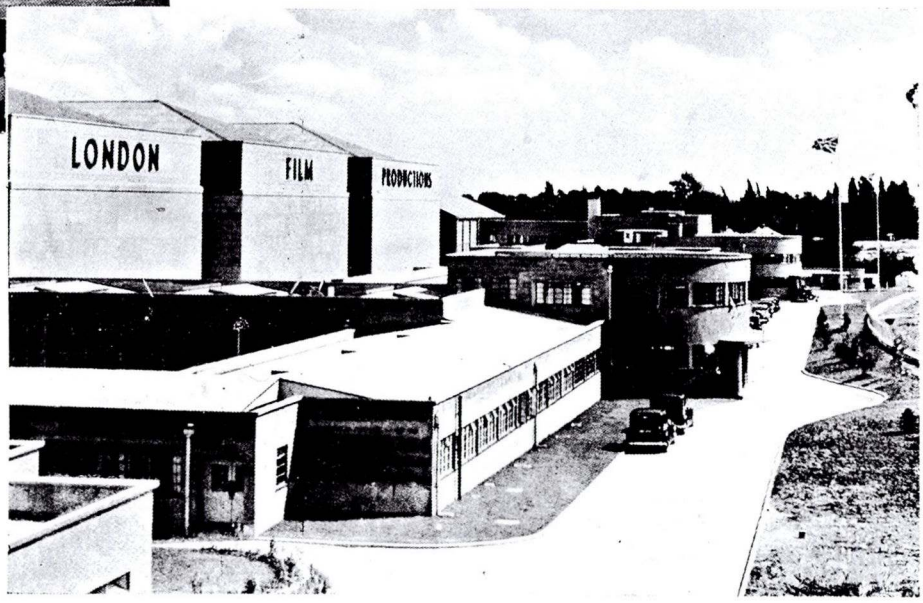
配　置　圖



試　寫　室

敷地面積23エーカーで、西側の道路に面して、事務室、俳優の衣裳部屋、レストラン、カフエテリア等の諸建物が並び、音響劇場はその背後に建並んでゐる。音響劇場は全部で7個あるが、その中の3個は大さ75m×36m梁下部までの内法 13.6m あり、何れも鐵骨造、壁、鐵筋コンクリート、内面は wood-rock, プラスター板、rock-wool 等の防音材を張り甚だ良好な結果を得てゐる。尙 air-conditioning の設備があるため發砲の煙等も容易に排除され氣持よく働く事が出來る。大工、左官、金屬工、背景畵家等の工作場も廣大な面積を占め、大工の作業場の如きは 105m×36m の大さを有してゐる。

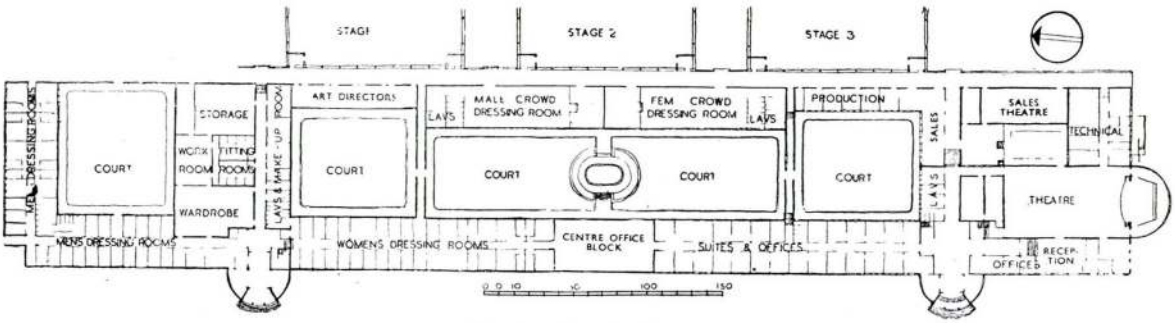
（Architectural Review, Dec., 1936 より）



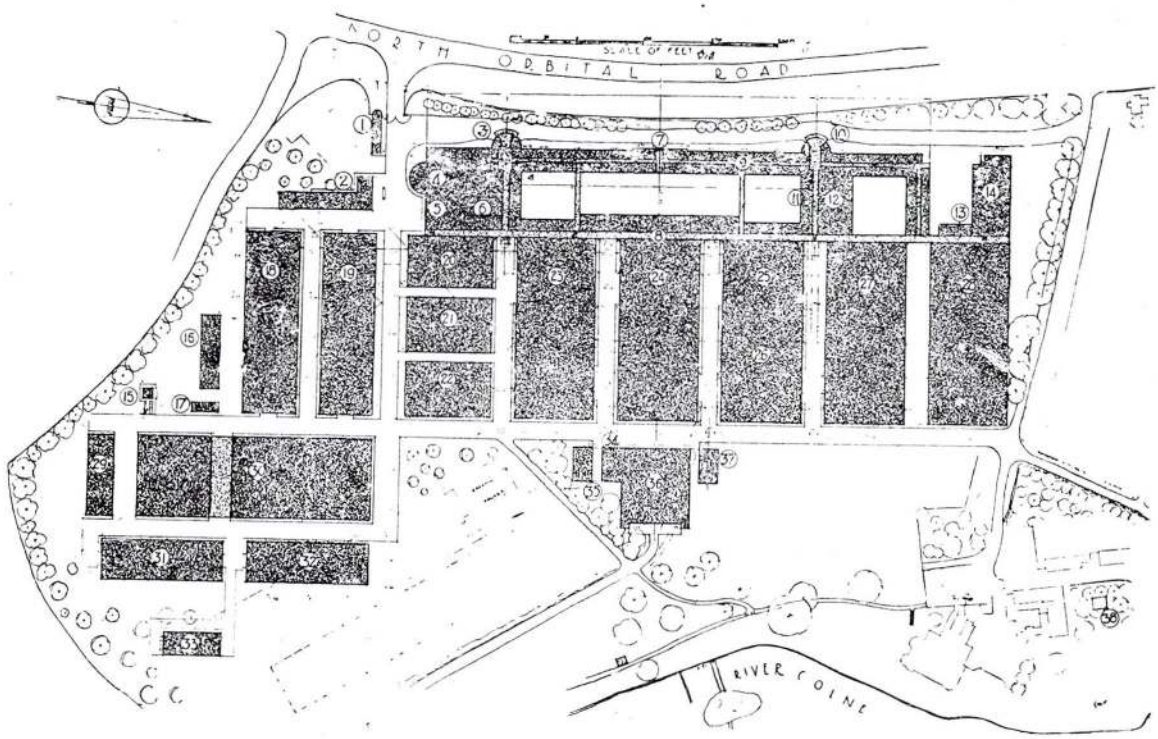
外　觀

〃 24 （イギリス） ロンドンフイルムのスタデイオ

Joseph 建築事務所



事務部平面圖



配置圖

1. 使丁室
2. 車庫
3. 事務所への正面入口
4. 錄音室及小景舞臺
5. 音響部
6. 賣場の舞臺面
7. 中央事務部門
8. 主要廊下
9. 衣裳部屋
10. 俳優入口及配役部
11. 化粧室
12. 衣服部
13. 床屋及小間物店
14. レストラン
15. 燒却場
16. 石膏模型工場
17. 壓力タンク室
18. 左官、模型、ペンキ工場
19. 小道具室其他
20. 劇場
21.
22.
23.
24.
25.
26.
27. 劇場豫定計畫
28.
29. 木材保管小屋
30. 大工及機械工場
31. 大道具室
32. 大道具室豫定計畫
33. 職人酒保
34. 汽鑵室
35. 南側送風扇室
36. 動力室
37. 北側送風扇室

（イギリス）ロンドンフイルムのスタデイオ

パレスタインの古い建築は言ふ迄もなくアラビヤ風である。石又は土の厚い壁の上に載せられた陸又はドームの屋根、小さな窓と中庭、こうしたものが寒さと大陸性の炎暑とに對抗する爲の古い建築樣式であつた。

山腹や尾根の上に建てられた四角い推し潰された樣な建物は山の岩石と共にパレスタイン地方固有の風景であつた。

外國の影響を受ける樣になつてから、パレスタインにも次第に大きな建築が建てられる樣になり、何れも外國の建築家の設計になるものであるが、その初期のものは、大建築とには不適當にも凡て意識的に地方固有の樣式を踏襲したものであつた。

併し、1918年に英國がパレスタインの委任統治を行ふ樣になつてから、歐羅巴の近代建築の影響が漸く現はれ初め、而もその方が保守的な設計者の手になるアラビヤ風のものよりも、却つて固有の建築物と調和することが發見せられた。

ユダヤ農民の最初の移民地である Beth Alpha. Tel Joseph. Tel Aviv では、民家は初め麻のテントと木材と鐵力のバラックであり、學校といへば柱の上に屋根ばかりで、壁は蚊帳地を垂しただけのものであつたが、人口が增加し都市が次第に擴大するに從つて、コンクリート造の建物が漸く數を增すに至つた。

Tel Aviv では 1.908年には住民僅か60家族に過ぎなかつたものが、1932年には50,000人となり、今日では先づその3倍には達してゐるだろうと言はれる。大きな集合住宅が毎日2つづつ殖えて行く割合となる。

この都市には既に立派な建築法規が設定せられ、ビルデイング間の距離は18乃至20呎を必要とし、建築面積は敷地の40%を最大とする等のことが規定せられてゐる。

新建築はアラビヤ風のものとは異り、見晴しのよい方に窓を開いて、寢間は西から海風を採り入れ夜は東風を受ける樣に設計せられてゐる。

材料はコンクリート、石材及兩者の併用である。

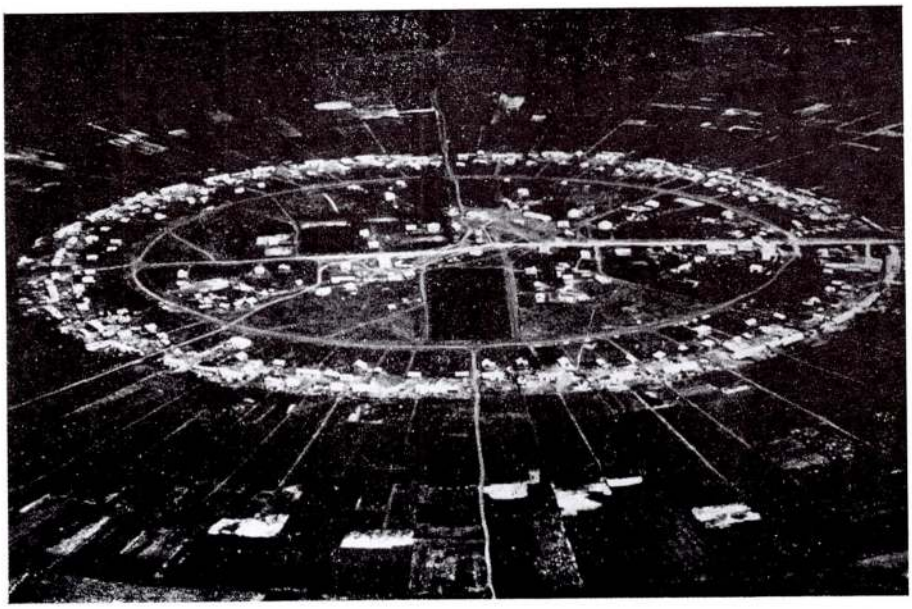
一方各所に行はれる都市計畫に伴ふ新建築の建設があり、何れもナチスの爲に獨乙から追放せられた建築家や、その國では建築家として經營的に成立たない爲にこの國に安住の地を求めた人達などの手に依つて計畫せられその結果として新しい樣式の建築が漸次アラビヤ模倣の建築にとつて代りつつある現狀である。但土着民の住宅には今日も尙土塊の家が建てられつつあるが、だからと言つて、大きな學校やアパートメントの建築にまでこの行方をこの地方の特殊な風土氣候に適するものとして强制することは不可能である。

都市計畫として代表的なものは2つの同心圓に沿ふて全地域が計畫せられた Nahalal を第一とし、勞働街の計畫では Histadruth. Haifa がある Haifa には道路計畫から建築の樣式まで法規の束縛を受けてゐる。これは主として Alexander Klein に負ふ所のものであるが。

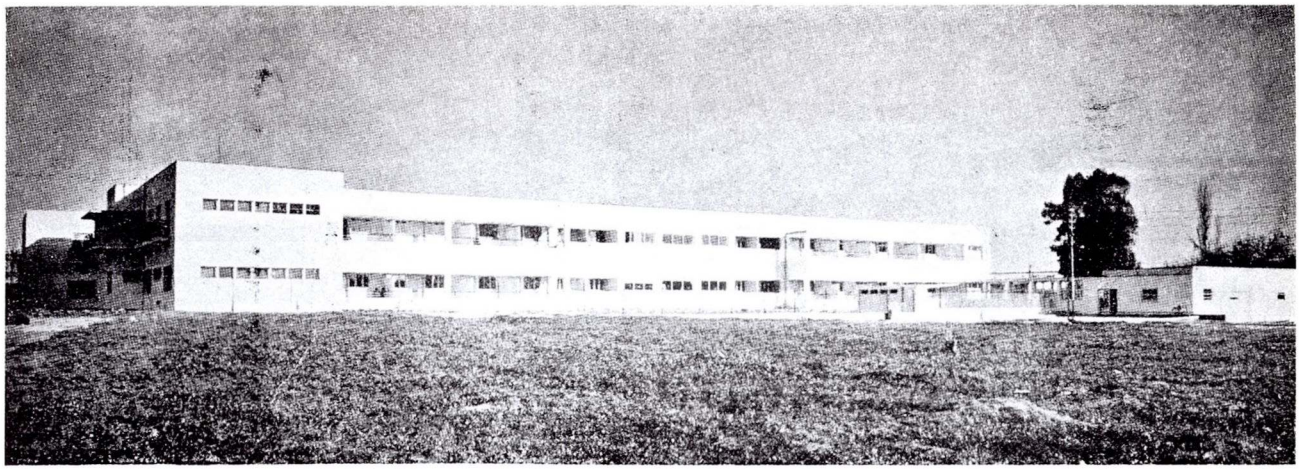
以下はパレスタインに於ける新建築の實例であるが、これを直に歐羅巴やアメリカの標準を以て批判することはいささか酷である樣に思はれる。その理由は工事を急いだものが非常に多いのと、一つは工費の不足である。この兩者は建築の外觀を左右する大きな要素であるからである。

パレスタインの新建築は今日尙その搖籃期にある。實際南歐に於ける新建築の直譯に過ぎないものも決して少くはない。眞にこの地方に適合した建築は寧ろ將來に期待すべきであらうと思ふ。

(Architectural Forum, Dec., 1936 より)



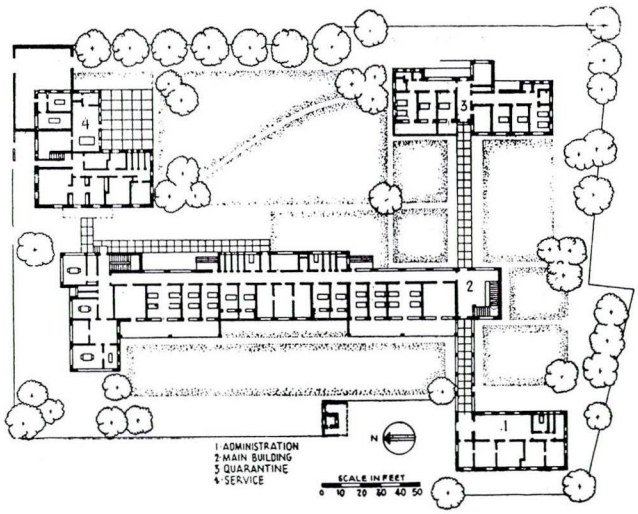
Nahalal 都市計畫鳥瞰圖



事務室及主要病棟外觀

獨逸から追放せられた30人の醫師達に依つて Tel Aviv の郊外に設立せられた病院。收容數80床。獨立の建物は事務所と隔離病室と機械裝置室とである。

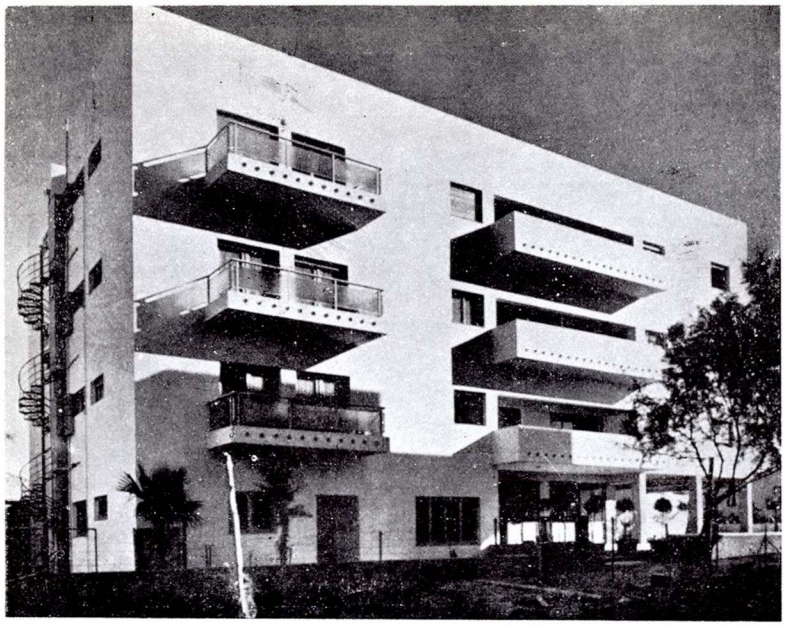
(Achtectural Forum, Dec., 1936 より)



1 階 平 面 圖

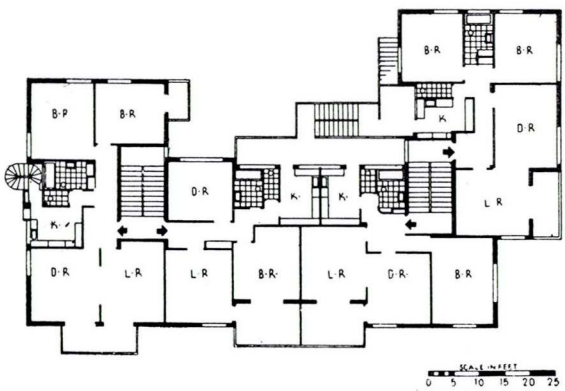


主要病棟、隔離病室及機械裝置室外觀



集合住宅外觀

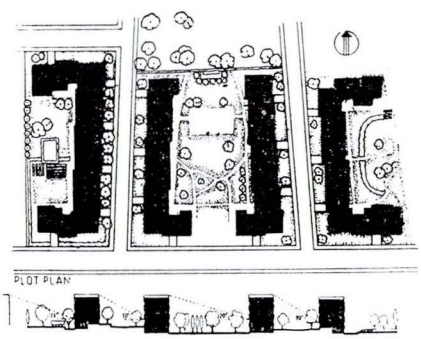
集合住宅平面圖



各戸2室乃至3室に浴室と臺所とが附いて居り1戸當り工費1,900弗である。
(Architectural Forum, Dec., 1936 より)



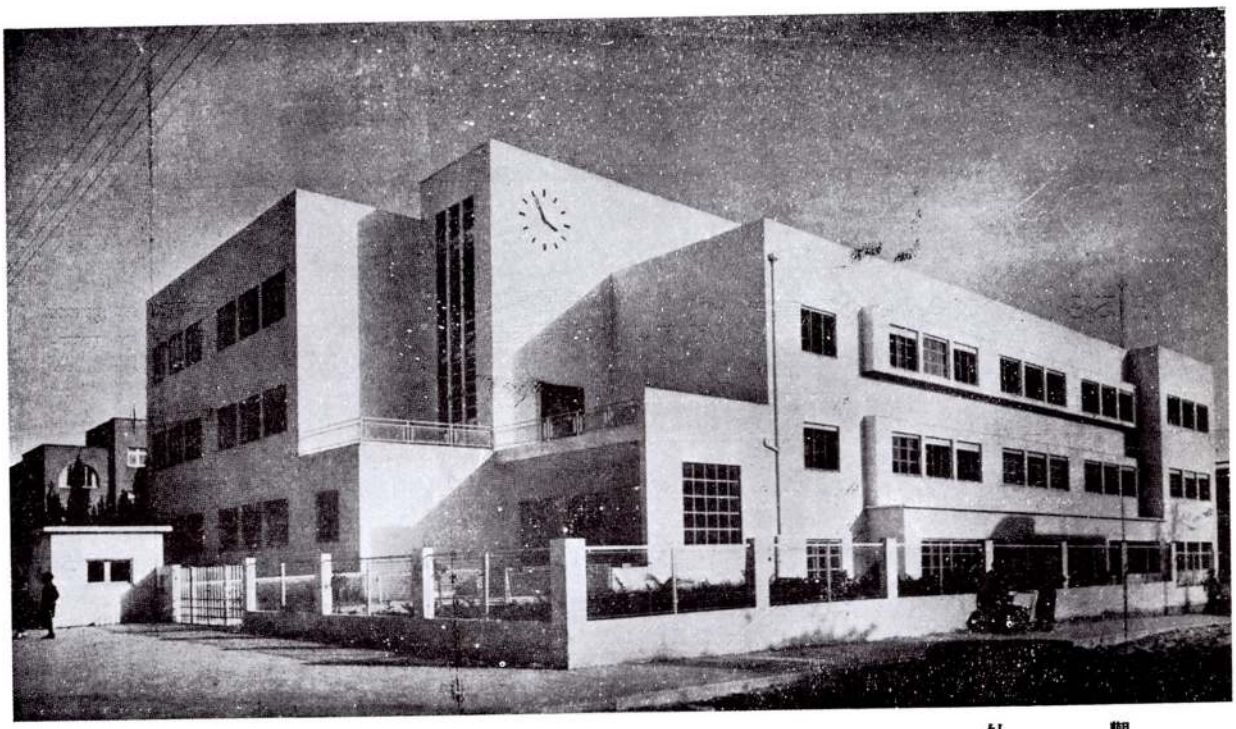
勞働者アパート配置圖



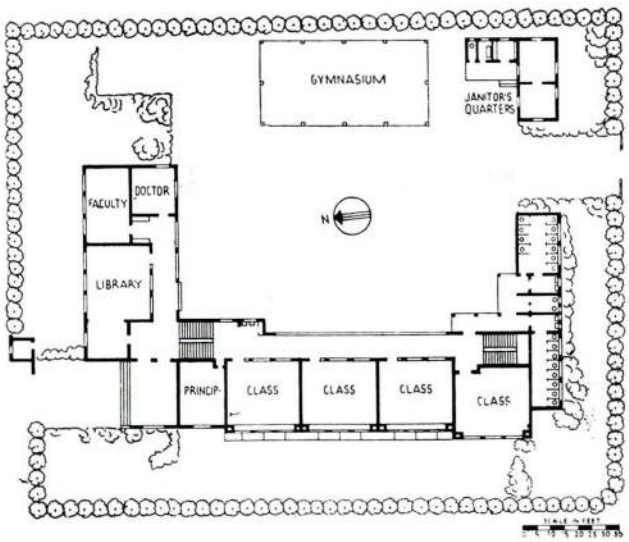
勞働者アパート外觀

II 28 パレスタインの新建築

Tel Aviv の集合住宅 建築家 D. Karmi
Tel Aviv の勞働者アパート 建築家 A. Sharon



外　　觀


GYMNASIUM
JANITOR'S QUARTERS
FACULTY
DOCTOR
N
LIBRARY
PRINCIP
CLASS
CLASS
CLASS
CLASS

1 階 平 面 圖



スタデイアム外觀



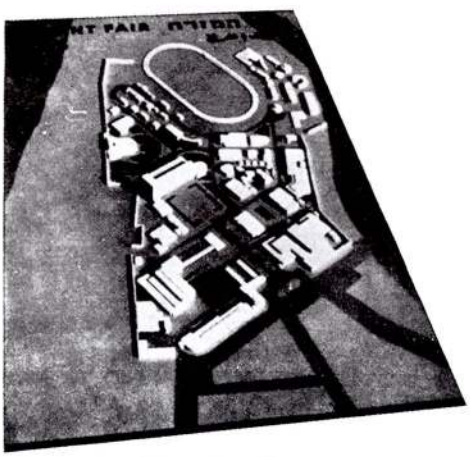
博覽會場一部

Tel Aviv が新しいパレスタインの商業の中心であることであることを世界に示す爲の博覽會が、この都市の北部に開催せられた。建物は半永久的な構造で、設計に關與した建築家の顏振が示す如く非常に新しいものである。

スタデイヤムをはじめ大小さりどりの建築と空地が敷地全體に釣合よくそして巡覽に便利なる樣、配置せられてゐる。

陳列室にはその地方の發展と勞働組合の活動の結果とを示す所の手工業品、英國商品等が數多く陳列せられてゐる。

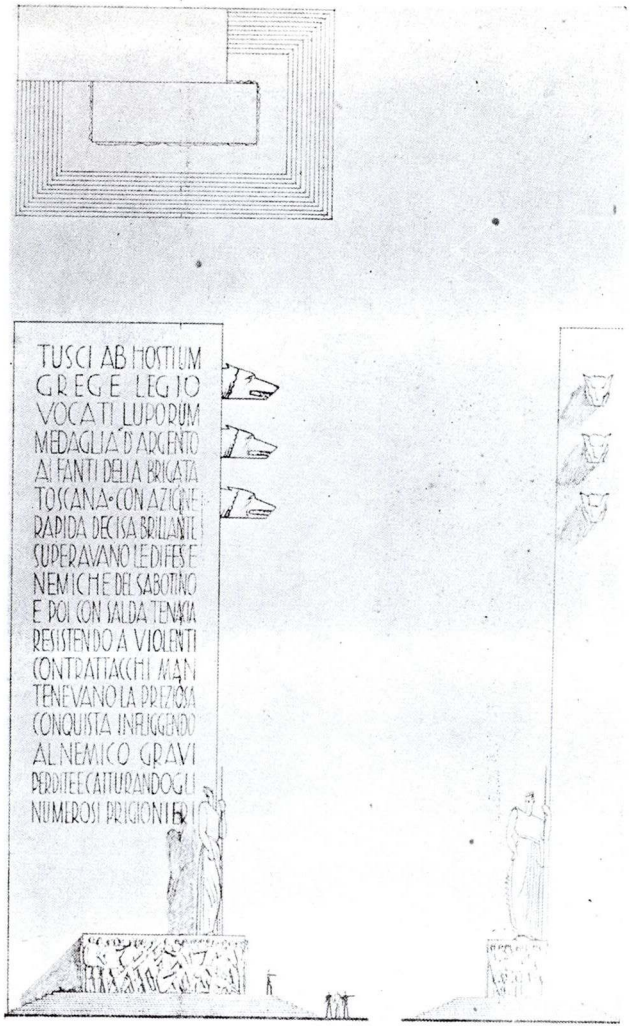
(Architectural Forum, Dec., 1935 より)



建物配置の模型

II 30 パレスタインの新建築 Tel Aviv の博覽會場及スタデイアム

建築家 Richard Kauffmann, M. C. E. Pataky, Joseph Neufeld, Arjeh Sharon, E. Gidoni, A. Averbouch 及 F. Ginsburg.



平面圖と立面圖

高さ47メートル花崗岩のブロックよりなる巨大な碑石

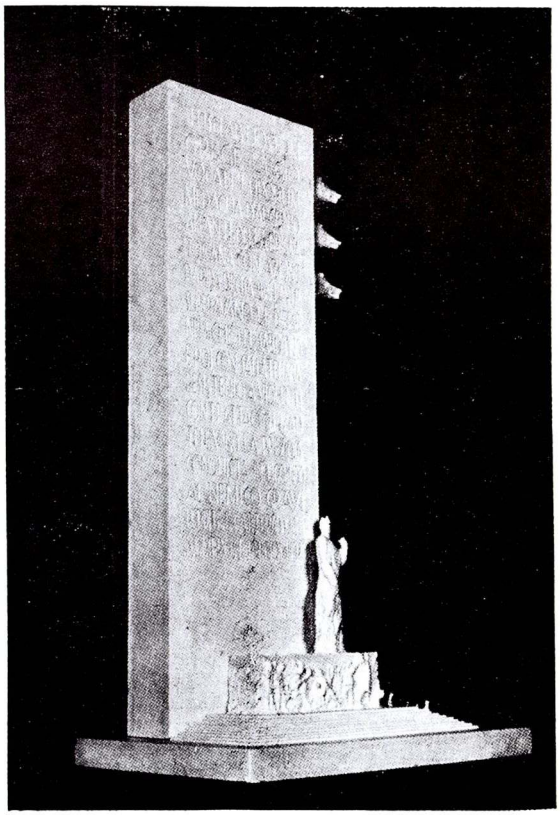
正面には牡狼の頭3個をつけ側面にはダヌンチオの名句と此の旅團の受章勳記を銘する筈であつた。

脚元の祭壇には彫刻家 Giacomo Maselli のモデルによる勝利軍の像を雲斑石に刻み、階段には黑色の石を用ふることに考へられて居たがこの記念碑は實施されなかつた。

(L' Architettura Italiana, Nov., 1936 より)



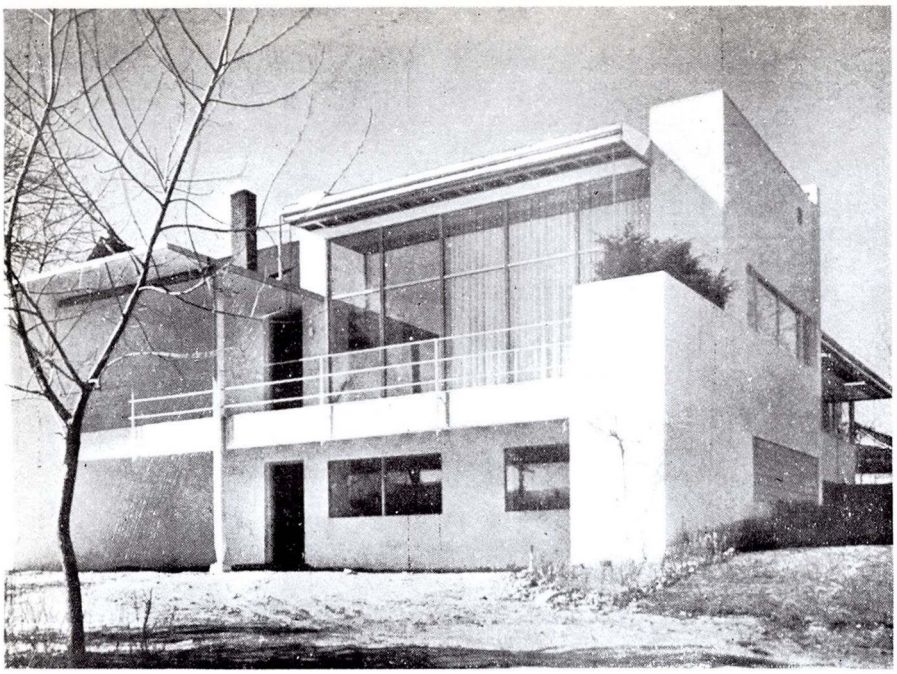
模型1（背景に雲を入れて實感を出してゐる）



模型2

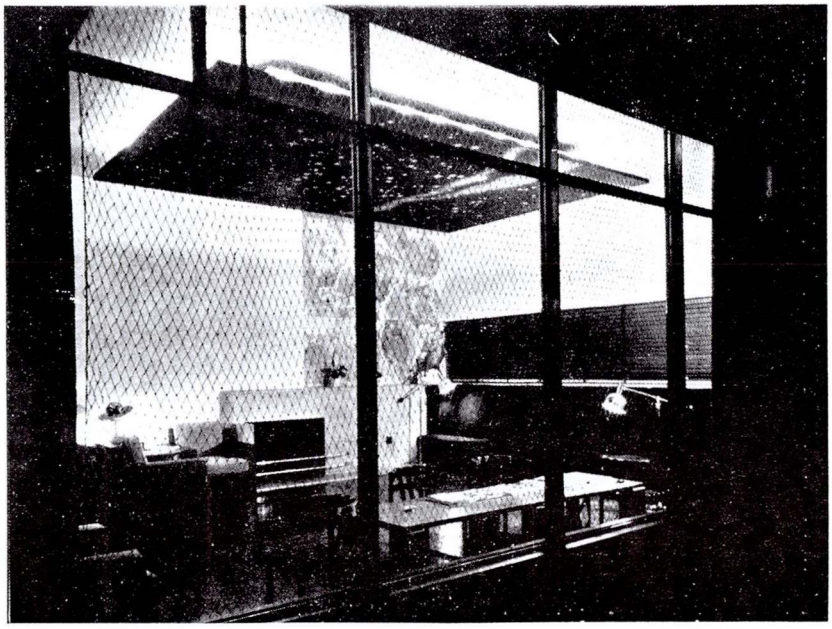
（イタリー） 兵士達への記念碑案（トスカーナ旅團）

建築家 Agnoldomenico Pico

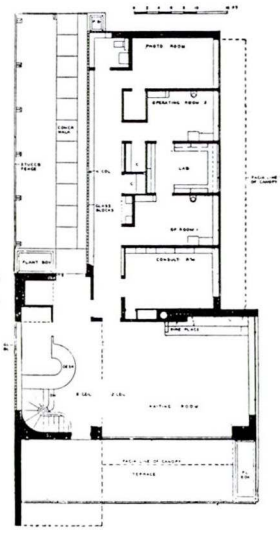


外　　觀

待合室内部



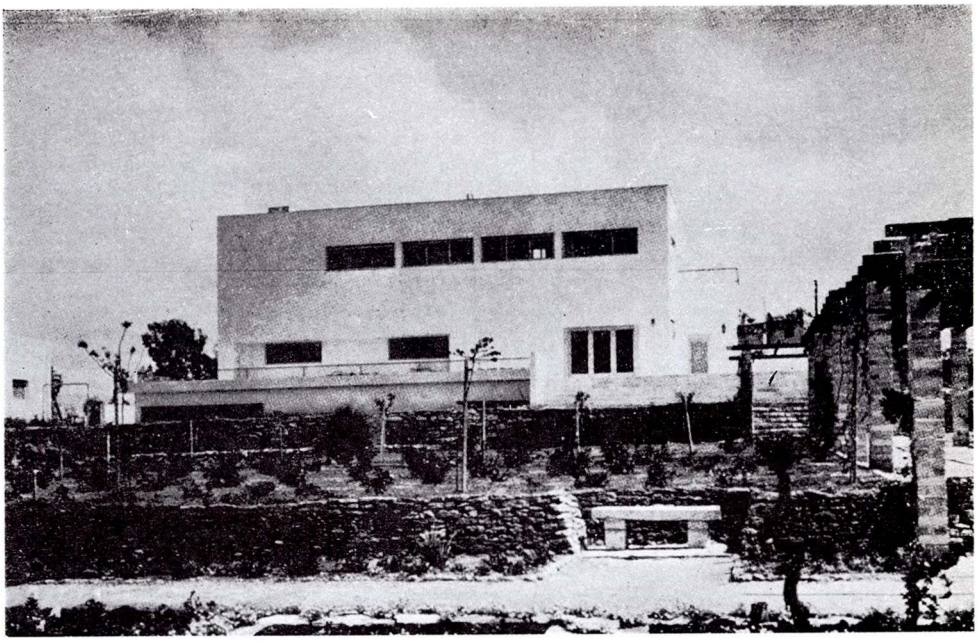
PLANS



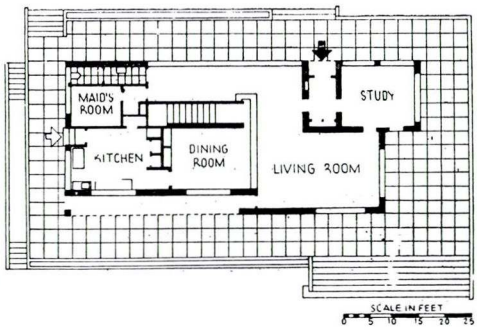
FIRST FLOOR　　平　面　圖

患者の大多數は7才から18才迄の少年であると云ふ齒科診療所である。待合室と遊戲室が主な大きい部屋であつて、特に遊戲室は建物の日當りのよい側に面してゐる。詳細として、この建物の設計から學ぶべき點は普通でない壁際によせた齒科椅子と治療室の窓廻りである。寫眞をみてうまくやつてゐると思へる點は、特別に設計された建築金物、造作、移動電灯、裝備品である。

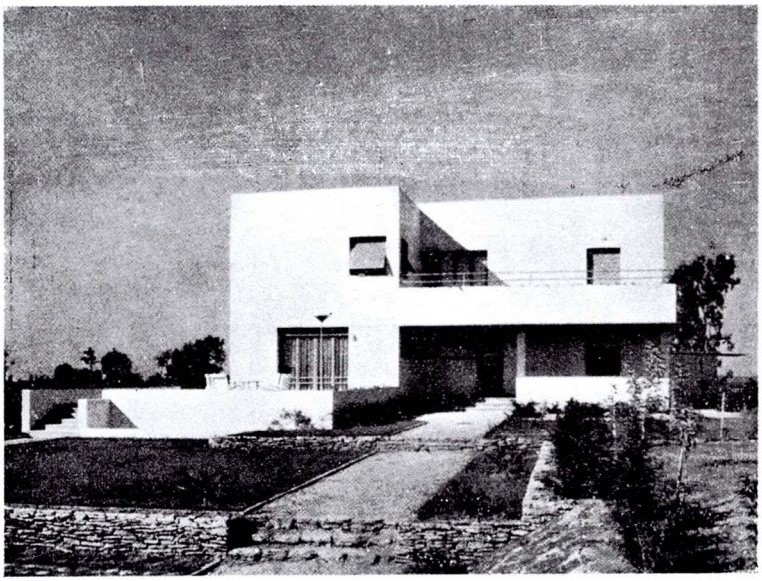
(The Architectural Record, Nov., 1933 より)



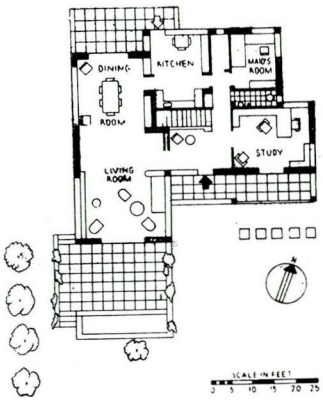
Ramath Gan の 住宅外観



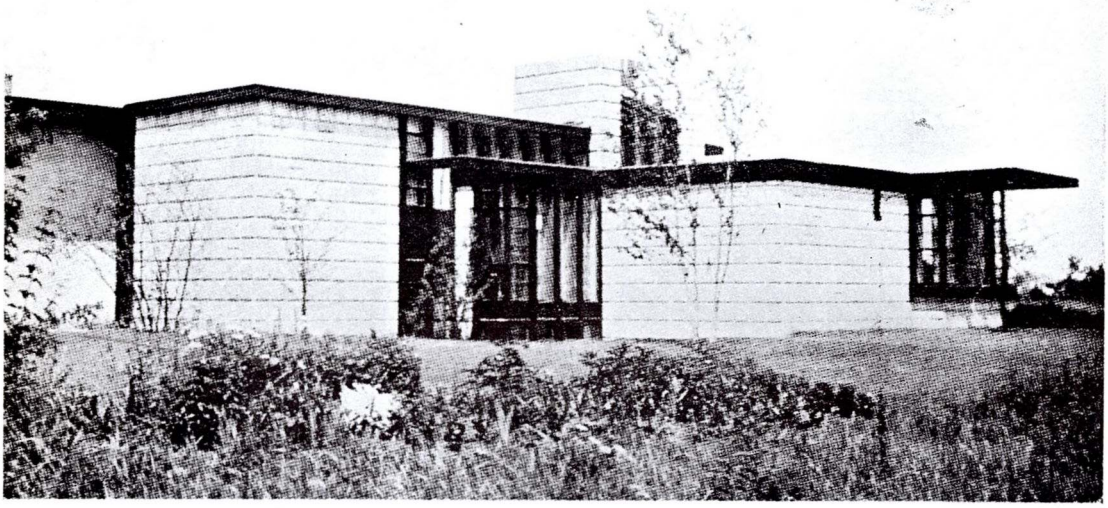
同上1階平面圖



Tel Binjamin の 住宅外観



右1階平面圖



裏側外觀

この住宅の特徴の主なるものは、第一は自由なレベルに巧に配置せられたプランであり、第二はその水平に突出された庇と、ブラインドな壁面と、集中された窓割と、巨大な煙突とから來るライト風の外觀である。

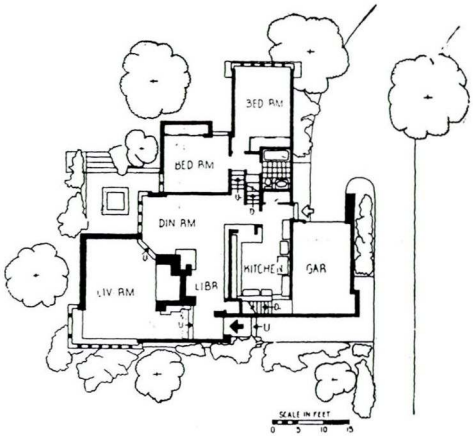
書齋と居間と食堂との中央には巨大な煖爐が設けられ、その3室から利用出來る樣に巧に配置されて居る。煖爐の熱と上部に取られた天窓からの採光とに依つて室内は立派な溫室とに利用される。

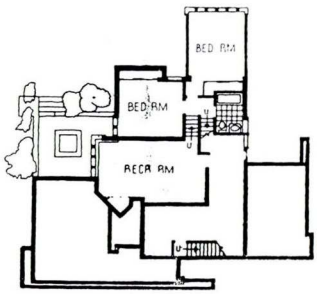
敷地は前方と後方とに道路を控へて居るので、玄關は前面に、自動車庫は後方に取られてゐる。

大さ27,000立方呎、1立方呎當り43セントである。

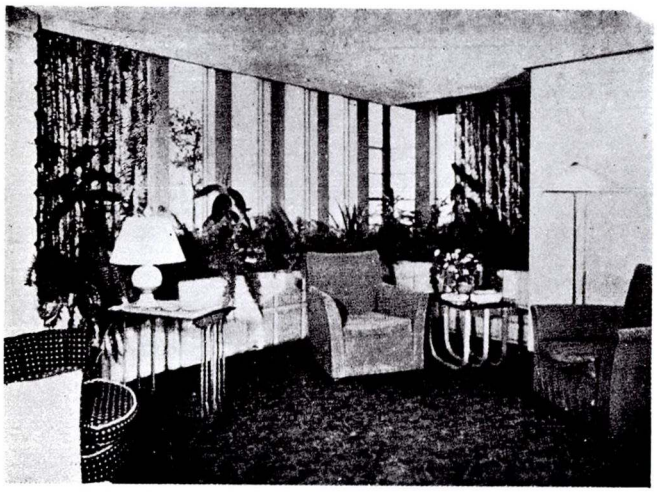
(Architectural Forum, Dec., 1933 より)

二階平面圖





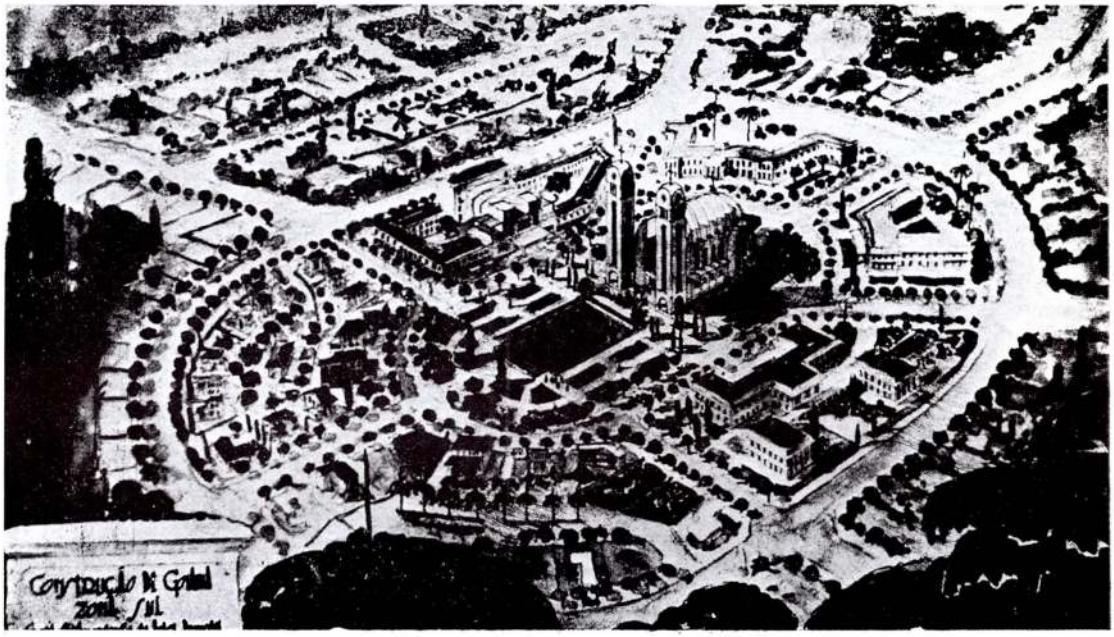
地階平面圖



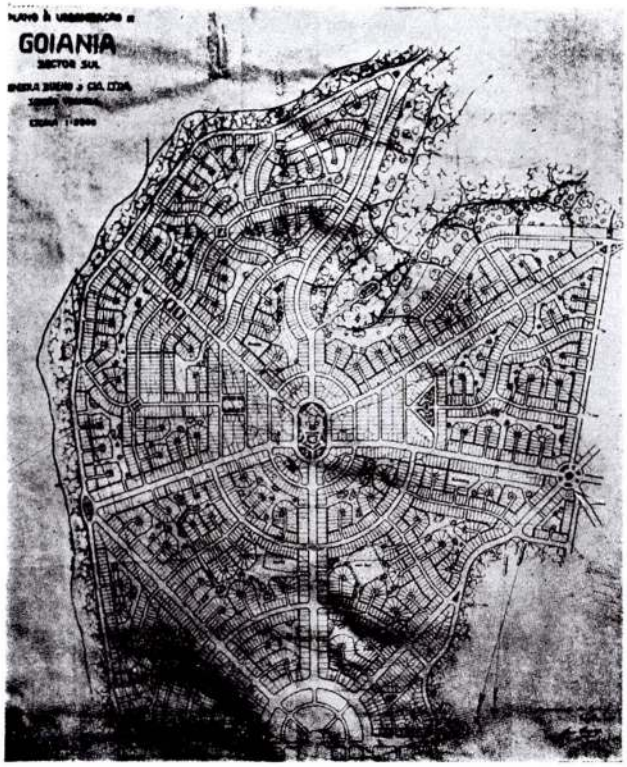
居間内部

34 (アメリカ) ミドランドの住宅

建築家 Alden B. Dow



Goiania の南部計畫圖



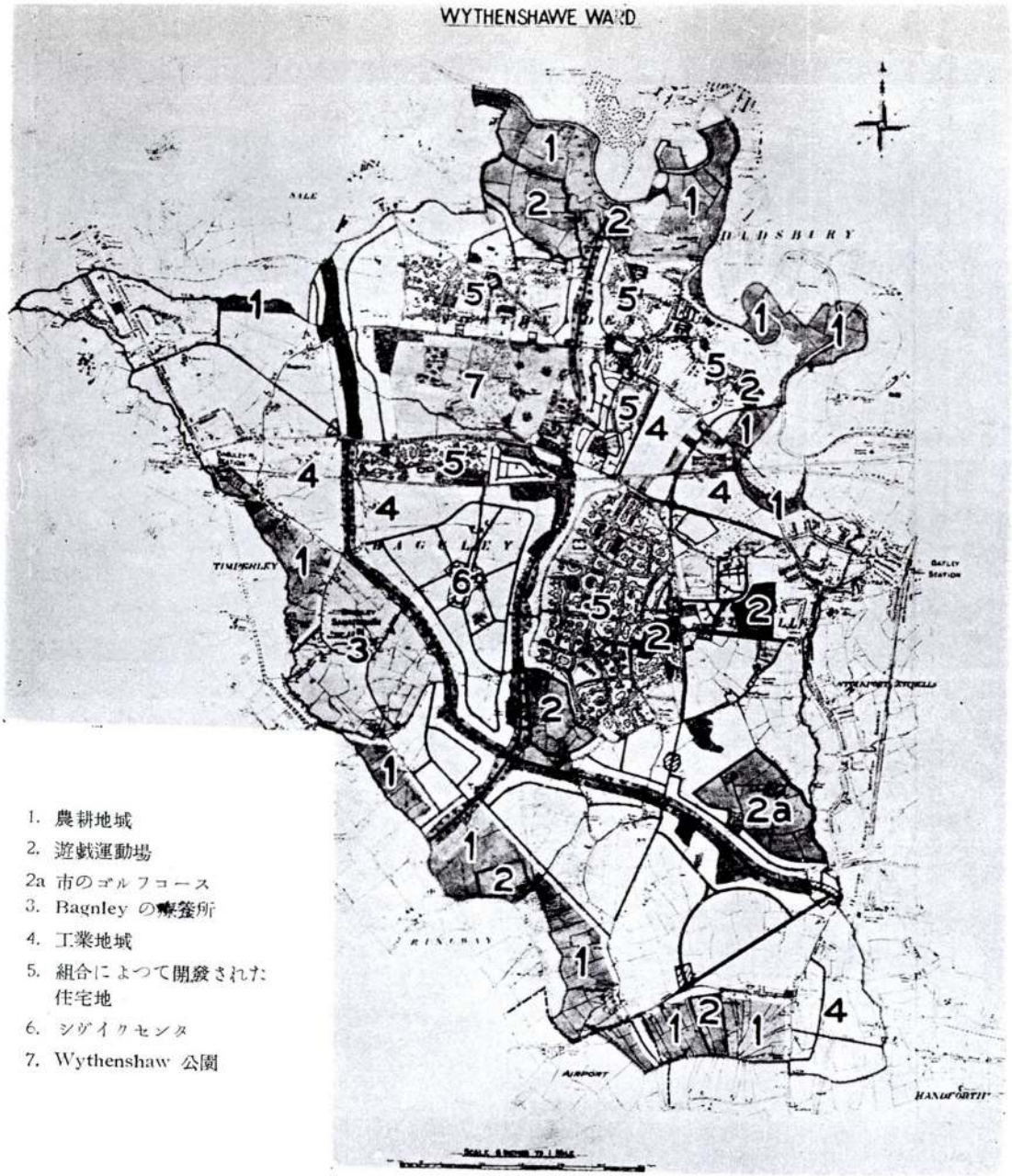
Goiania の中央廣場及シビツクセンターの計畫案

Goyaz はブラジルに於ける中央の大なる州一つである。南アメリカの三大河——Amazon, Sao Francisco 及 Parana.——の流域を占むる、風景畵の如き風光明媚なところの一つにして、一般に健康にして且つ温暖な氣候であるが、之れは此の地方が比較的高燥なるによるのである。自然的な魅力と地域の豐富であることが適接に組み合さつたと云ふ事實がブラジルの首都として此の地を選擇したところの有力なる理由である。更に、肥沃なる地方、適當なる氣候及自然に地理的條件が備つて居るので、Goyaz は全體として此の國で最も富んだ州となり得る可能性はある。

Ludovico Teixeira 博士を州長官として居る現在の州の政府は非常に不適當な位置に存在して居る昔からの Goyaz を現在のところに移すことを決定したのである。法律が制定する以前、博士は市街地開發計畫の研究の爲めに二度ばかり渡米した都市計畫家 Armando de Gody 博士がその位置の狀態の調査を屬托され、此處に述べた如き好ましき報告を州政府になしたのである。此の新都市の北部の計畫には ブラジルに於ける他の都市計畫家 Ottilio Correia Lima 氏が任命された。數年間リオデジヤネロの都市計畫局の局長として居つた Gody 博士はその後 Teixeira 長官によつて、彼れの以前に手がけた計畫を完全な計畫とする事を委囑したのであつた。此の仕事に關し技師の Werner Sonnerberg 及公共建築の計畫を完成した建築家 Salvador Batalha 氏等の助力を得た。

Goiania は50,000人の人口の爲めの計畫で之れが膨脹に就ては周圍に綠地帶(グリーンベルト)を形成して居る公園道路によつて制限されて居る。

(The American City, Nov., 1936 より)



1. 農耕地域
2. 遊戯運動場
2a 市のゴルフコース
3. Bagnley の療養所
4. 工業地域
5. 組合によつて開發された住宅地
6. シヴイクセンタ
7. Wythenshaw 公園

番號の附してない部分は現在殆んど空地にして市又は個人所有の土地である。で、此の土地は將來壹英町に6乃至12家族程度の密度を有す住居地域として指定されてゐる。

白地に斜線を以て示して居る數個の小面積の土地は商業中心地（Shopping center）である。

上記の以外のものは、その原圖にはそれぞれ着色してその用途を示して居る。即ち此處に採錄した圖面で番號の附してないもののなかには、既存及計畫の公園道路、存來又は豫定道路、鐵道、河川、將來の住宅經營地、組合の土地に於ける私的開發地、學校、教會、ホテル、劇場、浴場、圖書館、警察及消防署等がある。

（The American City Nov., 1936 より）

36 （イギリス） マンチエスター市による Wythenshaw 開發計畫



岡口甚吉

眞のブックレビューは、我國には、まだ行はれてゐない。多いのは寄贈書紹介であるが、これはきはめて簡單に、本の序文、或は目次を見て、寸評をこころみたものにすぎない。大新聞では、週に一度位讀書頁をさいて、書籍の批評をのせるが、評者の多くはその書籍の著者の友人か或は門人で仲間ほめに終るものが多い。讀書頁で、批評されてゐる書の、廣告が同じ頁に大きく出てゐたりするといやになる。本誌のブックレビューは、大體本協會への寄贈書を主にするが、その他のものでも比較的新刊で熟讀して、批評、紹介の價値ありと認められるものについて、嚴正なる批評を試みんとするものである。本月號では次の三書の批評をする。

☆

大大阪年鑑　昭和12年版　四六版676頁　1.5圓　大阪都市協會發行、本書は大阪市廳内の大阪都市協會から發行されたものである。その目的は、大阪市の現狀と實勢力を正しく認識把握せしむるにある。内容を通讀してみるに概説、人口、土地建物、行政と政治、貿易、工業等その要目46にわたり、最新と精確な記述でみたされてゐる。その記述法も單なる統計の集まりのみでなく、各要目共、始めに歴史的發達がのべられてゐるから、大阪市を具體的に立體的に把握し得られる。必要のある時、持ち出して見るといふにとどまらず、通讀して面白き讀物でもある。興味的には、「大阪人1人が映畫を1年に何回觀るか」等いふ項目もある。又筆者關係の小項目もあるかと西天滿衞生組合、生野衞生組合等の組長、代表者の名前をもとめてみたが、確實にでてゐる。とにかく、我協會員として、是非1冊はそなへなければならない書籍である。昭和12年版に希望すべきは、

（A）　值を10錢位にすること。
（B）　各項目に必要なる地圖10葉位を挿入すること。
（C）　内容の索引をつけること。
（D）　統計圖表に附記した英語を削除すること。

である。

☆

日本文化私觀　ブルーノ、タウト著　新菊版238頁　3圓　明治書房發行

本書原名は「歐羅巴人の眼でみた――ニッポンの藝術」である。本書は氏の昭和9年に著された「ニッポン」の姉妹篇で、前者が第1印象の新鮮なる記述とすれば、今度の著は在日數年日本文化の内容的研究を發表された氏の日本への置土産である。筆者の考へる所によれば氏の「日本文化私觀」は、我々建築家の間に、不當な程高く評價せられてゐると考へるので、今更本書を紹介する必要もないやうに思はれるのであるが、通讀した感想を略述する。

本書の内容は、「床の間とその裏側」「あきらめ」「メランコリー」、「藝術」「第3日本」の5要目からなつてゐる、本書第21頁にはタウト氏のスケツチにかいる床の間の圖がある。この床の間の壁は半分切斷されて、裏側の便所の中が防臭劑入の瓶まで寫されてゐる。床の間は文化、藝術、自由を便所は武力、經濟、壓制等の象徴かと考へられるが、この兩間の間の葛藤といふ事が、タウト氏の日本文化觀の基本をなしてゐる。この故に、「あきらめ」があり、又青年は「メランコリー」に陷つてゐる。これが藝術に表はれては床の間の精神の勝つたものが優れ、便所の勝つた建築は不可となすのである。「第3日本」は、西歐の文化吸收後の我が日本の文化をさすのであるが、「一體第3――日本――上述の如き渾一せる文化の國日本の曙光は既に、微かながらも照り初めてゐるのであらうか。率直に答へる事が必要であるならば、「否（ナイン）」と答へざるを得ない。」と第325頁に記されてゐる。

私の考へる處によれば、日本文化を二元的に見る處に於て、タウト氏はすでに誤つてゐると信ずる。この二元克服は我々の先祖はすでに鎌倉時代

(さかのぼれば聖德太子の時代)に結末をつけてゐるので、この精神が表はれて、茶室になり小堀遠州になつたものと考へるので、かく考へなければ日本文化の本質は決して理解し得られるものでない。日本文化を靜の境地と見るのも、靜中の動を看取得ざる西洋人の通觀である。兎に角、前著「ニッポン」の藝術批評に比して、氏の文化觀には幾分の言分がある。

然しその記述、議論のたて方、例のとり方に、我々があまりに見なれて、氣づかぬ點を多く指示された點等から我々建築家の是非一讀を望ましい本である。

☆

明治大正建築寫眞聚覽 建築學會編 四六倍版 圖版152葉、3.5圓 建築學會發行、明治時代の研究は明治の終り、大正初期に回顧的に行はれた。當時は資料も多く、且あまりになまなましいのですぐれた業績は表れなかつた。明治研究の第2期は大正12年の大震災以後である。一擧にして明治以來の文物も遺蹟も破壞されて今更の如く明治をふりかへる心持になつたことと、珍資料堀出しの興味等もあり、且當時の民主主義が、明治初年の自由主義檢討によつて新しい生命を得やうの念があつて甚だ盛んであつた。その結果の大きな收穫は「明治文化全集」24卷である。同全集の「自然科學編」又は「西洋建築雜形」なる譯書が載せられてゐる。又、研究家石井研堂氏の「明治事物起原」には建築住居の1項があつて興味多き記事がある。然しなんといつても、上記は一般讀物のこと故、我々のあきたらぬ處がある。本格的に研究されたのは堀越五郎氏の「明治初年の洋風建築」であり、又大熊博士にも多くの論文がある。又、工學會で編した「日本工業史建築篇」は權威あるものではあるが、編者中村博士も云はれた如く、他編との釣合上削除した分多きこと、資料が宮殿關係にのみ多き事等、我々を滿足せしめぬ點がある。この際建築學會に於て昨年の50周年紀念展覽會第3部に出陳して多大の好評を博した「明治大正建築寫眞聚覽」の發刊を見た事は我々の甚だ喜とする處である。ついて見るに明治元年より大正15年迄にたてられた建築中、時代を代表し、社會的に著名で、特徵のある、由緒深き建築を、廣く設計者を網羅し、その寫眞も竣成當時のものによつて250の建物の寫眞を集めたものである。明治大正建築史の唯一の原據的作品である。我々はこの書をながむる事により明治、大正を憶ひ出し、限りなき感慨にふけるのである。關西地方の分も第2圖の造兵寮より最後の第250圖大阪府廳まで30數回が集錄されてゐる。欲を望めば、各建物の主要階平面圖は當時の生活狀態がうかがはれて是非必要なのであるが、これは、美の恒久性の問題と共に後人に遺された2つの問題であらう。

本書は是非建築家として1冊は書齋に備へつくべき書であらう。

(51頁より續く)

第19條 本令ノ施行ニ關スル細則殊ニ地方計畫委員會ノ行政的及財政的職能ニ關スル規定ハ參事院ノ議ヲ經タル命令ヲ以テ之ヲ定ム。

第20條 大統領ハ大統領令ヲ以テ、關係縣會ノ意見ヲ聽キタル後、本會ヲ Haut-Rhin縣 Bas-Rhin 縣及 Moselle 縣ニ適用スル條件ヲ定ムベシ。

第21條 本令ハ Algérie 其他ノ植民地ニ對シテモ之ヲ施行ス。

本令ハ巴里地方計畫ノ施行ニ關スル1935年7月25日ノ大統領令ノ定ムル條件ニ從ヒ巴里地方ニ之ヲ施行ス。

第22條 1919年3月14日ノ法律及1924年7月19日ノ法律第8條及第9條ハ之ヲ廢止ス、

註 前述の如く、1919年3月14日の法律及1924年7月19日の法律第8條及第9條は都市計畫に關する市町村の協同を規定したものである。

會報

常務會（第1回）

時　1月12日午後5時30分—8時
所　建築材料陳列場
出席者　理事　片岡會長　竹腰副會長
松本副會長
監事　渡部監事
常務　井上主記　小川主記
中西主記　樋口主記
清水主計　中村主計
伊藤編輯　新名編輯
堀口編輯　吉田編輯

議事

1. 常務會定例日決定ノ件
2. 1月例會（新年宴會）ニ關スル件
3. 常設各委員會委員、各幹事會幹事半數改選ノ件及各會初回開會ニ關スル件
4. 日本「ポルトランドセメント」同業會ヨリ申出ニ係ル懸賞論文募集ニ關スル件
5. 日本工業新聞社主催國際工業大博覽會後援方ノ件
6. 雜誌寄贈ニ關スル件
7. 昭和11年度常務會引繼事項檢討ノ件
8. 會員詮衡

常務會（第2回）

時　1月18日午後5時30分—7時30分
所　建築材料陳列場
出席者　理事　松本副會長
監事　渡部監事
常務　井上主記　小川主記
中澤主記　中西主記
樋口主記　清水主計
中村主計　伊藤編輯
新名編輯　堀口編輯
吉田編輯

1. 1月例會ニ關スル件
2. 2月例會ニ關スル件
3. 常設各委員會委員、各幹事會幹事半數改選ノ件
4. 各委員會及幹事會初回開會ニ關スル件
5. 昭和11年度常務會引繼事項檢討ノ件
6. 會員詮衡

會員動靜

入會者

會員

石垣　忠男君　特別贊助員より轉格
市場　一市君　神戸市須磨區權現町3ノ79（神戸市役所營繕課）
岩井金三郎君　特別贊助員より轉格
神林富三郎君　尼崎市杭瀨字高田22（尼崎市役所）
木田德太郎君　尼崎市中在家町3ノ324（尼崎市役所營繕課）
武本　眞治君　西成區南神合町33目至方（大阪市臨時校園建設所）
塚原　精君　京都市伏見區深草願成町2（大倉土木株式會社）
中田　猛君　豐中市廐田町1191（株式會社錢高組）
村田　忠興君　東成區東桃谷町2ノ11（尼崎市役所營繕課）
柳澤　暸君　旭區員脇町60（津島組）
山村　和夫君　港區九條通1丁目96ノ1（土木建築負請業）
大坪　哲夫君　東區大手通1ノ26松村組內（株式會社松村組）
垣內　泰雄君　普通贊助員より轉格
角谷　道雄君　東成區生野田島町170（大阪市臨時校園建設所）
谷　信太君　普通贊助員より轉格
西島　勇君　兵庫縣武庫郡瓦木村高木262（大阪府建築課）
濱田　正雄君　府下池田町本町上田長藏方（上田建築事務所）
三浦　耕一君　府下吹田町高畑1465（大阪市臨時校園建設所）
森本多三郎君　住吉區南田邊松原住宅23號（鹿

島組大阪出張所）

渡邊　武男君　普通贊助員より轉格

尾龜清四郎君　普通贊助員より轉格

西村　勝君　京都市左京區北白川西町36（大阪帝國大學營繕課）

三好　傳二君　住吉區阿倍野筋2ノ33 鹿島組内（株式會社鹿島組）

地方會員

濱田　雅安君　德島縣撫養町南濱（自營）

家城　武雄君　宇治山田市二俣町金光通（日本赤十字社三重支部山田病院營繕課）

江藤　良親君　朝鮮羅南生駒町經理部合同宿舍（第19師團經理部）

特別贊助員

森島　四郎君　西成區玉出本通2ノ88（自營）

住田　照夫君　旭區北清水町892（株式會社アサヒラス工業所）

濱田　豐君　西區江戸堀南通1ノ7（合資會社濱田商店）

普通贊助員

東　寬君　東區空堀通3ノ221吉川德三郎方

伊東　一晃君　滿洲哈爾賓埠頭區北安街18ノ1（哈爾賓特別市 公署工務處 營繕科）

池田　晃也君　小倉市京町5ノ193大倉土木株式會社作業所

上西　威君　北區中之島朝日ビル建材社大阪出張所

小田　正二君　此花區中江町45

大津　敏夫君　此花區朝日橋通3ノ13

加藤　太郎君　神戸市林田區前原町1ノ92（置鹽建築事務所）

近藤鄕次郎君　兵庫縣武庫郡精道村打出芳竹目七（近藤商店）

高木　正三君　尼崎市濱字八反田16中井方（尼崎市役所營繕課）

中　甚三郎君　旭區新喜多町198（第4師團經理部工務科）

東本　貞一君　住吉區帝塚山中4ノ57 酒井工務所

森本　光昭君　尼崎市南城內201（尼崎市役所營繕課）

植山陸太郎君　宇治山田市宮川町367ノ6（日本赤十字社三重支部山田病院營繕課）

島田　一君　住吉區安立町4ノ51（堺市役所土木部技術課）

仁木　謙治君　東淀川區三國町731（合名會社竹中工務店設計部）

長谷川文明君　宇治山田市宮後町　山崎榮太郎方（日本赤十字社三重支部山田病院營繕課）

平野利三郎君　宇治山田市日本赤十字社山田病院前（日本赤十字社三重支部山田病院營繕課）

本田松太郎君　北區南同心町2ノ4（大阪市臨時校園建設所）

廣瀨誠司郎君　府下八尾町八尾46（谷建築事務所）

退　會　者

會　員

谷田　實君　富田　哲輔君　吉本　幸一君

小泉嘉四郎君

地方會員

推原　克巳君　伊藤　光君

特別贊助員

横田喜一郎君

普通贊助員

保田　稔男君　佐藤　佐七君　遠山　信造君

中村　重壽君　松田　良雄君

轉　居　轉　勤

會　員

小林　清君　港區西田中町2ノ22

山原　正美君　西成區西萩町40西萩莊園內

古井　康男君　兵庫縣武庫郡精道村打出中田16

田土　春一君　兵庫縣武庫郡大庄村本田沖912

松村　弘之君　住吉區松崎町1ノ53 富士パンション

塚　安治君　旭區貝脇町60

中西　和夫君　豐中市千歲通2丁目角

川上　要君　德島縣板野郡北島村西高房大林組高房出張所

久保田英雄君　東成區東桃谷町1ノ5816

栗岡　忠夫君　北區都島南通2ノ7淺野方
佐々木義夫君　廣島市荒神町249
松本　英雄君　德島市常三島町197ノ3
鈴木　孫市君　旭區江野町466
埴田　達技君　港區磯路町磯路小學校建築事務所
高岡與三吉君　東京市牛込區東五軒町45長組東京出張所(長組)
高橋健三郎君　西淀川區加島町1280
西村駿一郎君　廣島市大手町7ノ32
後藤　武一君　東京市杉並區西荻窪1ノ185(東洋鋼材株式會社川崎工場)
後出　清範君　福井縣坂井郡東十郷村田島後出五郎方
橘詰　直明君　東京市世田谷區代田2ノ674
渡邊　幸藏君　府下豐能郡豐津村垂水
安井　芳治君　京都市中京區西ノ京御輿ケ岡町市立第二商業學校改築工事場鴻池組作業所内
大嶋太一郎君　名古屋市西區北押切町切鍬67伊藤工務店名古屋支店
大村　春方君　府下北河内郡友呂岐村香里櫻ケ丘
須崎　幸次君　府下泉南郡春木町磯之上小學校前國道東
前原大二郎君　住吉區阿部野筋5ノ17 アパート福屋
渡邊　久雄君　神戸市灘區德井弓ノ木町19
久田　艮吉君　住吉區桑津町264ノ1

地方會員

山本　艮一君　新京特別市城後路白山住宅341牧野正巳方(滿洲國營繕需品局營繕處)
本田明三二君　大津市金塚町32
手代木善根君　府下吹田町1412
湊　　裕君　東京市北多摩郡三鷹村牟禮383
永澤　龍雄君　東京市小石川區宮下町56
守谷　　茂君　東淀川區三津屋中通3ノ62
森野　和夫君　京城府青葉町2ノ9
竹内　六藏君　東京市澁谷區氷川町9
古川　　豐君　福岡市藥院古濱34
吉村　幾藏君　長崎市下西山町9間組合宿所内

特別賛助員

牧浦　定司君　府下中河内郡長瀬村金岡208

普通賛助員

福田　峯雄君　東淀川區三津屋町14(鹿島組大阪營業所)
井奥　　進君　西宮市津門字高松阪急野球場建築場竹中出張所
高木　　登君　神戸市神戸區山本通4ノ97
吉澤　千吉君　東京市豐島區池袋3ノ2480 泰正館内
山田　貞夫君　長野縣上田市鐘紡上田工場建築係
白井　俊雄君　廣島市外府中村キリンビール會社建築場
角谷　一郎君　西區土佐堀3ノ24錢高組内
羽野　健作君　久留米市櫛原町1丁目10ノ5
後藤　幸男君　港區南八幡屋町2丁目57ノ2堤次郎方
山口　　均君　住吉區北田邊町743
片山　一郎君　京都市中京區坊城三條下ル竹中工務店京都支店
熊野　　茂君　旭區赤川町4丁目平和館(大阪市役所經理部營繕課)
田村　忠雄君　京都市吉田二本松町17柳田方
西村　　勤君　神戸市湊東區福原町391ノ2
正岡　　晉君　北區東野田町9ノ4有馬館内

死　　亡

會　　員

高橋　　茂君　昭和11年12月27日逝去

名譽賛助員

高山　長幸君　昭和12年1月19日逝去

(謹んで哀悼の意を表す)

會員名簿(昭和12年度)正　誤

73頁　山口正城の行中　住吉區住吉町1311長谷川方とあるは**府下中河内郡八尾町八尾71**の誤り

74頁　山中茂一の行中　電北濱とあるは**本町**の誤り

同頁　山本正重の行中勤務先は**古賀建築事務所**で旭區今福町60大阪工場共會とあるは**旭區今福町134古賀繁登方**の誤り

97頁　堀田猶次郎の行中　猶次郎とあるは**猷次郎**の誤り

編輯後記

◆2月號の編輯は正月に全ての準備を整へなければならないから、何うしても遲れ勝になる。今年こそはと手廻しよく事を運んだ積りだつたが、それでやはり4、5日遲れることになつた。お正月で原稿蒐集難が原因の主なるものである

◆本月號は筆者の顔振は多くはないが、內容は可成大部のものとなつた。就中龜井君譯の「衛星都市の意義」が卷を壓してゐる。都市計畫の1資料として一讀を願ふ。

◆宮田、元良、森、尾崎の諸氏には御多忙中を特に、本號の爲に執筆を依賴した。發行日の正確の爲に催促極めて急で御迷惑の多かつた點多謝、御寬恕を乞ふ。

◆本號より新刊書紹介欄「ブック・レビュー」を設け堀口甚吉氏が擔當せられることとなつた。次第に廣い範圍に擴大せられる豫定である。

◆物價騰貴の影響を受けて本誌の編輯豫算は恰も約2割の削減に遭つたと同樣である。內容を縮小することなく何等かの方法でこれを切り抜け度いと考究中であるが、或は幾分頁數の減少を餘儀なくせられないとも限らぬ。この點豫め御諒承あらむことを。

◆3月號は交通に關する諸建造物を中心とした特輯號の豫定である。この方面の會員諸氏の投稿を期待する。（新名）

建築と社會

第20輯第2號

毎月1回1日發行　定價　1册 50錢(郵稅2錢)　12册 6圓(同 24 錢)

昭和12年1月25日印刷　昭和12年2月1日發行

發行・編輯　印刷人　小板常男

大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　大石堂印刷所

大阪市北區玉江町1丁目11番地

發行所　社團法人　日本建築協會

大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル

電話長北濱(23)4501番(9)

振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店

大阪市西區京町堀羽子板橋西

電話土佐堀2440番

振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15·00
普通	½頁	1回	8·00
普通（背附第1頁）	1頁	1回	45·00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40·00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25·00
アート（中挿）	½頁	1回	20·00
表紙2	1頁	1回	60·00
表紙3	1頁	1回	45·00
表紙4	1頁	1回	80·00
建築事務所錄	1欄	1回	1·50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5·00

廣告掲載御申込は本會直接願ひます。

本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築と社會第20輯第2號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……32
　朝日建材株式會社……表紙 2
　淺野スレート株式會社……31
　淺海商會……27
イ　岩元工業株式會社……27
エ　榮進社……30
　英進商會……35
　荏原製作所……10
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　大阪伊丹商店……24
　大阪組立コンクリート製作所……40
　岡田建材店……38
　大野製作所……前附 1
　奥村重兵衛商店……11
カ　關城化學工業株式會社……表納 4
　金岡養樹園……中挿
キ　桐田商會……26
　協和製作所……39
ク　黒川化學工業所……23
　久保商店……39
　窪島プレス工業所……17
コ　後藤商店……38
　金剛商會……25
　工英社……15
サ　佐渡島酉店……45
　佐久間パブコ工業株式會社……44
　坂本商會大阪支店……35
　坂田ベンチレーター製作所……42
ス　須賀商會……48
セ　政正合資會社……41
　清光社……42
タ　田島應用化學工業所大阪支店……前附 4
　大和工業株式會社……8.9
　大洋組建材部……24
　ダンロップ護謨株式會社……中挿
チ　チヨーホー商會……19
ト　東洋リノリユーム株式會社……表紙 3
　東京電氣株式會社……33
　東京相互別木工所大阪出張所……46
ナ　内外土木建築材料合資會社……21
　南滿鑛業株式會社……29
　名古屋製陶株式會社……7
ニ　日本建築紙工株式會社……41
　日本金具株式會社……前附 5
　日本放熱器商會大阪支店……13
　日本陶織社……25
　日本ドアチエツク製作所……16
　日本パイプ製造株式會社……18
　西原衛生工業所……22
　西孫南店建築金物部……28
ノ　野澤幸三郎商店……47
ハ　長谷川利彦商會……44
　播磨造船所木材部大阪出張所……46
　汎建製作所……20
フ　藤田商會……12
　福原商店大阪支店……19
ホ　邦光化學工業所……14
　北辰商會……20
　ボルネオ物産商會大阪出張所……46
マ　松井商店……40
ミ　三井物産株式會社……43
ヤ　矢橋大理石商店……37
　大和護謨製作所……36
ヨ　横河橋梁製作所……34
　米本榮商店……37
ラ　ライトラバー工業合資會社……23
リ　理化學興業株式會社……前附 3
　リーダ建材工業株式會社……中挿
レ　玲光社(木内眞太郎)……29